

TREND-ONE

コマンドリファレンス

TREND-ONE の各プログラムのコマンドを紹介しています。
コマンドの詳細はヘルプを参照してください。



※解説内容がオプションプログラムの説明で
ある場合があります。
ご了承ください。

目次 TREND-ONE コマンドリファレンス

現場管理の画面構成	1
現場管理のコマンド	2
メインメニューの画面構成	8
共通機能のコマンド	9
座標管理の画面構成	18
座標管理のコマンド	19
地番管理の画面構成	21
地番管理のコマンド	22
CADの画面構成	24
CADのコマンド	25
各階平面図のコマンド	45
宅地割り計画のコマンド	51
電子野帳取込のコマンド	53
電子野帳座標入出力のコマンド	54
電子レベルの取込みのコマンド	55
トラバース計算のコマンド	55
逆トラバース計算のコマンド	56
交点計算のコマンド	57
座標プリントのコマンド	57
ST計算のコマンド	57
用地境界点計算のコマンド	58
拡幅計算のコマンド	58
境界点成果対比計算のコマンド	58
直線巾杭計算のコマンド	58
スライド計算のコマンド	59
回帰直線のコマンド	59
定面積分割のコマンド	59

地番プリントのコマンド	60
面積計算のコマンド	60
街区一連計算のコマンド	60
多角形座標変換のコマンド	60
凸凹補正計算のコマンド	61
路線地番交点計算のコマンド	61
N点固定面積調整変換のコマンド	61
基準点測量のコマンド	61
ST計算(検定)のコマンド	65
経緯度座標変換(検定)のコマンド	65
水準測量のコマンド	65
点の記のコマンド	67
数値地籍情報のコマンド	67
精度管理表(座標)のコマンド	67
地積測定のコマンド	67
路線測量のコマンド	67
縦横断測量のコマンド	71
土量計算のコマンド	79
座標変換のコマンド	79
座標変換(BL)のコマンド	79
経緯度変換のコマンド	79
面積調整変換のコマンド	80
ヘルマート変換のコマンド	80
座標変換(世界測地系)のコマンド	80
座標変換(PatchJGD準拠)のコマンド	80
精度管理表(距離)のコマンド	81
精度管理表(世界測地系)のコマンド	81

偏心補正計算のコマンド	81
座標地番アスキーのコマンド	82
太陽による方向角計算のコマンド	82
舗装展開図のコマンド	82
簡易舗装展開図のコマンド	83
法面展開図のコマンド	84
斜面積展開図のコマンド	84
擁壁展開図のコマンド	85
登記用XML作成のコマンド	86
法務省フォーマット作成のコマンド	87
14条調査表のコマンド	87

現場管理の画面構成

現場管理の画面まわりの機能を確認します。



現場管理の画面構成	
タブ	リボンを切り替えます。
リボン	リボンはタブとグループで構成されています。作業内容に応じて必要なコマンドがグループ化されています。
現場一覧	ウィンドウ右側には「現場一覧」が表示されます。工区一覧でクリックした工区内の現場データが一覧表示されます。
工区一覧	ウィンドウの左側には「工区一覧」が表示されます。最初に起動した段階では「未分類」「ごみ箱」という名称の工区が作成されています。必要に応じて、任意の工区を作成します。[現場一覧]には、選択した工区に登録されている現場データが一覧表示されます。
現場一覧	ウィンドウ右側には「現場一覧」が表示されます。工区一覧でクリックした工区内の現場データが一覧表示されます。

現場管理のコマンド

[ファイル]タブ	
[現場一覧の印刷]	一覧に現在表示されている、すべての現場情報を印刷します。
[作業データの印刷]	現場の作業データの一覧を印刷します。
[リンクの印刷]	現場のリンクデータの一覧を印刷します。
[メールの送信]	※ローカル現場のみ 選択した現場データを、メールで送信します。現場データはONZ形式に変換されます。リンクデータが存在する場合は、LONファイルも同時に出力します。
[CIMPHONY]－[アクセス設定]	CIMPHONYのID・パスワードを入力しておけば、CIMPHONYへのアクセス時に自動ログインします。※オプションサービスが必要です。
[CIMPHONY]－[ブラウザ確認]	CIMPHONYサイトをブラウザで開きます。[ファイル]タブ－[CIMPHONY]－[アクセス設定]で、ID・パスワードを入力しておけばログイン状態で表示します。※オプションサービスが必要です。
[3Dビュー]	3Dビューを表示します。
[オプション]	プログラムの各種設定をおこないます。現場管理でローカル現場またはサーバー現場を選択して、このコマンドを実行してください。ローカル現場とサーバー現場では、設定が異なります。
[現場管理の終了]	《現場管理》を終了します。
[ホーム]タブ	
[工区作成]	任意の名称の工区を新規作成します。
[編集]－[編集]	工区の情報を変更します。
[編集]－[並べ替え]	工区の並べ替えを行います。[未分類][ごみ箱]工区は、並べ替えの対象外です。
[編集]－[所属を変更]	工区の所属工区を変更します。[未分類]および[ごみ箱]の工区は、変更できません。
[編集]－[詳細]	※ローカル現場のみ 工区の情報を確認します。
[複写]	選択した工区を複写します。ただし工区内の現場データは複写されません。[未分類]および[ごみ箱]の工区は、複写することはできません。
[削除]	工区を削除します。ただし、現場が登録されている工区を削除することはできません。工区内の現場を移動するか削除してから、工区を削除してください。また、複数の工区を一度に削除することはできません。 [未分類]および[ごみ箱]の工区は、現場のあるなしにかかわらず、削除することはできません。
[ゴミ箱]－[現場を元に戻す]	削除して「ごみ箱」工区に移動した現場を、元の工区に戻します。
[ゴミ箱]－[空にする]	「ごみ箱」工区内のすべての現場を、ハードディスクから削除します。
[現場作成]	新規に現場を作成します。
[開く]	選択されている現場を開きます。複数の現場を選択した場合は、選択した全ての現場を起動します。
[編集]－[並べ替え]	現場情報の項目を利用して、現場の表示順序を並べ替えます。並べ替えは、全工区の現場が対象となります。
[編集]－[項目の設定]	現場一覧項目の表示/非表示の切り替え、および項目の並べ替えを行います。

[編集]-[すべて選択]	現在選択されている工区内の全現場を選択します。複数の現場を一度に他の工区へ移動させる場合などに使用します。
[編集]-[所属工区を変更]	現場を他の工区へ移動します。複数の現場を移動させることもできます。
[編集]-[現場フォルダ名を変更]	現在選択されている現場データの保存先フォルダ名を変更します。
[編集]-[現場データの保存先を変更]	※ローカル現場のみ 現在選択されている現場データの保存先フォルダを変更します。
[編集]-[リンク保存先を変更]	現在選択されている現場のリンクフォルダの保存先フォルダを変更します。
[複写]	現在選択されている現場データを複写します。リンクフォルダも複写されます。
[削除]	現在選択されている現場を「ごみ箱」工区へ移動します。複数の現場を同時に削除することもできます。
[現場の情報]	「現場の情報」を開きます。各項目の編集も可能です。
[作業データ]	「作業データ」の一覧を開きます。表示された作業データをダブルクリックして開くことも可能です。
[リンク]	「リンクデータ」の一覧を開きます。
[現場の抽出表示]	現場一覧の項目で条件を入力し、現場を抽出表示します。抽出表示は全工区の現場が対象となります。
[現場の検索]	入力した検索キーワードで現場情報のすべての項目を検索し、一致する現場を現場一覧に表示します。
[読込]タブ	
[現場]	バックアップした現場をリストア(復元)します。リストアした工区および現場ファイルは、元の工区に同じ現場名称で復元されます。ただし、リストア先に同じ現場名の現場が存在するときは、現場名の先頭に「リストア～」と付きます。
[全設定]	すべての設定を、一括リストア(復元)します。リストア対象ファイルの拡張子は、「*.BLZ」「*.BZL」です。
[各種データ]-[X-FIELD/XYCLONEデータ]	バックアップしたX-FIELD/XYCLONEデータをリストア(復元)します。リストア対象ファイルの拡張子は、「*.Fxb」「*.Ugb」「*.Gnb」です。リストアしたデータは、バックアップをした時のX-FIELD/XYCLONEデータと同じファイル名で作成されます。ただし、リストア先に同じファイル名のX-FIELD/XYCLONEデータが存在するときは、リストア途中にファイル名を変更するように表示されます。
[各種データ]-[点の記(旧形式)データ]	バックアップした点の記(旧形式)データのリストア(復元)を行います。リストア対象ファイルの拡張子は、「*.PH2」「*.PH3」です。リストア先に同じ名前の点の記データが存在する場合は、点の記データ名に、～1、～2と番号が付きます。
[各種データ]-[3Dビュー]	バックアップした3Dビューデータのリストア(復元)を行います。リストア対象ファイルの拡張子は、「*.xbd」です。リストア先に同じ名前の3Dビューデータが存在する場合は、3Dビューデータ名に、～1、～2と番号が付きます。
[各種データ]-[地積等調査一覧表(14条調査表)フォーマット・データ]	バックアップした地積等調査一覧表(14条調査表)フォーマット・データのリストア(復元)を行います。リストア対象ファイルの拡張子は、「*.xbr」です。リストア先に同じ名前の地積等調査一覧表(14条調査表)フォーマット・データが存在する場合は、データ名に、～1、～2と番号が付きます。

[各種データ]－[既定フォルダーに取込み]	バックアップされた各種データファイルを、既定のフォルダーにリストア(コピー)します。コピー対象のデータは、 <ul style="list-style-type: none"> ・3Dビューデータ ・Txtフォルダーデータ ・DMTxtフォルダーデータ ・X-FIELD／XYCLONEデータ ・点の記データ ・Pocketデータ ・地積等調査一覧表(14条調査表)データ・フォーマットです。
[設定]－[フリーフォーマット]	バックアップした設定ファイル(フリーフォーマット)をリストア(復元)します。
[設定]－[プロットマーク]	バックアップした設定ファイル(プロットマーク)をリストア(復元)します。
[設定]－[構造物コード表]	バックアップした設定ファイル(構造物コード表)をリストア(復元)します。
[設定]－[標準断面]	バックアップした設定ファイル(標準断面)をリストア(復元)します。
[設定]－[方位マーク]	バックアップした設定ファイル(方位マーク)をリストア(復元)します。
[設定]－[シンボル]	バックアップした設定ファイル(シンボル)をリストア(復元)します。
[設定]－[パラメトリック]	バックアップした設定ファイル(パラメトリック)をリストア(復元)します。
[設定]－[SXF属性セット]	バックアップした設定ファイル(SXF属性セット)をリストア(復元)します。
[設定]－[構造物数量マスター]	バックアップした設定ファイル(構造物数量マスター)をリストア(復元)します。
[設定]－[建物部品]	バックアップした設定ファイル(建物部品)をリストア(復元)します。
[ONZ,XAZデータ]	※ローカル現場のみ TREND-ONEのONZファイル、BLUETRENDXAのXAZファイルを取り込みます。
[BTVデータ]－[ファイルの指定]	ファイルを直接指定して、BLUETRENDVで作成した現場データ(*.btw)を、TREND-ONEで使用できるようにコンバートします。
[BTVデータ]－[フォルダーの指定]	フォルダーを指定して、BLUETRENDVで作成した現場データ(*.btw)を、TREND-ONEで使用できるようにコンバートします。
[登録済みBTVデータの一括コンバート]	《現場管理》に登録されたBLUETRENDVのデータ(*.btw)を、TREND-ONEで使用できるようにコンバートします。BLUETRENDVのデータ(*.btw)は、現場のイメージ部分にアイコンが表示されます。
[TeamGEO]－[Active現場の取込み]	※ローカル現場のみ TeamGEOActiveでバックアップした現場データから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。
[TeamGEO]－[Activeパーツデータの取込み]	※ローカル現場のみ TeamGEOActiveパーツデータをコンバートします。TeamGEOActiveの1パーツフォルダーのデータが、シンボルデータ・方位マークデータのファイルになります。
[TeamGEO2]－[現場の取込み]	※ローカル現場のみ TeamGEO2で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。
[TeamGEO2]－[パーツデータの取込み]	※ローカル現場のみ TeamGEO2パーツデータをコンバートします。TeamGEO2の1パーツフォルダーのデータが、シンボルデータ・方位マークデータのファイルになります。
[Mercury]－[Mercury-Evoluto現場の取込み]	※ローカル現場のみ Mercury-Evolutoで作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。

[Mercury]－[Mercury-WinII現場の取込み]	※ローカル現場のみ Mercury-WinIIで作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。
[WingNeo4現場]	※ローカル現場のみ WingNeo4で作成した現場データから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。
[デコルス/AXコスモス現場]	※ローカル現場のみデコルス/AXコスモスで作成したデータから、現場情報・座標・地番・CADデータをコンバートします。
[書込]タブ	
[現場]	現場のバックアップを行います。
[全設定]	すべての設定を、一括バックアップ(保存)します。
[各種データ]－[X-FIELDデータ]	※ローカル現場のみ X-FIELDデータのバックアップを行います。バックアップ元にX-FIELDデータ(*.XFD)と同名のリンクファイルデータ(*.XLF)が存在する場合は、XLFファイルもバックアップされます。
[各種データ]－[点の記(旧形式)データ]	《点の記作成支援ツール》で作成した点の記データ(初期フォルダーは「¥OtherData¥PhotoData」)のバックアップを行います。バックアップする点の記データ毎に、バックアップファイルが作成されます(1つの点の記データ毎に1ファイル)。バックアップファイルのファイル名は、「点の記データ名.PH3」というファイル名になります。バックアップ先に同じファイル名のバックアップファイルが存在する場合は、バックアップファイル名に、～1、～2と番号が付きます。
[各種データ]－[3Dビュー]	《3Dビュー》で作成した3Dビューデータ(初期フォルダーは「¥OtherData¥3DView」)のバックアップを行います。
[各種データ]－[地積等調査一覧表(14条調査表)フォーマット・データ]	BLUETRENDXA2012以前の《地積等調査一覧表作成ツール》で作成したデータ(現場名_*.D14)、および《帳票フォーマット作成ツール》で作成したフォーマットのバックアップを行います。「¥OtherData¥Chi14JData」フォルダー内の「現場名_*.D14」と「*.pf3」が対象です。
[各種データ]－[別フォルダーへコピー]	既定のフォルダーの各種データファイルを、別フォルダーにコピー(バックアップ)します。コピー対象のデータは、・3Dビューデータ・Txtフォルダーデータ・DMTxtフォルダーデータ・X-FIELD/XYCLONEデータ・点の記データ・Pocketデータ・地積等調査一覧表(14条調査表)データ・フォーマットです。
[設定]－[フリーフォーマット]	設定ファイル(フリーフォーマット)をバックアップします。
[設定]－[プロットマーク]	設定ファイル(プロットマーク)をバックアップします。
[設定]－[構造物コード表]	設定ファイル(構造物コード表)をバックアップします。
[設定]－[標準断面]	設定ファイル(標準断面)をバックアップします。
[設定]－[方位マーク]	設定ファイル(方位マーク)をバックアップします。
[設定]－[シンボル]	設定ファイル(シンボル)をバックアップします。
[設定]－[パラメトリック]	設定ファイル(パラメトリック)をバックアップします。
[設定]－[SXF属性セット]	設定ファイル(SXF属性セット)をバックアップします。
[設定]－[構造物数量マスター]	設定ファイル(構造物数量マスター)をバックアップします。
[設定]－[建物部品]	設定ファイル(建物部品)をバックアップします。
[バックアップ現場の削除]	現場のバックアップファイルを削除します。

[出力]	※ローカル現場のみ TREND-ONEのONZファイルを出力します。リンクデータが存在する場合は、LONファイルも同時に出力します。
[メンテナンス]タブ	
[重複レコードの検索]	※ローカル現場のみ 同一の現場レコードを持つものを表示、削除します。
[未登録現場を登録]	指定したフォルダー内の未登録現場を、現場管理に登録します。
[現場レコードをDBから削除]	※ローカル現場のみ 登録されている現場レコードを削除します。
[修復・最適化]	※ローカル現場のみローカル現場のデータベースを修復・最適化します。
[リンクフォルダーの一括変更]	リンクフォルダーの保存先(初期値:¥FCAPP¥TREND-ONE¥TOLinkData)を別の保存先に変更します。保存先パスの変更であり、保存ファイルの移動は行いません。
[BTXA現場データ移行]	※ローカル現場のみ BLUETRENDXAの現場データを、TREND-ONEに移行します。
サーバー現場の[ホーム]タブ	
[編集]-[サーバーに移動]	※ローカル現場のみ ローカル現場をサーバー現場に移動します。
[編集]-[サーバーに複写]	※ローカル現場のみ ローカル現場をサーバー現場に複写します。
[編集]-[ローカルに移動]	※サーバー現場のみ サーバー現場をローカル現場に移動します。
[編集]-[ローカルに複写]	※サーバー現場のみ サーバー現場をローカル現場に複写します。
[編集]-[現場共有]	※サーバー現場のみ サーバー現場の起動モードを「現場共有」に切り替えます。
[編集]-[現場占有]	※サーバー現場のみ サーバー現場の起動モードを「現場占有」に切り替えます。
[ローカル現場]	ローカル現場のみ表示します。
[サーバー現場]	サーバー現場のみ表示します。
[両現場]	ローカル現場とサーバー現場を上下に並べて表示します。

サーバー現場の[メンテナンス]タブ	
[現場データの保存先を変更]	<p>※サーバー現場のみサーバー現場の保存フォルダーを変更します。サーバー上などにあるデータフォルダーの容量がいっぱいになった場合等に、現場データの保存フォルダーを変更します。</p>
[現場ロックの強制解除]	<p>※サーバー現場のみ 現場のロック状態を強制的に解除します。このような場合に使用してください。 ◆現場を開いた時に、「同一ユーザーが既にログインしています。」メッセージが表示される。 ◆現場を開いているユーザーが1人もいないのに、[ローカルに移動][ローカルに複写]などで、「他のユーザーによりロックされています。」とメッセージが表示される。 ◆[ネットワーク環境からの切り離し]で持ち出した現場データを紛失してしまった。</p>
[ネットワーク環境の切り離し]	<p>※サーバー現場のみ ネットワーク環境から現場管理を切り離します。ネットワーク環境から切り離した状態では、「ローカル現場」のみ使用可能です。「サーバー現場」は使用できなくなります。切り離し時には「サーバーの設定ファイル」と「サーバー現場」をローカル環境にコピーして持ち出すことが可能です。</p>
[持ち出し現場の反映]	<p>※サーバー現場のみ [ネットワーク環境からの切り離し]コマンドで持ち出した現場を、元のサーバー現場に上書きします。</p>

メインメニューの画面構成

メインメニューの画面まわりの機能を確認します。



メインメニューの画面構成	
タブ	リボンを切り替えます。
リボン	リボンはタブとグループで構成されています。作業内容に応じて必要なコマンドがグループ化されています。
現場プロット	[座標管理]と[地番管理]に登録された座標や地番を、簡易表示する画面のことです。
現場の情報	編集現場の工区名、ファイル名、ファイルサイズ、使用者、最終使用者の表示、および工事番号(事件番号)、現場名(所在)などの現場情報を表示します。
工期	最終更新日や作業進捗を表示します。
作業データ情報	現場内の作業データや、その割合などを表示します。
条件設定	座標、距離、角度、面積計算などの丸めなどが表示されます。

共通機能のコマンド

[ファイル]タブ	
[新規作成]	新規の現場ファイルを開きます。
[開く]	保存されている現場を読み込みます。開くことのできる現場数は1つです。
[閉じる]	作業中の現場を終了します。
[上書き保存]	編集中の現場を上書き(同一現場に追加保存)で保存します。
[名前を付けて保存]	編集中の現場を、指定した名称で保存します。現場を作成して初めて保存するときも、[ファイル]-[名前を付けて保存]コマンドを使用します。
[履歴]	データの保存時に同時作成された履歴ファイルを読み込みます。保管履歴数は[ファイル]タブ-[オプション]の[バックアップ]タブで設定します。保存されるフォルダーは、データフォルダーです。ONZファイルの場合は、ONZファイルの保存先と同じフォルダーです。
[外部ファイル読み込み]-[座標地番SIMA]	座標地番SIMAデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]-[座標地番SIMA[JPGIS]]	SIMA(JPGIS)データを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]-[表OCR]	OCRツールを起動し、紙で作成された用地実測図や面積計算書、公図などの成果から、座標や地番を登録します。あらかじめ紙をスキャンして、画像ファイルやPDFファイルを作成しておいてください。
[外部ファイル読み込み]-[地図XML]	法務局の地図情報システムから出力される地図XMLデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]-[位置情報付き写真]	位置情報付きの写真を読み込みます。コマンドを実行するには、[共通]タブ-[設定]グループ-[現場の情報]-[現場の情報]で座標系が設定されている必要があります。 読み込み可能な位置情報付き写真は以下の通りです。 TIFF(*.tif、*.tiff)、JPEG(*.jpg、*.jpeg、*.jpe)形式 指定したファイルはリンクフォルダーにコピーします。リンクフォルダーの初期値は、「(¥FCAPP¥TREND-ONE¥TOLinkData¥【TOLink】現場名)」です。
[外部ファイル読み込み]-[基本設計データ編集]	基本設計データファイル(*.xml)を読み込み、編集して出力します。
[外部ファイル読み込み]-[日調連]	日調連指定フォーマットの座標アスキーデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]-[地番情報データベース]	カスタマイズした地番情報の管理データベース(Scene190.mdb: Microsoft(R)Access2003以前)の地番情報テーブルを読み込み、《現場管理》の地番情報の管理インターフェースを独自に作成することができます。Scene190.mdbは、SceneDBフォルダーにあり、エクスプローラーなどで直接起動します。ただし、カスタマイズしたデータベースでの障害への保証はありません。
[外部ファイル読み込み]-[BX互換ファイル]	BX互換ファイルを読み込みます。現場内に登録座標・地番、作業データが存在する場合は、読み込むことができません。新規現場を作成して読み込むなどの対応を行ってください。
[外部ファイル読み込み]-[BLUETRENDアスキー]	BLUETRENDで作成した座標アスキーデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]-[TRENDT/Sアスキー]	TRENDT/S(旧システム)の[座標ファイルコンバーター]や、BLUETRENDの[T/S固定フォーマット書込]で変換されているT/S固定フォーマットの座標アスキーデータ(trend.txt)を読み込みます。
[外部ファイル書込み]-[座標地番SIMA]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMAデータに変換します。

[外部ファイル書込み]－[座標地番SIMA[JPGIS]]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMA(JPGIS)データに変換します。
[外部ファイル書込み]－[地図XML]	法務局の地図情報システムで利用される地図XMLデータに変換します。
[外部ファイル書込み]－[図面・計算書]	現場ファイル内にある図面・計算書を一括してファイルに出力します。新規に作成した作業データは、必ず一度閉じてから、コマンドを実行してください。新規に作成した作業データを一度も閉じず開いた状態でコマンドを実行すると、[図面・計算書書込み]ダイアログに表示されません。
[外部ファイル書込み]－[基本設計データ]	《路線測量》《縦横断測量》のデータを元に、道路中心線形(平面線形、縦断線形)、出来形横断面形状の情報を取得し、計測対象点の情報などを付加した基本設計データを出力します。
[外部ファイル書込み]－[道路中心線形データ]	《路線測量》《縦横断測量》のデータを元に、道路中心線形(平面線形、縦断線形)の情報を取得し、プロジェクト情報などを付加した道路中心線形データを出力します。
[外部ファイル書込み]－[LandXML]	《座標管理》《路線測量》《縦横断測量》のデータを、LandXMLデータに変換します。LandXMLのバージョンは、Ver 1.1です。
[外部ファイル書込み]－[調査報告書用データ]	不動産調査報告書入力システム(日調連)で取り込めるデータを出力します。出力するデータは、ファイル情報(*.ini)・詳細データ(*.txt)の2つです。データのやりとりは、この2ファイルが必要です。不動産調査報告書入力システムでの取り込み方法については、不動産調査報告書入力システムの説明書などを参照してください。
[外部ファイル書込み]－[GoogleEarth]	座標と地番の情報をGoogleEarth上に表示できるファイル(*.kmz)を出力します。GoogleEarthがインストールされていれば、ファイル出力後にGoogleEarthを起動して表示します。 ※GoogleEarthは、Googleから無料で提供されている世界中の衛星写真を閲覧できるソフトです。
[外部ファイル書込み]－[座標地番シェープファイル]	座標・地番データをシェープファイルに変換します。
[外部ファイル書込み]－[日調連]	編集中の現場の全座標データを、日調連指定フォーマットの座標アスキーデータに変換します。
[外部ファイル書込み]－[地番情報データベース]	現場情報をScene 190.mdbの現場情報テーブルに保存します。書き込んだ後、Microsoft(R)Accessで開いて、現場情報テーブルをカスタマイズすることができます。独自の管理インターフェースを構築するときなどに使用します。ただし、カスタマイズした場合のデータおよびアプリケーションの障害への保証はありません。
[外部ファイル書込み]－[BX互換ファイル]	現場内に存在する現場の情報、登録座標・地番、《CAD》の図面データと図面の情報、計算書データをBX互換ファイルに変換して書き込みます。作業データ内の入力データは含まれません。
[外部ファイル書込み]－[座標地番DXF]	現場プロットに表示されている編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、DXF形式のデータに変換します。このコマンドで出力する座標地番DXFデータは、AutoCAD(対応バージョンR13J以降)で読み込むことを前提としています。
[外部ファイル書込み]－[座標地番MIF]	現場プロットに表示されている編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、MIF形式のデータに変換します。MIFデータは、MapInfo(MapinfoInterchangeFormat)の標準データ形式です。これを利用して各社GISシステムへのデータ連動が可能となります。
[外部ファイル書込み]－[杭打ちデータ]	CIMPHONYへ杭打ちデータをアップロードします。杭打ちデータとは、弊社のスマホアプリ《杭打ちツール》で取り込めるデータ(座標)です。※オプションサービスが必要です。
[外部ファイル書込み]－[BLUETRENDアスキー]	編集中の現場の全座標データを、BLUETRENDの座標アスキーデータに変換します。

[外部ファイル書込み]ー [TRENDT/Sアスキー]	編集中の現場の全座標データを、TRENDT/S(旧システム)の座標アスキーデータ(T/S固定フォーマット)に変換します。
[現場の合成]	開いている現場(合成先)に、指定した現場ファイル(合成元)の座標、地番、および各作業データを取り込みます。 合成元の座標、地番の点番、地番Noは、付け直すかそのままかを選択することができますが、合成先に使用されている点番、地番Noセルには取り込まれず無視します。したがって合成する予定のある現場は、1～1000、1001～2000と最初から意識した登録をお勧めします。 また、作業データ内の仮点も取り込まれますが、合成後は登録されますので、点番が食い違う可能性があります(合成前に座標登録しておくことをお勧めします)。
[現場の拔出し]	開いている現場から、指定した現場ファイルに座標、地番、および各作業データを抜き出します。
[ログインユーザー]	現場を起動しているユーザー名と座標・地番に対する権限を表示します。 《現場共有モード》のみの機能です。
[印刷範囲の設定]	印刷範囲を設定します。印刷範囲を設定しない場合は、印刷範囲枠が印刷範囲になります。
[印刷]	計算書または図面を印刷します。
[PDF出力]	計算書、または図面をPDFファイルに出力します。PDF作成のため、AntennaHousePDFDriverがインストールされている環境が必要です。 AntennaHousePDFDriverのインストールは、TREND-ONEのインストール時に自動で行われます。
[オプション]	プログラムの全体的な設定を行います。
[アプリケーションの終了]	アプリケーションを終了します。タイトルバーの をクリックしてもアプリケーションを終了します。
[作業の選択]タブ	
[現場]	現在開いている現場データの情報を、確認・編集します。
[座標管理]	《座標管理》を開きます。
[地番管理]	《地番管理》を開きます。
[CAD]	《CAD》を開きます。
[各階平面図]	《各階平面図》を開きます。
[宅地割り計画]	《宅地割り計画》を開きます。
[電子野帳]ー[電子野帳取込]	《電子野帳取込》を開きます。
[電子野帳]ー[電子野帳座標入出力]	《電子野帳座標入出力》を開きます。
[電子野帳]ー[電子レベル取込]	《電子レベル取込》を開きます。
[座標計算]ー[トラバース計算]	《トラバース計算》を開きます。
[座標計算]ー[逆トラバース計算]	《逆トラバース計算》を開きます。
[座標計算]ー[交点計算]	《交点計算》を開きます。
[座標計算]ー[座標プリント]	《座標プリント》を開きます。
[座標計算]ー[ST計算]	《ST計算》を開きます。
[座標計算]ー[用地境界点計算]	《用地境界点計算》を開きます。

[座標計算]－[拡幅計算]	《拡幅計算》を開きます。
[座標計算]－[境界点成果対比計算]	《境界点成果対比計算》を開きます。
[座標計算]－[直線巾杭計算]	《直線巾杭計算》を開きます。
[座標計算]－[スライド計算]	《スライド計算》を開きます。
[座標計算]－[回帰直線]	《回帰直線》を開きます。
[地番計算]－[定面積分割]	《定面積分割》を開きます。
[地番計算]－[地番プリント]	《地番プリント》を開きます。
[地番計算]－[面積計算]	《面積計算》を開きます。
[地番計算]－[街区一連計算]	《街区一連計算》を開きます。
[地番計算]－[多角形座標変換]	《多角形座標変換》を開きます。
[地番計算]－[凸凹補正計算]	《凸凹補正計算》を開きます。
[地番計算]－[路線地番交点計算]	《路線地番交点計算》を開きます。
[地番計算]－[N点固定面積調整変換]	《N点固定面積調整変換》を開きます。
[基準点関連]－[基準点測量]	《基準点測量》を開きます。
[基準点関連]－[ST計算(検定)]	《ST計算(検定)》を開きます。
[基準点関連]－[経緯度座標変換(検定)]	《経緯度座標変換(検定)》を開きます。
[基準点関連]－[水準測量]	《水準測量》を開きます。
[基準点関連]－[点の記]	《点の記》を開きます。
[地籍測量]－[精度管理表(座標)]	《精度管理表(座標)》を開きます。
[地籍測量]－[地積測定]	《地積測定》を開きます。
[路線縦横断]－[路線測量]	《路線測量》を開きます。
[路線縦横断]－[縦横断測量]	《縦横断測量》を開きます。
[路線縦横断]－[土量計算]	《土量計算》を開きます。
[座標変換]－[座標変換]	《座標変換》を開きます。
[座標変換]－[座標変換(BL)]	《座標変換(BL)》を開きます。
[座標変換]－[経緯度変換]	《経緯度変換》を開きます。
[座標変換]－[面積調整変換]	《面積調整変換》を開きます。
[座標変換]－[ヘルマート変換]	《ヘルマート変換》を開きます。
[座標変換]－[座標変換(世界測地系)]	《座標変換(世界測地系)》を開きます。
[座標変換]－[座標補正(PatchJGD準拠)]	《座標補正(PatchJGD準拠)》を開きます。

[精度管理表・その他]－[精度管理表(距離)]	《精度管理表(距離)》を開きます。
[精度管理表・その他]－[精度管理表(世界測地系)]	《精度管理表(世界測地系)》を開きます。
[精度管理表・その他]－[偏心補正計算]	《偏心補正計算》を開きます。
[精度管理表・その他]－[座標地番アスキー]	《座標地番アスキー》を開きます。
[精度管理表・その他]－[比較面積計算]	《比較面積計算》を開きます。
[精度管理表・その他]－[太陽による方向角計算]	《太陽による方向角計算》を開きます。
[展開図]－[舗装展開図]	《舗装展開図》を開きます。
[展開図]－[簡易舗装展開図]	《簡易舗装展開図》を開きます。
[展開図]－[法面展開図]	《法面展開図》を開きます。
[展開図]－[斜面積展開図]	《斜面積展開図》を開きます。
[展開図]－[擁壁展開図]	《擁壁展開図》を開きます。
[登記関連]－[登記用XML作成]	《登記用XML作成》を開きます。
[登記関連]－[法務省フォーマット作成]	《法務省フォーマット作成》を開きます。
[登記関連]－[14条調査表]	《14条調査表》を開きます。
[追加編集]	[お気に入り]に、アプリケーションを追加します。よく使うアプリケーションは、[お気に入り]に追加しておく便利です。
[共通]タブ	
[現場の情報]－[現場の情報]	編集現場の工区名、ファイル名、ファイルサイズ、使用者、最終使用者の表示、および工事番号(事件番号)、現場名(所在)などの現場情報を入力します。
[現場の情報]－[地籍図郭設定]	地籍図郭を作成します。
[条件設定]－[条件設定]	座標、距離、角度、面積計算などの丸めや地番の重複チェックなどに関する項目を設定します。設定方法は、1つの設定を全ての作業データで共有する方法と、個別に設定する方法があります。個別に設定した場合、設定は各作業データ毎に保持します。
[条件設定]－[条件設定モニター]	丸めなどの設定状態を確認します。
[CIMPHONY]－[アクセス設定]	CIMPHONYのID・パスワードを入力しておけば、CIMPHONYへのアクセス時に自動ログインします。※オプションサービスが必要です。
[CIMPHONY]－[ブラウザ確認]	CIMPHONYサイトをブラウザで開きます。[CIMPHONY連携]－[アクセス設定]で、ID・パスワードを入力しておけばログイン状態で表示します。※オプションサービスが必要です。
[CIMPHONY]－[連携解除]	CIMPHONYの現場との連携を解除します。現場内の作業データとの連携もすべて解除されます。※オプションサービスが必要です。
[電算プログラム証明書]	自社点検証明書・日本測量協会の電算プログラム検定証明書をPDF形式で出力します。必要な場合は出力後、印刷してお使いください。
[新規作成]	新規の作業データを作成します。

[開く]	既存の作業データを開きます。
[閉じる]	編集中の作業データを閉じます。作業データはメモリ上に保存され、閉じたときの内容で再度開くことができます。ただし現場ファイルを保存しないで終了すると、作業データの内容は破棄されますので注意してください。
[別名で保存]	編集中の作業データを別名で保存します。
[保存せず終了]	編集中の作業データの変更内容を破棄して、作業データを閉じます。
[編集]－[名前の変更]	作業データ名を変更します。
[編集]－[コピー]	《メインメニュー》で指定した作業データをコピーします。
[編集]－[ロック]	作業データをロックし、上書き禁止で作業データを開くようにします。
[編集]－[削除]	指定した作業データを削除します。削除した作業データを復帰することはできませんので注意してください。
[編集]－[グループの変更]	作業データの所属グループを変更します。
[編集]－[更新]	作業データを更新します。《現場共有モード》のみの機能です。
[現場プロット]－[表示する]	座標、点名、点番などをプレビューする現場プロットの表示／非表示を切り替えます。
[現場プロット]－[上]	現場プロットの表示位置を「上」に変更します。
[現場プロット]－[下]	現場プロットの表示位置を「下」に変更します。
[現場プロット]－[左]	現場プロットの表示位置を「左」に変更します。
[現場プロット]－[右]	現場プロットの表示位置を「右」に変更します。
[ステータスバー]	アプリケーションウィンドウの下方に、座標数や地番数などを表示するステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
[ファンクションバー]	各種機能をファンクションバー（ファンクションキー）に割り当てます。ShiftキーやCtrlキーと組み合わせることができます。またファンクションバーの表示／非表示を設定します。
[チャット]	同じ現場で作業を行っている他のユーザーと通信を行います。《現場共有モード》のみの機能です。
[補助機能]	各種補助機能を利用します。作業途中に面積を計ったり座標を登録するなどの割込処理をおこなうことができます。すべてのプログラムから実行することができます。
[交点計算]	各種交点計算機能を利用します。作業途中に割込処理で、交点計算で求めた座標を登録することができます。すべてのプログラムから実行することができます。 [共通]タブ－[ツール]グループ－[交点計算]コマンドをクリックします。
[整列]－[重ねて表示]	複数のウィンドウを開いているとき、タイトルバーが見えるようにウィンドウを重ねて表示します。
[整列]－[上下に並べて表示]	複数のウィンドウを開いているとき、重ならないようにウィンドウサイズを等分に調節して上下に並べて表示します。
[整列]－[左右に並べて表示]	複数のウィンドウを開いているとき、重ならないようにウィンドウサイズを等分に調節して左右に並べて表示します。
[ウィンドウの切り替え]	開いているすべてのウィンドウ名が表示され、作業中のウィンドウ名の横にはチェックマークが表示されます。ウィンドウ名をクリックすることにより作業ウィンドウを切り替えることができます。

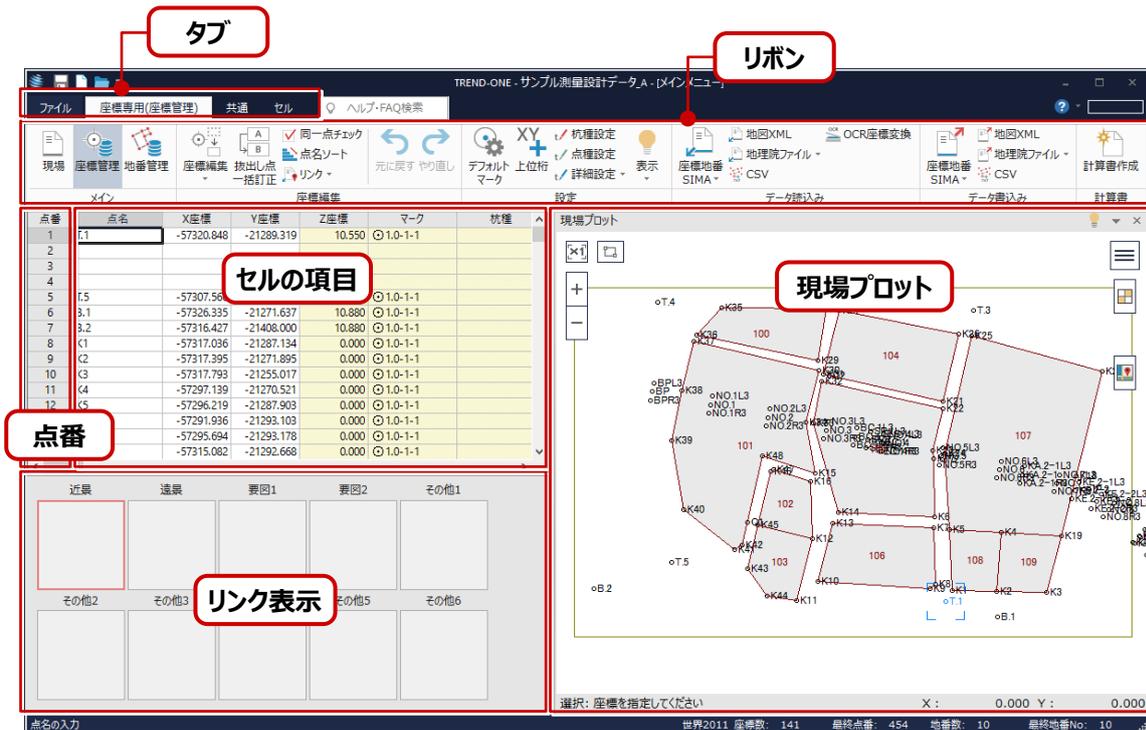
[セル]タブ	
[位置]－[先頭]	セルのフォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)を先頭行へ移動します。
[位置]－[末尾]	セルのフォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)をデータがある末尾行へ移動します。
[位置]－[ジャンプ]	セルのフォーカス(入力位置を意味する黒四角枠:アクティブセル)を指定した行へジャンプします。
[行]－[行挿入]	指定行の前に行を挿入します。また連続範囲であれば、その行数分をまとめて挿入します。不連続の複数行(Ctrlキーを併用した場合の選択方法)は実行されません(メッセージが表示されます)。
[行]－[行削除]	指定した行を削除します。削除した行は間詰めされます。ただし不連続の複数行(Ctrlキーを併用した場合の選択方法)は削除できません。
[行]－[行移動]	指定した行を上書き移動します。複数行を一括して移動することもできます。
[行]－[行複写]	指定した行を上書き複写(強制的)します。複数行を一括して複写することもできます。
[行]－[行入れ替え]	指定した行を、指定先の行と入れ替えます。複数行を一括して入れ替えることもできます。
[行]－[行間詰め]	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。
[検索]	同項目(1列のみ)の内容に関する文字(文字、数字、設定項目)の検索を行います。ただし、検索の対象外の項目([マーク]や[座標ロック]など)があります。
[座標の抽出]	《座標管理》に登録されている座標を取り込みます。抽出元や抽出条件を設定することにより、抽出する座標を地番別、杭種や点種、更新日別にすることができます。まず、[座標抽出]タブで座標(点番、点名)または地番(地番No、地番名)の抽出条件を設定します。さらに必要なら、[備考・属性]タブ、[更新]タブを選択して詳細な条件を設定します。
[地番の抽出]	《地番管理》に登録されている地番を、登録されている地番の構成点の順序で取り込みます。抽出元や抽出条件を設定することにより、抽出する地番を求積属性、地目、所有者、住所別にすることができます。まず、[地番抽出]タブで地番(地番No、地番名)の抽出条件を設定します。さらに必要なら、[地目・備考]タブ、[属性・更新]タブを選択して詳細な条件を設定します。
[範囲選択]	現場プロットで多角形範囲を指定して、その範囲内の座標や地番を取り込みます。地番は、地番の重心位置(目安:地番名)が指定範囲内にある場合に対象になります。作業データによって開放地番は選択できない場合があります。
[一括訂正]	選択したセルの内容を一括して訂正します。
[セルの固定]－[セルの固定]	Enterキー、Tabキーでセルにフォーカスを移動しないように(アクティブセルにならないように)する機能(セル固定)です。ウィンドウ単位で個別に設定することができます。ただし、矢印キーやクリック操作では、フォーカスを移動することができます(セルの固定機能は効きません)。
[セルの固定]－[セルの固定解除]	[セル]タブ－[セル]グループ－[セルの固定]－[セルの固定]で、ロックしたセルを解除します。
[オートワイド]	全てのセルの項目が見えるようにセルの幅を自動調整する機能(オートワイド)の有効/無効を切り替えます。
[ウィンドウ枠の固定]	常に表示したい行と列が、スクロールしても隠れないように固定します。
[項目設定]－[項目設定]	《座標管理》《地番管理》および作業データのセルにある項目列を追加(使用可能状態)、または削除(非表示)します。編集できる項目は、指定したセルにより異なります。

[項目設定]－[テンプレート管理]	セルの状態(項目の表示/非表示、幅、順序、オートワイド有無)をテンプレートとして設定します。テンプレートは、《座標管理》、《地番管理》、作業データ、スタイルなどの単位で管理することができます。
[セル印刷]	セルの画面イメージをプリンターで印刷します。データのある最終行までのすべてを印刷します。
[読み上げ]－[読み上げ]	選択したセルの内容(文字列、数字)を左から右、上から下へ読み上げます。特に入力した座標値の確認に有効です。
[読み上げ]－[読み上げオプション]	セル読み上げ時の音声、音量および速度を設定できます。
[貼り付け]	クリップボードの内容を貼り付けます。クリップボードに何も保存されていないときや貼り付け場所がふさわしくないとき、このコマンドは使用できません。
[切り取り]	現在選択しているデータをクリップボードに移動します。データが選択されていないときや切り取ることでできないデータを選択しているとき、このコマンドは使用できません。
[コピー]	現在選択しているデータをそのままの状態にしてクリップボードに保存(コピー)します。データが選択されていないときやコピーできないデータを選択しているとき、このコマンドは使用できません。
[クリア]	選択されているデータを削除します。
[ズーム]	適切なレベルに拡大または縮小できます。
[100%]	セルを100%の倍率で表示します。
[計算書]タブ	
[先頭ページ]	先頭のページへ移動します。
[ページ移動]	指定したページに移動します。
[最終ページ]	最終ページに移動します。
[ページ通し]－[複写]	計算書上で選択した要素を、次ページから最終ページのすべてに複写します。
[ページ通し]－[削除]	計算書上で選択した要素と同じ位置にある要素を、選択中のページから最終ページまで削除します。
[ページ通し]－[文字の置換]	計算書上で選択した文字要素と、位置と文字列が同じ文字要素を置換します。選択中のページから最終ページまで置換します。
[ページ通し]－[ページ番号]	計算書のページ番号を新規追加、または付け直します。選択中のページから最終ページまで設定します。
[ファイル出力]	計算書を外部ファイルに出力します。出力可能なファイル形式は、リッチテキスト(*.rtf)、カンマ区切り(*.csv)、テキストのみ(*.txt)です。
[EXCEL]－[EXCEL読み込み]	EXCELデータをCAD要素(線や文字要素)に変換して読み込みます。MicrosoftOfficeExcel(MicrosoftExcel)がインストールされている必要があります。
[EXCEL]－[EXCEL書込み]	計算書をEXCELデータに変換して出力します。MicrosoftOfficeExcel(MicrosoftExcel)がインストールされている必要があります。
[入力属性]	計算書でデータを入力するときの[ペンNo][線種]を設定します。[プロパティ]でも確認・変更が可能です。
[表示色]－[表示色:ペン]	データをペンNo別に設定した色で表示します。このモードでは[ペン設定]で設定した色が有効です。
[表示色]－[表示色:線種]	データを線種別に設定した色で表示します。このモードでは[線種設定]で設定した色が有効です。

[ドラフタ]ー[ドラフタ設定]	ドラフタを設定します。
[グリッド設定]	グリッドを設定します。
[名前の変更]	計算書の名称を変更します。
[成果情報]	計算書に成果情報を設定します。
[作成条件]	計算書作成時の条件を表示します。
[削除]	計算書を削除します。
[選択削除]	削除したい計算書を選択して一括削除します。
[倍率拡大]	ウインドウの中心を基準に、表示を倍率拡大します。
[倍率縮小]	ウインドウの中心を基準に表示を倍率縮小します。
[移動(枠指定)]	ウインドウ内の表示の中心を指定し、表示範囲を移動します。
[前表示]	現在の画面を、拡大または移動する前の画面に戻します。
[現場プロット]	《座標管理》と《地番管理》に登録された座標(点番、点名)や地番(地番情報、三斜線など)を、簡易表示する現場系画面です。 《座標管理》や《地番管理》のような一覧形式ではわかりにくい全体イメージを見やすく表示します。各アプリケーションで、現場プロットから座標、地番を選択する場合もあります。
[計算書作成]	入力したデータをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》で作成または変更することができます。また各アプリケーションによって、設定する内容が異なります。
[登録]	座標、および座標より構成される地番を登録します。

座標管理の画面構成

座標管理の画面まわりの機能を確認します。



座標管理の画面構成	
タブ	リボンを切り替えます。
リボン	リボンはタブとグループで構成されています。作業内容に応じて必要なコマンドがグループ化されています。
点番	座標を管理している番号で、座標を利用しているすべてのデータに影響します。地番を登録後に点番を変更すると、地番構成が変更されたり、計算結果が異なったりすることもありますので、注意してください。
セルの項目	点名や座標値・マーク・杭種・点種などを入力するセルです。項目は変更できません。
リンク表示	座標にリンクしている写真の表示・非表示を切り替えます。
現場プロット	[座標管理]と[地番管理]に登録された座標や地番を、簡易表示する画面のことです。

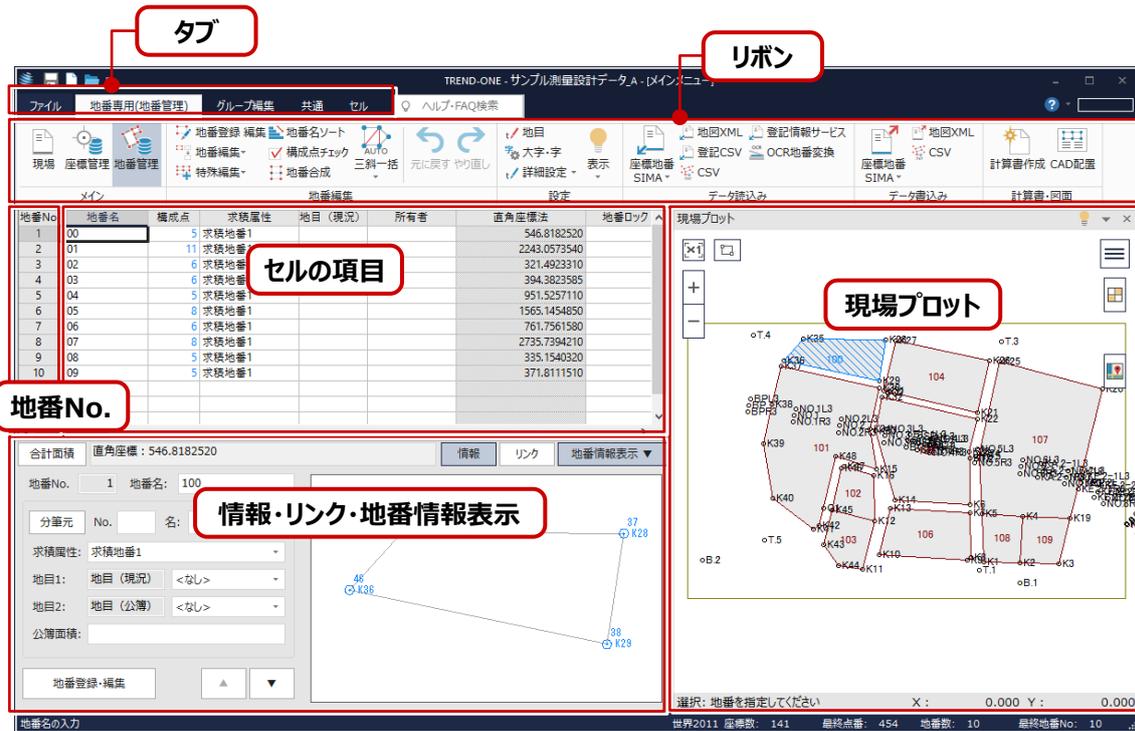
座標管理のコマンド

[座標専用(座標管理)]タブ	
[座標編集]－[座標移動]	登録されている座標を移動します。
[座標編集]－[座標複写]	登録されている座標を複写します。
[座標編集]－[座標削除]	《座標管理》で、登録座標を行単位で削除します。誤って削除した場合、[座標専用(座標管理)]タブ－[座標編集]グループ－[元に戻す]で、削除座標を復帰させることができます。ただし、一度現場を閉じてしまった場合には復帰できません。
[座標編集]－[座標入れ替え]	登録されている座標の行を入れ替えます。
[座標編集]－[座標間詰め]	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。ただし不連続の複数行(Ctrlキーを併用した場合の選択方法)は実行されません。
[拔出し点一括訂正]	抜出一括訂正ダイアログで《座標管理》に登録されている座標を抜き出して、点名、プロットマーク、杭種、点種などを変更し、《座標管理》に再登録します。
[同一点チェック]	登録座標内で同一座標をチェックします。登録地番の構成点で使用している同一座標は構成点を置き換えます。
[点名ソート]	選択した登録座標の点名を順番(コード順)に並べ替え(ソート)します。このとき、並べ替え対象となった座標が地番構成点に利用されている場合、点番に対する座標値が変更されることになり、その地番の形状が変わります。その場合、地番を登録しなおす必要があります。したがって、地番を登録する前に点名ソートしておくことをお勧めします。[元に戻す]は無効になります。また行の間詰めを行う場合は、[座標専用(座標管理)]タブ－[座標編集]グループ－[座標編集]－[座標間詰め]と併用します。
[リンク]－[ファイル名称からのリンク付け]	指定したフォルダーに保存されている命名規則に従っているファイルをリンク付けします。
[リンク]－[リンクファイルの名称変更]	設定した命名規則に従って、リンクファイルのファイル名を変更します。
[元に戻す]	《座標管理》、《地番管理》で座標、地番、地番構成点に対して行った編集作業を元の状態に戻します。連続して10回前までの作業を順番に元に戻すことができます。
[やり直し]	《座標管理》、《地番管理》の[元に戻す]で戻した操作を再度実行します。
[デフォルトマーク]	《座標管理》で座標を新規登録する時に登録されるプロットマークを設定します。各作業データにおける座標登録時には連動しません。
[上位桁]	《座標管理》で座標を登録する場合のX座標、Y座標の不変値を設定します。登録される座標は、「上位桁+入力値(正負)」になります。また、上位桁の設定値がマイナスの場合、「上位桁-入力値(正負)」になります。
[杭種設定]	《座標管理》の[杭種]セルなどで選択する杭種リストを作成します。正式名称と略称(筆界点のマーク)を登録します。略称は、筆界点の表記マークとして図面作成時に利用されます。
[点種設定]	《座標管理》の[点種]セルなどで表示される点種(境界点、引照点など)のリストを作成します。
[詳細設定]－[座標タイトル]	座標属性の備考1、備考2の項目名称を設定します。
[詳細設定]－[座標値重複チェック]	《座標管理》で座標を入力する際に、登録座標と同じ座標値を入力しないよう重複チェックします。
[詳細設定]－[行コマンドで地番構成点を同期]	《座標管理》で座標を移動すると、その座標が地番構成点に使われている場合、地番の形が変わってしまいます。しかし[詳細設定]－[行コマンドで地番構成点を同期]にチェックマークが付いた状態では、座標を移動しても地番の形が変わりません。

[詳細設定]－[強調表示]	セル上で選択した座標または地番を、現場プロットで強調表示します。このモードのとき、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[座標ズーム]	選択した座標を現場プロットの中央に表示します。現場プロットの表示倍率は変わりません。このモードのとき、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[リンク表示]	選択中の座標にリンクされているファイルの表示／非表示を切り替えます。表示の場合、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[外部ファイル読み込み]－[座標地番SIMA]	座標地番SIMAデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[座標地番SIMA[JPGIS]]	SIMA(JPGIS)データを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[地図XML]	法務局の地図情報システムから出力される地図XMLデータを読み込みます。
[地理院ファイル]－[TKY2JGD読み込み]	国土地理院の座標変換プログラム《TKY2JGD》で出力したファイルを読み込み、《座標管理》に座標を登録します。
[地理院ファイル]－[PatchJGD読み込み]	下記の国土地理院の座標補正プログラムから出力したファイルを読み込み、《座標管理》に座標を登録します。・《PatchJGD》・《PatchJGD(標高版)》・《Web版PatchJGD標高版》
[CSV]	《座標地番アスキー》の作業データを作成して、CSVファイルから座標・地番データを取り込みます。
[外部ファイル書き込み]－[座標地番SIMA]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMAデータに変換します。
[外部ファイル書き込み]－[座標地番SIMA[JPGIS]]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMA(JPGIS)データに変換します。
[外部ファイル書き込み]－[地図XML]	法務局の地図情報システムで利用される地図XMLデータに変換します。
[地理院ファイル]－[TKY2JGD書き込み]	《座標管理》の登録座標を、国土地理院の座標変換プログラム《TKY2JGD》で読み込み可能なファイル形式で出力します。
[地理院ファイル]－[PatchJGD書き込み]	《座標管理》の登録座標を、国土地理院の座標補正プログラム《PatchJGD》で読み込み可能なファイル形式で出力します。
[CSV]	《座標管理》に登録済みの座標をCSVファイルに出力します。
[計算書作成]	《座標プリント》《点の記》を起動して計算書を作成します。

地番管理の画面構成

地番管理の画面まわりの機能を確認します。



地番管理の画面構成	
タブ	リボンを切り替えます。
リボン	リボンはタブとグループで構成されています。作業内容に応じて必要なコマンドがグループ化されています。
地番No.	地番の番号です。地番を登録した後に作業データで発生した新地番を既地番No.へ上書きすると、地番が上書きされます。既地番の構成点の座標が異なりますので注意してください。
セルの項目	地番名や構成点・求積属性・地目などを入力するセルです。項目は変更できません。
情報・リンク・地番情報表示	[情報] [リンク]で、それぞれの表示に切り替えます。[地番情報表示]ボタンでは[情報] [リンク]の表示非表示を切り替えます。
現場プロット	[座標管理]と[地番管理]に登録された座標や地番を、簡易表示する画面のことです。

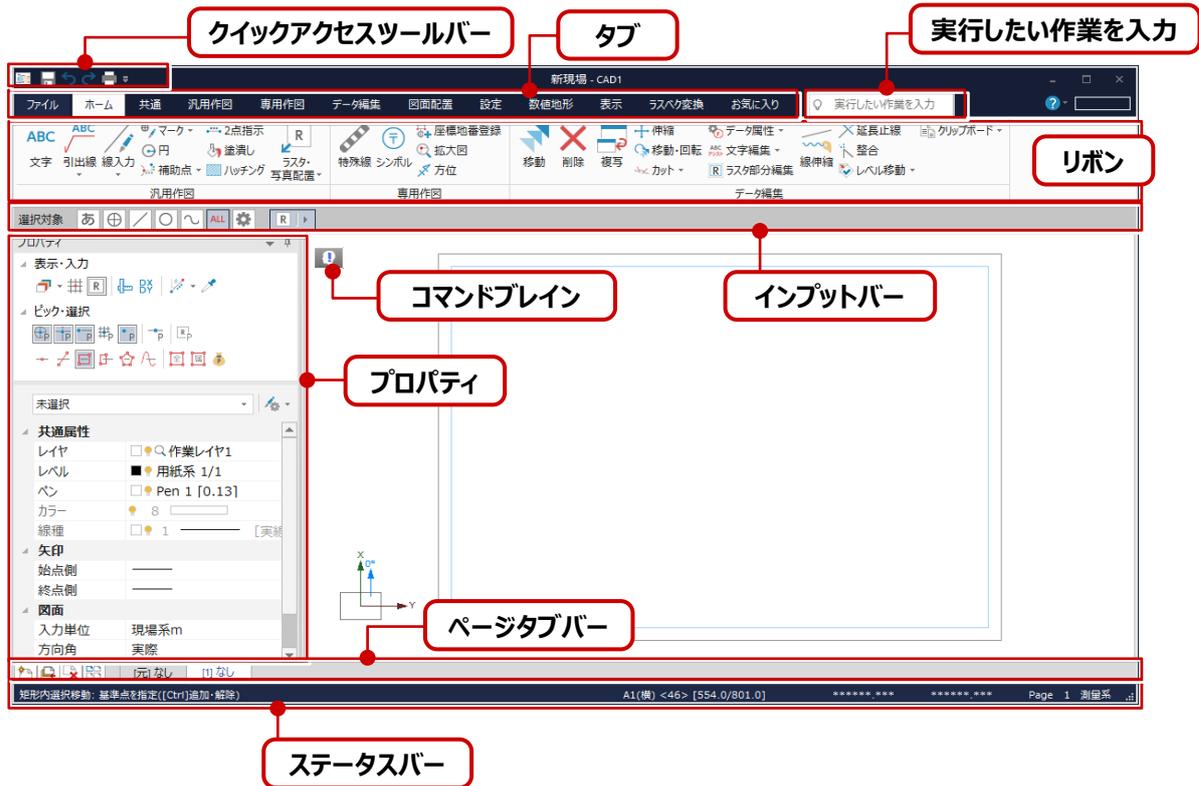
地番管理のコマンド

[地番専用(地番管理)]タブ	
[地番登録・編集]	地番の情報や構成点、三斜を設定し、地番を登録します。
[地番編集]－[地番移動]	登録されている地番を移動します。
[地番編集]－[地番複写]	登録されている地番を複写します。
[地番編集]－[地番削除]	登録されている地番を削除します。削除した地番は、[地番専用(地番管理)]タブ－[地番編集]グループ－[元に戻す]で元に戻すことができます。
[地番登録・編集]	地番の情報や構成点、三斜を設定し、地番を登録します。
[地番編集]－[地番入れ替え]	登録されている地番を入れ替えます。
[地番編集]－[地番間詰め]	指定した範囲の中に空白の行がある場合、その空白行を詰めます。ただし、不連続の複数行(Ctrlキーを併用した場合の選択方法)は実行されません。
[特殊編集]－[結線登録]	現場プロットにある結線した区画を、地番として一筆ずつ、または一括して《地番管理》に登録します。
[特殊編集]－[構成点編集]	地番の構成点を現場プロットで編集します。
[特殊編集]－[入力方法変更]	地番構成点の入力方法を変更します。初点の構成点はそのままで。図面作成時の距離値の表示位置をそろえるときに有効です。
[特殊編集]－[分筆]	地番を分筆します。
[特殊編集]－[合筆]	地番を合筆します。
[特殊編集]－[地番情報移動]	属性の入力内容を、別の属性に移動します。移動は、すべての地番に対して実行されます。BLUETRENDVの「備考」に入力されている所有者を、TREND-ONEの「所有者」の項目に一括移動する場合などに使用します。
[地番名ソート]	選択した登録地番の地番名を順番に並べ替えます。地番名ソートで地番Noが変わった場合、その地番は作業データから削除されます。行の間詰めを行う場合は、[地番専用(地番管理)]－[地番編集]グループ－[地番編集]－[地番間詰め]と併用します。この操作は元に戻すことはできません。
[構成点チェック]	複数の地番を入力し、それらの地番構成点が隣接しているかどうか、ねじれていないか・地番同士が重複していないかを検索します。
[地番合成]	隣接した複数地番を1つの地番として新規登録します。ただし、次の状態における地番は合成できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・隣接していない地番同士(飛び地) ・隣接しているが同一辺が存在しない地番同士 ・閉合していない地番を選択したとき ・合成結果がドーナツ型 また、合成した地番は、求積属性1として地番登録します。
[三斜一括]－[一括自動三斜]	《地番管理》で選択した登録地番(複数選択可)の三斜を切ります。
[三斜一括]－[一括三斜削除]	《地番管理》で選択した登録地番(複数選択可)の三斜を削除します。
[三斜一括]－[一括面積調整]	三斜求積されている地番の三斜高さを修正して、三斜求積による面積値を調整します。また、与えた地番面積(要求面積)から各三斜高さを自動調整して、面積を調整することもできます。ただし、求積値のみ変更し、座標値は変わりません(図面の求積表の数値として連動)。
[元に戻す]	《座標管理》、《地番管理》で座標、地番、地番構成点に対して行った編集作業を元の状態に戻します。連続して10回前までの作業を順番に元に戻すことができます。
[やり直し]	《座標管理》、《地番管理》の[元に戻す]で戻した操作を再度実行します。

[地目]	《地番管理》などの「地目」で使用する地目リストを作成します。
[大字・字]	《地番管理》などの「大字」「字」で使用する大字・字のコードと名称を設定します。
[詳細設定]－[地番タイトル]	《地番管理》の地目関係の項目「所在」「地目」「備考」で使用する項目名を設定します。
[詳細設定]－[所有者／共有者編集]	よく使用する所有者、共有者をマスターとして登録します。
[詳細設定]－[所有者／共有者ファイル出力]	所有者、または共有者の情報を、タブ (Tab) 区切りのテキストファイルに出力します。テキストファイルの内容をコピーしてExcelなどに貼り付けて編集できます。
[詳細設定]－[セル入力で新規登録]	《地番管理》のセルの入力のみで地番を登録します。構成点が無い状態でも地番登録が可能です。発注者より、土地情報をExcelファイルなどで提供された場合、セル項目を合わせればコピー貼り付けで現場を作成できます。このモードがONのとき、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[地番ズーム]	選択した地番を現場プロットの中央に拡大表示します。このモードのとき、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[情報]	選択した地番の地番情報を表示します。[地番専用(地番管理)]タブ－[設定]グループ－[表示]－[地番情報]がONの場合に有効です。表示の場合、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[リンク]	選択した地番のリンクファイルを表示します。[地番専用(地番管理)]タブ－[設定]グループ－[表示]－[地番情報]がONの場合に有効です。表示の場合、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[表示]－[地番情報]	選択中の地番の地番情報(地番情報、リンクファイル)の表示／非表示を切り替えます。表示の場合、コマンド名の前にチェックマーク(レ)がつきます。
[外部ファイル読み込み]－[座標地番SIMA]	座標地番SIMAデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[座標地番SIMA[JPGIS]]	SIMA (JPGIS) データを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[地図XML]	法務局の地図情報システムから出力される地図XMLデータを読み込みます。
[登記CSV]	14条地図や地籍調査の業務発注時に法務局から提供される登記情報CSVファイル(地番情報)を取り込みます。
[登記情報サービス]	登記情報提供サービスのサイトから購入できるデータ(PDF・ZIP)をスキャンして、登記情報を《地番管理》に取り込みます。
[外部ファイル読み込み]－[表OCR]	OCRツールを起動し、紙で作成された用地実測図や面積計算書、公図などの成果から、座標や地番を登録します。あらかじめ紙をスキャンして、画像ファイルやPDFファイルを作成しておいてください。
[外部ファイル書込み]－[座標地番SIMA]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMAデータに変換します。
[外部ファイル書込み]－[座標地番SIMA[JPGIS]]	編集中の現場の座標、地番データ(街区=画地)を、SIMA (JPGIS) データに変換します。
[外部ファイル書込み]－[地図XML]	法務局の地図情報システムで利用される地図XMLデータに変換します。
[CSV]	《座標地番アスキー》プログラムの作業データを作成して、《地番管理》に登録済みの地番をCSVファイルに出力します。
[計算書作成]	《地番プリント》《面積計算》を起動して計算書を作成します。
[CAD配置]	《CAD》を起動して、選択した地番の地積図または測量図を作成します。
[最新情報に更新]	[グループ編集]タブで、[グループ]の順序の設定を変更した場合は、このコマンドを実行してください。

CADの画面構成

CADの画面まわりの機能を確認します。



CADの画面構成	
クイックアクセスツールバー	使用中のコマンドに関係なく、クリックするだけでそのコマンドを実行できます。クイックアクセスツールバーは、QAT (クイックアクセスツールバー) ドロップダウンメニューでカスタマイズすることもできます。
タブ	リボンを切り替えます。
実行したい作業を入力	コマンドを検索し実行します。空白で区切るとAND検索をします。
リボン	リボンはタブとグループで構成されています。作業内容に応じて必要なコマンドがグループ化されています。
インプットバー	データ選択・入力・編集時にCAD画面上(下)に表示される設定項目をインプットバーといいます。
プロパティ	表示・入力・ピック・選択モードの設定や、入力時の要素の属性などを設定します。
コマンドブレイン	使用したコマンドから作業手順を反復学習し、あなたが使用するコマンドを表示します。
ページタブバー	タブをクリックしてページを切り替えます。プレビューで確認することもできます。
ステータスバー	アプリケーションウィンドウの下方に、座標数や地番数などを表示します。[表示]タブ>[表示]グループ>[ステータスバー]で表示、非表示を切り替えることができます。

CADのコマンド

[ファイル]タブ	
[外部ファイル読み込み]－[SXF]	SXFデータ(SFC・P21・SFZ・P2Z)を読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[SXF一括]	SXFデータ(SFC・P21・SFZ・P2Z)を一括して読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[DXF・DWG]	DXF・DWG形式のデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[JWC・JWW]	JWC・JWW形式のデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[アスキー]	アスキー形式のデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[EXCEL]	EXCELデータをCAD要素(線や文字要素)に変換して読み込みます。 MicrosoftOfficeExcel(MicrosoftExcel)がインストールされている必要があります。
[外部ファイル読み込み]－[基盤地図情報]	基盤地図情報ファイル(*.xml)を読み込み、CADデータに変換して配置します。 ※オプションプログラムが必要です。
[外部ファイル読み込み]－[X-FIELDデータ]	X-FIELDデータ(*.XFD)内のCADデータ・座標データ・観測データを読み込みます。X-FIELDデータ(拡張子XFD)とは、[X-FIELD](現場端末システム)のデータ形式の名称です。データの合成を行いたい時など、このコマンドを使用して読み込み、編集中のデータ上に読み込んだ要素や観測データを追加したりします。
[外部ファイル読み込み]－[シェープファイル]	シェープファイルをCADデータに変換して配置します。
[外部ファイル読み込み]－[拡張DM]	拡張DMデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－[公共測量作業規程DM]	公共測量作業規程DMのデータを読み込みます。
[外部ファイル読み込み]－ [XYCLONE・Fieldcomデータ]	XYCLONEデータ(拡張子UCM)とは、[XYCLONE](現場端末システム)のデータ形式の名称です。Fieldcomデータ(拡張子BDM)とは、 [BLUETRENDFieldcom](デジタル地形測量システム)のデータ形式の名称です。データの合成を行いたい時など、このコマンドを使用して読み込み、編集中のデータ上に読み込んだ要素や観測データを追加したりします。
[外部ファイル読み込み]－[X-FIELD・XYCLONEトラバ座標]	トラバース座標データ(拡張子fct)とは、《X-FIELDトラバース計算》《XYCLONEトラバース計算》《Fieldcomトラバース計算》で作成されたデータ形式の名称です。トラバース計算で計算された座標を読み込みます。
[外部ファイル書き込み]－[SXF]	データをSXFデータ(SFC・P21・SFZ・P2Z)に変換してファイルに書き込みます。
[外部ファイル書き込み]－[SXF一括]	全ての図面をSXFデータ(SFC・P21・SFZ・P2Z)に一括変換します。保存フォルダーには、図面のSXFデータと《電子納品ツール》で利用可能な図面情報管理ファイル(図面情報.BXM)を出力します。図面情報管理ファイルで出力する図面名・作成者名・縮尺・図面番号は、[図面・表題]の設定(図面名・受注会社名・尺度・図面番号)を適用します。縮尺は[レベル設定]で設定した図面の縮尺情報ではありませんのでご注意ください。
[外部ファイル書き込み]－[DXF・DWG]	データをDXF・DWG形式に変換してファイルに書き込みます。
[外部ファイル書き込み]－[JWC・JWW]	データをJWC・JWW形式に変換してファイルに書き込みます。
[外部ファイル書き込み]－[アスキー]	データをアスキー形式に変換しファイルに書き込みます。

[外部ファイル書込み]－[EXCEL]	CAD要素(線や文字要素)をEXCELデータに変換して出力します。 MicrosoftOfficeExcel(MicrosoftExcel)がインストールされている必要があります。
[外部ファイル書込み]－[画像出力]	図面を画像データ(JPEG・TIFF)で出力します。※OLEオブジェクトを画像に出力することはできません。
[外部ファイル書込み]－ [GoogleEarth]	図面の情報をGoogleEarth上に表示できるファイル(*.kmz)を出力します。 GoogleEarthがインストールされていれば、ファイル出力後にGoogleEarthを起動して表示します。※GoogleEarthは、Googleから無料で提供されている世界中の衛星写真を閲覧できるソフトです。
[外部ファイル書込み]－[X-FIELD データ]	CADデータ・座標データ・観測データを、X-FIELDデータ(*.XFD)に変換しファイルに書き込みます。CADデータに関連付いているリンクデータが存在する場合は、XLFファイルも同時に出力します。
[外部ファイル書込み]－[シェープファイル]	現在開いているページのCADデータをシェープファイルに変換します。
[外部ファイル書込み]－[拡張メタファイル(EMF)]	矩形指定した領域を拡張メタファイルに変換してファイルに出力します。ラスタデータは出力しません。
[外部ファイル書込み]－[拡張DM]	拡張DMデータに変換します。元ページを除くページの図面が出力対象になります。
[外部ファイル書込み]－[公共測量作業 規程DM]	データを公共測量作業規程DMのデータに変換してファイルに書き込みます。元ページを除くページの図面が出力対象になります。用紙内枠四隅を図郭座標として出力します。
[ホーム]タブ	
[文字]	文字列を入力します。テキストファイルから文章を読み込んで入力することも可能です。
[引出線]－[引出線]	要素を指定して、関連する文字列を引き出します。文字、線、マーク、引出線が対象です。
[引出線]－[赤書き]	赤書きを入力します。文字、引出線の文字、寸法線の文字が対象です。
[線入力]－[線入力]	図面上の任意位置を指定して、線を入力します。
[線入力]－[平行線]	基準となる線を指定し、その基準線に対して平行線を入力します。
[線入力]－[垂線]	基準線(直線、円、円弧、クロソイド)から、垂線を入力します。
[線入力]－[ヒゲ線]	ヒゲ線を入力します。
[線入力]－[折線]	折線(直角固定折線)を連続入力します。
[マーク]－[マーク入力]	マークを入力します。
[マーク]－[点番・地番]	点番名・地番名指定でマークを入力します。
[円]	円を入力します。
[補助点]－[オフセット点]	線、円、円弧、クロソイド要素を指定し、端点、または、指定点からオフセット距離を設定して補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]－[垂線の足]	任意点から指定した要素に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[2点指示]	任意の2点を指定して、2点間の距離を寸法入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[塗潰し]	塗り潰しを入力します。

[ハッチング]	ハッチングを入力します。[ホーム]タブ-[汎用作図]グループ-[ハッチング]コマンドをクリックします。
[ラスタ写真配置]-[配置]	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。
[ラスタ写真配置]-[一括配置・位置図作成]	写真を一括配置して、位置図を作成します。
[ラスタ写真配置]-[PDF取込アシスト]	PDFファイルをラスタ・ベクタ変換して配置します。※オプションプログラムが必要です。
[ラスタ部分編集]	ラスタデータを部分的に編集します。
[特殊線]	境界線、徒歩道、トンネル内の通路など特殊線を指定して入力します。あらかじめシンボル登録しておけば、シンボルを参照して任意形状の特殊線を入力することも可能です。
[シンボル]	神社、寺院などシンボルを指定して、図面上に入力します。
[座標地番登録]	任意点を指定して、座標、地番を登録します。
[拡大図]	部分拡大図を配置します。
[方位]	方位マークを指定して、図面上の任意の位置に配置します。固定レイヤ(方位マーク)に入ります。
[移動]	データを移動します。[ホーム]タブ-[データ編集]グループ-[移動]コマンドをクリックします。(概要)
[削除]	データを削除します。
[複写]	データを複写します。
[伸縮]	データを伸縮します。
[移動・回転]	データを移動・回転します。
[カット]-[要素指定カット]	指定要素と他の要素の交点でカットします。線・円・円弧・補助線(無限補助線は除く)が対象、カットを行う側は、線・円・円弧・補助線(無限補助線は除く)が対象です。カット後の要素は自動的にパック化されます。
[カット]-[範囲指定カット]	設定した対象の要素データの1部分を範囲指定し、その部分をカットします。
[データ属性]-[属性スタンプ]	データの属性を複写します。補助点、補助線、測点、マスク、手書きメモ、部品、ハッチングを除く要素が対象で、同一要素に対する属性複写です。
[データ属性]-[スポイト]	データの属性を取得し、[入力属性]を取得した属性に変更します。ただし、作業レイヤ以外のレイヤ属性、矢印属性を持たない要素の矢印属性、部品要素の属性は取得できません。
[文字編集]-[文字編集アシスト]	重なっている文字列を編集します。コマンド実行中でも、文字要素をダブルクリックで文字・引出線の訂正が可能です。
[文字編集]-[整列]	文字列を整列させます。
[文字編集]-[サーチ]	図面上の線や円などのデータと文字の重なり、または文字同士の重なりを検索して文字列の移動を行います。サーチすると自動的に[移動・回転]になります。
[線伸縮]	線を伸縮します。線分、連続線、上下線が対象です。
[延長止線]	指定した線を、他方で指定したライン上まで延長、または切断します。線分、連続線、上下線が対象、止める側は線分、連続線、補助線、円、円弧、上下線、自由曲線が対象です。

[整合]	2つの要素の交点で整合(交点まで伸縮)します。線分、連続線、上下線、円、円弧が対象です。
[レベル移動]-[形状移動]	形状を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
[レベル移動]-[用紙移動]	用紙を移動してレベル原点、回転角を訂正します。元ページから配置したレベルがある場合、そのレベルはこのコマンド実行後に元ページとの関連性がなくなります。
[レベル移動]-[合成]	レベルを合成します。
[クリップボード]-[複写]	図面上で選択したデータをクリップボードに複写します。
[クリップボード]-[貼り付け]	クリップボードに複写されたデータを図面上に貼り付けます。
[共通]タブ	
[CIMPHONY]-[同期]	CIMPHONYの作業データ(図面)と連携し、データのアップロード/ダウンロードを行います。
[CIMPHONY]-[連携解除]	CIMPHONYの作業データ(図面)との連携を解除します。現場との連携は解除されません。現場との連携を解除する場合は、[共通]タブ-[設定]グループ-[CIMPHONY]-[現場連携解除]で行います。
[CIMPHONY]-[現地調査図面データ]	CIMPHONYから現地調査図面データを取り込みます。(ダウンロードのみ可能) 現地調査図面データとは、弊社のスマホアプリ《現地調査ツール》で作成したデータ(図面)です。
[TREND-POINT]-[連携開始]	TREND-POINTとの連携を開始します。連携するには、TREND-POINTが起動している必要があります。連携している間は画面左下に「TREND-POINT連携中」と表示されます。連携中は座標系が強制的に「測量系」になります。
[TREND-POINT]-[連携終了]	TREND-POINTとの連携を終了します。
[TREND-POINT]-[作図エリア]	TREND-POINTの点群画像を背景として、作図エリアを作成します。現在のレベルが「用紙系1/1」以外の場合は、現在のレベルを元に作図エリアを自動配置します。ダイアログに表示される作図エリア領域がおかしい時は、レベルを選択しなおしてから再度実行してください。(現在のレベルとは、[プロパティ]の[共通属性]で選択中のレベルです。)
[TREND-POINT]-[点群画像の更新]	作図エリアコマンドで点群画像を配置後、[設定]ダイアログで解像度の変更をしたときや、TREND-POINT側の表示を変更した場合に更新します。
[TREND-POINT]-[外周自動作成]	構造物などの外周線を自動作成します。断面/立面図が対象です。
[TREND-POINT]-[等高線の取込]	TREND-POINTで作成した等高線を取り込みます。平面図が対象です。
[TREND-POINT]-[設定]	TREND-POINTとの連携を設定します。
[汎用作図]タブ	
[引出線]-[三斜引出]	三斜高さ線、底辺の長さの文字列を引き出します。三斜高さ線、三斜符号が対象です。
[線入力]-[線入力(基準線)]	方向角の基準となる線を指定して、入力する直線の始点から通過点までの距離と、基準線からの角度を入力して線を作成します。
[線入力]-[連続平行線]	基準となる線に対する平行線を距離指定で入力します。
[線入力]-[等分線]	等分線を入力します。

[線入力]－[接線]	円、円弧に対して、他方の円、円弧、または指定した点に接線を入力します。円弧を選択した場合、円と同様に円周上に接線を作成しますので、円弧がない所にも接線が作成される場合があります。
[線入力]－[矩形]	矩形を入力します。
[線入力]－[正多角形]	正多角形を入力します。
[線入力]－[表]	表を入力します。
[補助線]	補助線を入力します。固定レイヤ(補助線)に入ります。
[円弧]	円弧を入力します。
[楕円・弧]	楕円弧を入力します。(概要)
[手書きメモ]	手書きメモを入力します。手書きメモ要素で作成し、現在のレイヤに入ります。
[自由曲線]	自由曲線を入力します。
[コンタ]－[標高配置]	標高値を入力します。
[コンタ]－[標高訂正]	自由曲線の標高を訂正します。
[コンタ]－[コンタ範囲移動]	基準の通過点・移動先を指定し、編集範囲に含まれる全ての通過点を移動することで、コンタ線(等高線)を編集します。コンタ線(等高線)とは、自由曲線になります。通過点の合計が1000点まで、同時編集できます。
[コンタ]－[コンタ標高点補正]	標高点2点を指定して、標高点とコンタ線(等高線)の標高から通過点を移動し、標高点間のコンタ線と標高点付近のコンタ線(基準線の端を10mm延長したものと交差するコンタ線)の形状を編集します。標高点は、高さを持った点・マーク・測点要素、線分要素の端点が対象です。コンタ線(等高線)とは、標高(Z座標)を持った自由曲線になります。通過点の合計が1000点まで、同時編集できます。
[コンタ]－[連続線のコンタ化]	任意の数の連続線を指定し自由曲線を作成します。また、作成する自由曲線のハンドルの編集も行うことができます。
[コンタ自動]	Z座標を持つ測点、およびCADデータ(マーク、線、円、円弧、自由曲線、上下線、点、補助点)に対して自動的にコンタ線を配置します。
[直線]－[直線指示]	直線指定で寸法を入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[直線]－[引出点指示]	寸法線の方向を設定して、任意点間の距離を寸法入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[直線]－[3点垂直]	指定した2点の補助線に対して任意の点までの寸法を入力します。
[直線]－[連続線]	任意の各点を連続して指定し、各直線距離を寸法入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[直線]－[要素と点の距離]	直線、円、円弧に対して任意の点までの寸法を入力します。道路などの寸法を出す場合に使用します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[直線]－[斜め]	寸法線、または補助線を斜めに入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[角度]－[角度]	角度寸法を入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。座標系モードが測量座標系の時は進行方向に対して右回りの角度、数学系の時は進行方向に対して左回りの角度で寸法を入力します。
[角度]－[勾配]	2点指定で勾配寸法を入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されません。

[直径・半径]	円または円弧を選択して、直径、半径を寸法入力します。[汎用作図]タブ-[寸法線]グループ-[直径・半径]コマンドをクリックします。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[弧長・円周]	円周、円弧の長さを寸法入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されません。
[水平・垂直]	図形の水平・垂直距離の寸法値を入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[寸法編集]-[並列・直列]	寸法線要素(直線寸法・角度寸法・弧長寸法)を指定して、その寸法線と並列または直列に入力します。寸法値と寸法線は自動的にパック化されます。
[寸法編集]-[寸法値再計算]	[汎用作図]タブ-[寸法線]グループ-[寸法編集]-[寸法値再計算]コマンドをクリックします。 補助線の位置を移動して寸法値を再計算します。寸法線要素が対象です。寸法値は、[入力属性設定]で設定した縮尺を元に再計算します。円周寸法は再計算できません。[直線]-[2点指示]で入力した斜距離の寸法値、[寸法線]-[R寸法1][R寸法2]で入力した半径の寸法値の再計算はできません。共に、再計算は点間距離として再計算します。 [寸法線]-[水平・垂直][引出点指示][連続線][連続弧長][斜め]で複数同時入力した寸法線の場合、隣接する寸法線の寸法値も再計算します。ただし、[連続線]で入力した複数の傾きを持った寸法線の場合、隣接する寸法線の再計算はできません。
[寸法編集]-[合成・分割]	寸法を合成・分割します。
[寸法編集]-[寸法高調整]	寸法の高さを調整します。寸法線要素で作成した直線寸法・角度寸法・弧長寸法が対象です。[寸法線]-[連続線]で入力した複数の傾きを持った寸法線の高さ調整はできません。
[マーク]-[路線・縦横断]	[汎用作図]タブ-[点・領域]グループ-[マーク]-[路線・縦横断]コマンドをクリックします。現況変化点にプロットマークを入力します。
[SXF点]	任意位置を指定して、点を点要素として入力します。
[補助点]-[任意点]	任意の位置に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[線の中点]	線分・連続線を指定して、中点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[円の中心]	円・円弧・楕円・楕円弧を指定して中心点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[要素の端点]	線分・連続線・自由曲線・円弧・楕円弧の端点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[4点交点]	4点を指定して、1点目と2点目を通る直線と3点目と4点目を通る直線の交点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[2円の交点]	円の中心点位置と半径数値を入力した2つの円の交わる点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[垂直点]	線・円・円弧・クロソイドを指定して、指定した要素に対しておろした垂直線上に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[コンタ割付]	図面上で任意の2点を指定してその2点に標高を与え、2点間のピッチを入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[等分割]	[汎用作図]タブ-[点・領域]グループ-[補助点]-[等分割]コマンドをクリックします。分割した点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[補助点]-[重心]	重心に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。

[マスク]	マスク要素(背景色と同一色の塗り潰し要素)を入力します。
[ハッチング・塗り]－[中抜き]	ハッチング要素の領域内を中抜きします。
[ハッチング・塗り]－[編集]	塗り潰し・ハッチングの領域枠通過点を編集します。塗り潰し、ハッチング要素(ハッチングパターン(アイテム)が黄色のもの)が対象です。
[ラスター・写真配置]－[書込み]	ラスターデータをファイルに書き込みます。
[ラスター・写真配置]－[サイズ変更]	矩形指定で、ラスターデータを移動・回転しサイズ変更します。
[ラスター・写真配置]－[モノクロ化]	カラーラスターデータをモノクロ化(白黒2値化)します。
[ラスター・写真配置]－[合成]	個々に配置したラスターデータを合成します。
[拡張ラスター]－[レタッチ]	ラスターデータに対して、文字の追加や不要な部分の削除、必要な情報の追記などの編集を、別アプリケーションで行います。既に配置したラスターデータに対して、別アプリケーションで編集できることにより、別アプリケーションで編集→再度、ラスターデータを取り込んで配置などの処理軽減に有効です。
[拡張ラスター]－[解像度変更]	比率指定で、ピクセル数を減少させ、ラスターデータの解像度を変更します。解像度を低くする事により、画像が粗くなる状態になりますが、ファイルサイズが小さくなり、画像の処理時間を短縮します。
[拡張ラスター]－[ゴミ取り・穴埋め]	[汎用作図]タブ－[ラスター・写真]グループ－[拡張ラスター]－[ゴミ取り・穴埋め]コマンドをクリックします。ラスターデータのゴミ取り・穴埋めを行います。ラスターデータはモノクロラスターデータが対象です。
[拡張ラスター]－[細線・太線]	[汎用作図]タブ－[ラスター・写真]グループ－[拡張ラスター]－[細線・太線]コマンドをクリックします。ラスターデータの指定領域の線幅を変更します。ラスターデータはモノクロラスターデータが対象です。
[拡張ラスター]－[n点補正]	ラスターデータをN点補正します。N点補正は、補正元(ラスターデータ上の指定点)が、補正先(CAD画面上の指定点)に一致するように補正します。補正点は3点以上で、補正元は、ラスターデータ領域内のみ指定可能です。
[拡張ラスター]－[メッシュ]	ラスターデータをメッシュ補正します。 メッシュ補正は、ラスターデータ上にメッシュをばり、ラスターデータの任意点をメッシュ交点に移動することで補正します。メッシュの基点は、必ず、ラスターデータ内になります。任意点の補正先は、必ず、ラスターデータ内のメッシュ交点になります。 また、複数の任意点を1つのメッシュ交点に割り当てることはできません。ここでは、グリッド線の間隔にメッシュをばり、ラスターデータのトンボ(+)の中心をメッシュ交点に移動することで、トンボ内のラスターデータを補正する例で解説します。
[GeoTIFF]－[配置]	GeoTIFFを配置します。
[GeoTIFF]－[書込み]	配置済みのラスターデータをGeoTIFFとして書き込みます。
[OCR]－[図面OCR]	ラスターから文字列を取得します。
[OCR]－[公図結合]	ラスターを結合します。
[専用作図]タブ	
[図枠]－[図枠]	普通用紙の図面に対して図枠、トンボ、方眼、目盛を設定配置します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(図枠内枠・図枠外枠1-3・図枠トンボ・図枠方眼・図枠目盛)にそれぞれ入ります。
[図枠]－[国調枠]	普通用紙の図面に対して国調枠(国土調査法に基づいた枠)を配置します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(国調枠)に入ります。

[図枠]－[複数枠イメージ]	複数のページにまたがって図面を作成したとき、現ページの用紙位置を示す複数ページ全体のイメージ図を配置します。このコマンドは、専用の各コマンドで作成した図面データのあるページでのみ複数枠イメージ図を入力することができます。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(複数枠)に入ります。
[地積枠]	複地積用紙の図面(地積図)に対して、地積枠を配置します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(地積枠・地積枠トンボ)に入ります。
[申請文字]－[申請文字]	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に出力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(申請書)に入ります。
[申請文字]－[申請文字一括]	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に一括出力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(申請書)に入ります。
[表題欄]－[表題欄]	図面表題欄を入力します。図面表題欄は、1ページに1つしか作成できません。
[表題欄]－[表題欄一括]	表題欄を一括配置します。
[数量計算表]－[数量計算表]	数量計算表を配置します。
[数量計算表]－[訂正]	数量計算表を訂正します。
[特殊記号]	特殊記号を入力します。家、塀、階段などあらかじめ登録されている特殊な記号を指定して図面上に入力します。下の解説図は家記号1(1点方向指定)を入力した例です。
[パラメトリック]	パラメトリック図形を選択し設定されている変数に値を入力して図面に配置します。寸法値の丸めは、[値設定]コマンドで設定します。寸法線は、固定レイヤ(寸法線)に入ります。
[部品]	部品を入力します。部品は線や円などの要素の属性(SXF属性、DM属性除く)を保持しながら部品要素という1つの要素で管理します。そのため、[分解]などで登録前の要素に戻すことも可能です。
[座標地番登録]－[座標地番編集]	《座標管理》《地番管理》に登録済みの座標・地番を編集します。コマンド実行時に、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[面積調整]	閉合領域の面積を調整します。
[交点計算]	CAD上で交点計算することができます。計算結果の《座標管理》への登録や、《交点計算》への作業データ化が可能です。
[座標結線]－[座標結線]	任意点を指定して、指定した点間に線を結んで距離、勾配、方向角を表示します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[座標結線]－[クロソイド・オフセット]	クロソイド・オフセット線を入力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[旗上げ]－[縦断図旗上げ]	図面上で旗上げを入力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(旗上げ)に入ります。
[旗上げ]－[路線図旗上げ]	路線図のデータを指定して旗上げを入力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(旗上げ)に入ります。
[用地支援]	用地情報の配置と、現地で測量したデータを元に地番の登録を行います。
[土量計算]－[土量計算]	土量(数量)を計算し、土量計算表を作成します。土量計算表は表要素で作成します。

[土量計算]－[土量集計]	土量計算表を集計し、EXCELデータに変換して出力します。CSVファイルの出力も可能です。[汎用]－[測量]－[土量計算]コマンドで作成した土量計算表が対象です。編集で複製した表は、集計の対象外になります。MicrosoftOfficeExcel (MicrosoftExcel)がインストールされている必要があります。
[土量計算]－[土工区分線]	指定した領域に土工区分線を入力します。
[登記情報]	《地番管理》の情報を取り込んで、CAD上に文字列を配置します。
[プロット]－[座標値]	座標値をプロットします。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[プロット]－[標高値]	設定されている引出線タイプにしたがって、標高値や距離値、レベル記号などを配置します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[専用ツール]－[簡易図]	簡易断面図を作成します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。
[専用ツール]－[断面図]	平面図のセンター・左右端点を指定して横断面図を作成します。
[専用ツール]－[ベクトル図]	ベクトル図を入力します。ベクトル図とは、座標補正による変動量を図化し、補正前後の座標値と変動量を表配置したものです。
[専用ツール]－[注釈]	文字列を指定して注釈を入力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。注釈の符号、文字列の属性は、指定した文字列の属性になります。
[専用ツール]－[車両軌跡]	車両軌跡を入力します。
[専用ツール]－[導流路]	車線(線・円弧)を指定して、導流路を入力します。
[専用ツール]－[法枠配置]	法枠を配置します。
[専用ツール]－[杭凡例]	座標管理に入力されている[杭種]から凡例表を作成して配置します。表のフォームは《フリーフォーマット作成》の[CAD]－[杭凡例]で作成または変更することができます。
[専用ツール]－[ヘロン三斜]	ヘロン・三斜図と面積表を入力します。面積表は表要素で作成します。
[専用ツール]－[基準点計画チェック]	CAD上に基準点測量計画を作成し、作業規程に沿っているかチェックします。あらかじめレベルを設定し、背景地図(ラスタ等)と既知点となるプロット点を配置してある状態で、[基準点計画チェック]を実行してください。
[法面]－[法面]	法面記号を配置します。
[法面]－[法面自動]	要素が持つ標高値を取得して、法面記号を自動配置します。
[法面]－[法面平行移動]	斜面記号要素を上下線の領域内で平行移動します。次の記号が対象です。記号456
[道路地物作画]	道路地物を作図します。
[建物作図]－[建物作成]	建物形状を入力します。建物のでっぱっている角の点を観測し、建物形状を入力するのに有効です。
[建物作図]－[直線補正]	歪んでいる連続線を指定して、直線化補正を行います。
[CAD製図基準]	図面をCAD製図基準に従ってチェックします。
[朱書き]	朱書きを入力します。固定レイヤ(朱書き)に入ります。
[データ編集]タブ	
[複製]－[配列複製]	データを配列複製します。データを一定間隔で複数複製したい場合に有効です。

[カット]－[線間カット]	カットする線間部分を指定して、他の要素データと交わる点でカットします。線・円・円弧・自由曲線が対象、カットを行う側は、線、無限補助線、上下線、円、円弧、楕円、楕円弧、自由曲線が対象です。
[カット]－[マーク指定カット]	プロットマーク内のデータをカットします。線分・連続線・円・円弧がカットの対象です。
[回転ミラー]	データを回転・鏡像移動(複写)します。
[分解]	データを分解します。
[変形]－[変形]	データを変形します。線データの端点を範囲指定した場合、その端点を移動して全体を変形します。指定した範囲内に1つの図形データが含まれている場合、そのデータ全体を移動します。円、自由曲線は通過点が指定範囲に含まれないと変形しません。寸法線は、設定により再計算して寸法値を表示させることも可能です。元データ非選択モードがオンになっている場合は、専用メニューにより自動作成されたデータは変形の対象になりません。
[変形]－[変形(寸法訂正)]	寸法値を指定して変形します。寸法線要素が対象です。
[パック]－[入力]	要素を選択し、それぞれの属性を保持しながら1つのデータとしてパックします。編集するときに、パック単位で処理ができます。ここでパック化されたデータは、[パック指定]コマンドがオンになっているときに有効です。
[パック]－[編集]	パックを訂正します。
[パック]－[解除]	パックしたデータを解除します。解除したデータは、パック単位での編集が行えません。
[ツール]－[属性移動]	データが持つ属性を移動します。属性は、共通属性であるレイヤ、ペン、レベル、線種、カラーで、各要素が持つものが対象です。
[ツール]－[DMLレイヤー括変換]	DMLレイヤのデータを作業レイヤに変換します。属性は、共通属性であるレイヤ、ペン、レベル、線種、カラーで、各要素が持つものが対象です。
[ツール]－[クリーンアップ]	不要なデータを削除します。
[ツール]－[重複線サーチ]	重複線を検索し発見した重複線を1本化します。線分、連続線が対象です。
[ツール]－[標高訂正]	自由曲線の標高を訂正します。線分、連続線が対象です。
[ツール]－[標高自動割付]	標高が1つ以上入力されている線の他の通過点に標高を割り付けます。標高は、前後の標高が設定されている通過点から距離に比例配分して割り付けます。標高が1つの場合は、同じ標高になります。線分、連続線、上下線が対象です。
[SXF属性]－[属性マスター]	SXF属性のマスターを設定します。
[SXF属性]－[属性入力確認]	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)にSXF属性を付加します。
[SXF属性]－[属性一覧]	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に付加したSXF属性、ターゲットの確認・編集を行います。
[SXF属性]－[属性複写]	要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に付加したSXF属性を他の要素、パック(要素の上位グループ)、ラスタデータ(画像)に複写します。
[SXF属性]－[属性一括]	要素、パック(要素の上位グループ)にSXF属性を付加します。
[復帰]	削除された元データ([配置]メニューの各配置コマンドで作成したデータ)を復帰します。

[表示順]－[前面へ]	<p>[設定]－[共通設定]の[描画順]で、[データ順で描画]がONの場合に有効です。データ順を1つ前面へ移動します。</p> <p>●コマンド実行後に複数データを選択して並べ替えた場合、選択した順番で移動します。選択順によっては、選択したデータ内の描画順が移動後に異なる場合があります。</p> <p>●パック要素内のデータを一部選択した場合、パックを分割して移動します。ただし、移動した方のデータが単一であった場合、パックを解除します。</p> <p>●パック要素として背面へ・前面へを行うには、パック指定([設定]－[選択モード]－[パック指定]コマンド)で、データを選択してください。</p> <p>●画像(ラスタ)は、設定されているレベルに関係なく、用紙系1/1として扱います。</p>
[表示順]－[背面へ]	<p>[設定]－[共通設定]の[描画順]で、[データ順で描画]がONの場合に有効です。データ順を1つ背面へ移動します。</p> <p>●コマンド実行後に複数データを選択して並べ替えた場合、選択した順番で移動します。選択順によっては、選択したデータ内の描画順が移動後に異なる場合があります。</p> <p>●パック要素内のデータを一部選択した場合、パックを分割して移動します。ただし、移動した方のデータが単一であった場合、パックを解除します。</p> <p>●パック要素として背面へ・前面へを行うには、パック指定([設定]－[選択モード]－[パック指定]コマンド)で、データを選択してください。</p> <p>●画像(ラスタ)は、設定されているレベルに関係なく、用紙系1/1として扱います。</p>
[表示順]－[一括並べ替え]	<p>[設定]－[共通設定]コマンドの[描画順]で、[データ順で描画]がONの場合に有効です。以下のデータ順の並べ替え、レベルの変更を行います。レイヤ設定で、非表示のデータも並べ替えの対象です。</p> <p>●同一レベル(部分図)に属するデータを連続した描画順にします。</p> <p>●パック(作図グループ)内でレベルが混在している場合には、レベルごとにパックを分割します。</p> <p>●ラスタのレベルを用紙系1/1に変更します。SXFVer3.1仕様に基づき、異なるアプリケーションでも同じ表示にするために有効です。</p>
[線編集]－[連続線延長]	連続線を延長します。線分、連続線、上下線が対象です。
[線編集]－[面取り]	同一頂点に整合されている2つの要素を面取りします。線分、連続線、円弧が対象です。
[線編集]－[線記号反転]	線記号を基準線を境に反転します。
[線編集]－[点移動・挿入・削除]	通過点を編集します。連続線、自由曲線、上下線が対象です。
[線編集]－[分割・結合]	データを分割・結合します。
[線編集]－[部分訂正]	データを部分的(ハンドル間)に訂正します。連続線、自由曲線が対象です。
[線編集]－[部分非表示]	データを一部非表示にします。連続線、上下線が対象です。
[平行移動]	文字列を平行移動します。文字要素、直線寸法線、直径寸法線、半径寸法線、引出線要素の文字要素が対象です。
[文字編集]－[置換]	文字を置換します。
[文字編集]－[分解・連結]	文字列を分解・文字を連結します。
[文字編集]－[移動・回転]	文字列を移動・回転します。
[追加]	レベルを追加します。
[編集]	レベルを編集します。ただし、レベルが1つも追加されていない用紙系1/1のレベル、元ページから配置したレベルは編集できません。
[複写]	表示ページに、他のページのレベルを複写します。同一ページ内へのレベルの複写も可能です。
[複写(範囲)]	矩形範囲を指定して、範囲内のデータをクリップボードに複写します。

[図面配置]タブ	
[地積図]－[地積図配置]	地積図を配置します。
[地積図]－[地積図スタイル]	地積図に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[地積図一筆配置][地積図一筆拔出]のスタイルもここでの設定が有効になります。
[地積図]－[地積図数値条件]	地積図の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[地積図]－[地積図分属配置]	分属図を自動作成します。
[地積図]－[地積図分属スタイル]	分属図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[地積図一筆配置][地積図一筆拔出]のスタイルもここでの設定が有効になります。
[地積図]－[地積図分属数値条件]	分属図の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[地積図]－[地積図一筆配置]	地積図を配置します。
[地積図]－[地積図一筆抜き出し]	すでに作成されている地積図、測量図の地番から複数の地番を地積図として一括して作成します。
[地積図]－[地積図属性塗潰し]	図面の地番表示色を、地目単位、求積属性単位または判定単位に塗り潰します。32種類まで塗り潰すことができます。
[測量図]－[測量図配置]	測量図を配置します。
[測量図]－[測量図スタイル]	測量図に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[測量図一筆配置][測量図一筆拔出]のスタイルもここでの設定が有効になります。
[測量図]－[測量図数値条件]	測量図の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[測量図]－[測量図分属配置]	分属図を自動作成します。
[測量図]－[測量図分属スタイル]	分属図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[測量図一筆配置][測量図一筆拔出]のスタイルもここでの設定が有効になります。
[測量図]－[測量図分属数値条件]	分属図の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[測量図]－[測量図一筆配置]	測量図を配置します。
[測量図]－[測量図属性塗潰し]	図面の地番表示色を、地目単位、求積属性単位または判定単位に塗り潰します。32種類まで塗り潰すことができます。
[プロット図]－[プロット図配置]	プロット図を配置します。
[プロット図]－[プロット図スタイル]	プロット図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[プロット図]－[プロット図数値条件]	プロット図の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[座標一覧]－[座標一覧配置]	座標一覧を配置します。

[座標一覧]－[座標一覧数値条件]	座標一覧表の数値の丸めを設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、座標一覧表を作成し直します。また、これらの計算に関する丸めは、[条件設定]の計算関係の各丸めの設定が連動します。ただし、座標の丸めは[数値条件]で設定します。
[路線図]－[路線図配置]	路線図を配置します。
[路線図]－[路線図スタイル]	路線図を図面に表示するための作成条件を設定します。
[路線図]－[曲線要素表]	《路線測量》のデータを元に、曲線要素表を配置します。要素表のタイプは[路線図配置]の[要素表選択]で設定します。
[路線図]－[曲線要素一覧]	《路線測量》のデータを元に、曲線要素一覧表を配置します。要素表のタイプは[路線図配置]の[要素表選択]で設定します。
[縦断面図]－[縦断面図配置]	縦断面図を配置します。
[縦断面図]－[縦断面図スタイル]	縦断面図を図面に表示するための作成条件を設定します。
[縦断面図]－[縦断面図数値条件]	縦断面図に作成される数値の表示に関する丸めを、距離、DL値、地盤高、計画高、縦断面曲線、勾配などについて設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(DL値などのレイヤに関係ない変更は、[配置]で再作成します。) 図面に表示される数値は《縦横断面測量》の数値を[数値条件]で丸めて再計算されたものが表示されます。
[横断面図]－[横断面図配置]	横断面図を配置します。
[横断面図]－[横断面図スタイル]	横断面図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。計算の丸めは[条件設定]、図面表示の丸めは[数値条件]の各丸め項目内容が連動します。
[横断面図]－[横断面図数値条件]	横断面図に作成される数値の表示に関する丸めを、距離、DL値、杭頭高、地盤高、計画高、勾配、寸法線について設定します。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(DL値などのレイヤに関係ない変更は、[配置]で再作成します。)
[基準点網図]－[基準点網図配置]	基準点網図を配置します。
[基準点網図]－[基準点網図スタイル]	基準点網図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[基準点網図]－[路線閉合差表]	[基準点網図配置]で配置した図面に路線閉合差表を配置します。
[基準点網図]－[単位標準偏差]	[基準点網図配置]で配置した図面に単位標準偏差表を配置します。
[基準点網図]－[新点標準偏差]	[基準点網図配置]で配置した図面に新点標準偏差表を配置します。
[トラバー網図]－[トラバー網図配置]	トラバー網図を配置します。
[トラバー網図]－[トラバー網図スタイル]	トラバース網図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[トラバー網図]－[トラバー網図数値条件]	トラバース網図の数値の丸めを設定します。既存図面のスタイル(数値条件)を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。数値の丸めは[数値条件]で設定します。ただし、計算時に必要な丸めで[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[逆トラバー網図]－[逆トラバー網図配置]	逆トラバー網図を配置します。
[逆トラバー網図]－[逆トラバー網図スタイル]	逆トラバース網図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。

[逆トラバー網図]－[逆トラバー網図数値条件]	逆トラバー網図の数値の丸めを設定します。既存図面のスタイル(数値条件)を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。数値の丸めは[数値条件]で設定します。ただし、計算時に必要な丸めで[数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[国調図]－[国調図配置]	国調図を配置します。
[国調図]－[国調図スタイル]	国調図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[国調図]－[国調図数値条件]	作成図面の丸めを設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。(レイヤに関係ない変更は、[国調図配置]で再作成します。)数値の丸めは[国調図数値条件]で設定します。ただし、計算時に必要な丸めで[国調図数値条件]にない丸めは、[条件設定]の設定から取得します。
[国調図]－[地籍一覧配置]	地籍図一覧図を配置します。
[国調図]－[地籍一覧スタイル]	地籍図一覧図の作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[展開図]－[展開図配置]	展開図を配置します。
[展開図]－[展開図スタイル]	展開図を図面に表示するための作成条件を設定します。
[擁壁展開図]－[擁壁展開図配置]	擁壁展開図を配置します。
[擁壁展開図]－[擁壁展開図スタイル]	擁壁展開図を図面に表示するための作成条件を設定します。
[擁壁展開図]－[断面数量配置]	断面数量表を配置します。
[3次元プロット]－[3次元プロット配置]	3次元プロットを配置します。
[3次元プロット]－[3次元プロットスタイル]	コンタ図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[設定]タブ	
[レイヤ設定]	レイヤを設定します。
[レベル設定]	レベルを設定します。
[ペン設定]	ペンを設定します。
[線種設定]	線種を設定します。
[カラー設定]	カラーパレットを設定します。
[値設定]	図面上において、座標値を入力、または距離、面積、勾配、寸法などの値を表示するときの丸め、丸めの最小単位、小数点以下の桁数、角度の表示方法などの設定を行います。
[用紙設定]	用紙種類、内枠サイズ、用紙オフセットなどを設定します。
[共通設定]	共通項目を設定します。
[形状表示]	属性別の各階層毎に形状表示します。
[入力属性]	データを入力するときの属性を設定します。[プロパティ]でも確認・変更が可能です。
[座標系]－[測量系]	データ入力時の座標を測量座標系に設定します。
[座標系]－[数学系]	データ入力時の座標を数学座標系に設定します。

[属性パターン]	属性パターンを入力するモードのON・OFFを切り替えます。 属性パターンとは、要素がもつ属性(レイヤ、ペン、線種、カラー、フォント、サイズ、間隔)の設定状態を保持したテンプレートです。 要素の新規入力時に、属性パターン(レイヤ、ペン、線種、カラー、フォント、サイズ、間隔)、またはCAD製図基準連動(レイヤ、線種、カラー)の属性を一括して設定することができます。また配置済み要素属性の一括変更も可能です。
[成果情報]	図面に成果情報を設定します。
[表示モード]－[表示色:レイヤ]	図面上のデータをレイヤ別に設定した色で表示します。このモードでは[レイヤ設定]で設定した色が有効です。
[表示モード]－[表示色:ペン]	図面上のデータをペンNo別に設定した色で表示します。このモードでは[ペン設定]で設定した色が有効です。
[表示モード]－[表示色:線種]	図面上のデータを線種別に設定した色で表示します。このモードでは[線種設定]で設定した色が有効です。
[表示モード]－[表示色:レベル]	図面上のデータをレベル別に設定した色で表示します。このモードでは[レベル設定]で設定した色が有効です。
[表示モード]－[表示色:カラー]	図面上のデータを属性のカラーで設定した色で表示します。このモードでは[カラー設定]で設定した色が有効です。
[選択モード]－[ポイント]	マウスでクリックした点のデータを選択します。
[選択モード]－[クロス]	2点間上に交差するデータを選択します。
[選択モード]－[矩形イン]	2点指定矩形内のデータを選択します。
[選択モード]－[矩形タッチ]	2点指定矩形上に交差するデータ、または矩形内に囲まれているデータを選択します。
[選択モード]－[多角形イン]	N点指定多角形内のデータを選択します。
[選択モード]－[多角形タッチ]	N点指定多角形上に交差するデータ、または多角形内に囲まれているデータを選択します。
[選択モード]－[フリーハンド]	マウスで描いた軌跡上に交差するデータを選択します。
[選択モード]－[フリーハンドイン]	マウスで描いた軌跡上の領域内のデータを選択します。
[選択モード]－[フリーハンドタッチ]	マウスで描いた軌跡上の領域に交差するデータ、領域内に囲まれているデータを選択します。
[選択モード]－[パック指定]	図面上のデータを選択する際、選択対象データをパック単位にするか、しないかのモードを切り替えます。例えば、線や文字が混在しているデータでパック化されているとき、その一部のデータを選択するとパックされているデータも選択されます。
[選択モード]－[選択移動]	選択移動の場合、選択したデータにはハンドルが表示され、データの移動、複写ができます。また、ハンドルをクリックして移動した場合は、データ自体の移動ではなく、ハンドルの移動になります。OFFの場合は、データ選択のみになります。不意に要素を移動したり、変形したりしまわないように、うまく使い分けてください。
[選択モード]－[全選択]	要素別に全てのデータを選択します。
[選択モード]－[属性選択]	属性別の階層毎にデータを選択します。
[選択モード]－[要素属性で再選択]	選択対象にする属性を設定します。
[入力モード]－[ドラフタ]	ドラフタ機能を有効にする、しないを切り替えます。ドラフタ機能がオンの時、入力の際に設定した角度の方向のみ限定して入力することができます。

[入力モード]-[座標補正△XY]	データの編集時の入力位置や基準位置を指定するとき、マウスでクリックした位置からの縦、横の移動量を入力して入力点、基準点の位置を設定する機能のON、OFFを切り替えます。
[入力モード]-[絶対座標入力]	絶対座標値を指定して入力します。
[入力モード]-[相対座標入力]	図面上で2点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの相対座標(距離)を指定して入力します。
[入力モード]-[極座標入力]	図面上で2点目以降のデータを入力するとき、次点の入力位置を前点からの距離と方向角を入力して指定します。このコマンドは、同一データで2点目のデータ入力時に有効です。
[入力モード]-[距離勾配入力]	図面上で2点目以降のデータを入力するときなどに次点の入力位置を前点からの距離と勾配を入力して指定します。このコマンドは、同一データで2点目のデータ入力時に有効です。
[ピックモード]-[マーク]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いプロットマークの中心点にします。
[ピックモード]-[交点]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い交点にします。
[ピックモード]-[端点]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い端点にします。
[ピックモード]-[グリッド]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近いグリッドの交点にします。
[ピックモード]-[フリー]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置にします。
[ピックモード]-[線上]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線上にします。
[ピックモード]-[中点]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い線の中点にします。
[ピックモード]-[中心]	入力位置または基準位置を、マウスでクリックした位置に1番近い円(円弧)、または楕円(楕円弧)の中心点にします。
[ピックモード]-[ラスタ]	ラスタデータのピックモードを有効にします。ラスタデータは、モノクロ(白黒の2値)のラスタデータが対象です。《CAD》ピックモードの設定は[共通設定]-[共通設定(ピックモード)]ダイアログで設定します。
[ピックモード]-[ダイナミックピック]	マウスポインターにピックすることができる点のイメージを表示するかしないかを切り替えます。
[ピックモード]-[音声ガイド]	入力位置や基準位置をマウスで指定したときに、ピックモード名を音声にしてくれるモードで、そのON、OFFを切り替えます。出力される音声は、ピックモード名(フリーやグリッドなど)を出力します。
[カスタマイズ]	使い易いようにカスタマイズします。
[数値地形]タブ	
[DM入力モード]	DM属性を入力するモードのON・OFFを切り替えます。
[測点一覧]	測点の一覧を表示します。座標値の丸めは、[値設定]で設定します。
[標高値編集]	測点の標高値を編集します。
[CAD測点登録]-[CAD測点登録]	CAD画面上から測点を登録します。座標値の丸めは、[値設定]で設定します。
[CAD測点登録]-[CAD測点訂正]	CAD画面上の測点を訂正します。
[観測データ一覧]-[現況観測データ]	現況観測で得られたデータの一覧を表示します。また、観測した点を訂正することもできます。

[観測データ一覧]－[対回観測データ]	対回観測で得られた観測データの一覧を表示します。また、観測点のデータ訂正も行えます。
[観測データ一覧]－[GNSS観測データ]	GNSS観測で得られたデータの一覧を表示します。
[ページ情報]	ページ情報を入力します。その他情報では、写真管理情報や測地系の情報を入力します。
[観測条件設定]	観測データを取り込むときの距離、角度などの丸め方法、丸めの最小単位、小数点以下の桁数の設定を行います。
[DM属性設定]	文字や線データなどを入力するときのDM属性をします。
[DMマスター]	DM記号を設定します。
[点名・標高値]－[個別配置]	標高(標高値が未設定でも可能)を持つ点に点名、標高値を入力します。指定要素は、任意の測点、点記号、連続線の端点、通過点の対象となります。
[点名・標高値]－[測点より一括]	標高(標高値が未設定でも可能)を持つ測点に点名、標高値を入力します。
[斜面記号個別]	図面上に斜面記号を配置します。斜面記号は線や円要素で作成します。
[建物野帳]－[建物野帳]	建物の形状を入力して図面上に配置します。建物線のDM属性は、普通:DMNo3001:普通建物、堅牢:DMNo3002:堅ろう建物、無壁線のDM属性は、普通:DMNo3003:普通無壁舎、堅牢:DMNo3004:無壁舎になります。
[建物野帳]－[建物影線追加]	建物形状に影線を入力します。建物影線は、一般要素で入力されます。平面図には通常土地の形状を描きますが、建物は土地ではなくそこに建っているものですから、平面図でもそれが明確に分かるようにしたい場合があります。その場合、このコマンドで建物影線を入力し、建物を立体的にみせることが可能です。
[電線方向]－[電線方向入力]	電線を表す線を入力します。
[電線方向]－[電線方向削除]	入力した電線を表す線を削除します。
[電柱支線]－[電柱支線入力]	電柱支線を入力します。
[電柱支線]－[電柱支線削除]	入力した電柱支線を削除します。
[石段・階段]	石段・階段を入力します。石段・階段線のDM属性は、外枠:DMNo2214:石段・図形区分:0、階段線:DMNo2214:石段(階段線)・図形区分:99になります。
[検索]－[測点検索]	測点を、点番、点名より検索します。
[検索]－[次点検索]	次の点を検索します。
[検索]－[前点検索]	前の点を検索します。
[カーブ計算]－[単曲線計算(座標より)]	2点のXY座標(Z座標は0.00)を弧として結ぶ半径Rの円弧より、TL、CL、SL、IAを求めます。
[カーブ計算]－[単曲線計算(計算より)]	IAとRからTL、CL、SLを求めます。
[カーブ計算]－[偏角法単曲線設置計算]	単曲線の始点から指定した距離の点までの、偏角と弦長を求めます。
[カーブ計算]－[偏角法クロノイド線設置計算]	クロノイドの始点から指定した距離の点までの、偏角と弦長を求めます。
[DMチェック]－[DMチェック]	“作業規程の準則”の「数値地形図データファイル仕様」に基づいてDMデータをチェックします。ただし、元ページではDMデータのチェックのみでDMファイルチェックはできません。拡張DMファイルを読み込み、DMファイルチェック・DMデータチェックを行いたい場合は、新規にページを作成して実行してください。

[DMチェック]－[精度管理表]	拡張DMファイルを指定してDMデータの精度管理表を作成します。精度管理表はEXCELデータで作成しますので、MicrosoftOfficeExcel (MicrosoftExcel) がインストールされている必要があります。
[表示]タブ	
[確定]	連続してデータを入力する場合などで、最終的に確定する場合に使用するコマンドです。
[後退]	データの入力処理の過程、または編集処理の過程で一つ前の入力状態に戻します。
[取消]	確定前の入力データやデータの選択範囲などを取り消す場合などに使用するコマンドです。
[中止]	実行中のコマンドを終了し、コマンド選択または、オブジェクト選択状態にします。
[元に戻す]	直前に行ったCAD操作を元の状態に戻します。[元に戻す]は連続して実行でき、順番に操作をさかのぼっていきます。元に戻した操作は[やり直し]で再度実行させることができます。
[やり直し]	[元に戻す]で実行した内容を取り消します。[やり直し]は、連続して行った[元に戻す]の処理を順番にすべてやり直すことができます。
[範囲拡大]	指定範囲を拡大します。
[原図]－[原図]	原図領域が最大表示されるようにします。元ページでは、配置されている要素に外接する矩形を算出して原図範囲とします。ただし、原図領域が設定されている場合は、原図領域が原図範囲となります。
[原図]－[原図領域]	表示範囲を、原図コマンドで表示する「原図領域」に設定します。
[再描画]	画面内容を表示し直します。
[データ領域]	データ(ラスタデータも含む)が画面内に収まるように表示します。レイヤ設定・レベル設定・ペン設定で表示オンになっているデータが対象です。
[3D]－[3Dビュー]	3Dビューを表示します。
[3D]－[3D情報訂正]	標高を持ったデータを3次元的に見ることが可能で、立体的な形状を見ながら標高の訂正などが行えます。
[文字列検索]	表示されている点番、点名、地番などの中から、指定した文字列を検索して、画面の中心に表示します。引出線、寸法線の文字列も検索対象となります。
[地理院タイル]－[地理院タイル背景表示]	地理院タイルを背景に表示します。
[地理院タイル]－[地理院タイル設定]	地理院タイルの表示設定を行います。
[地理院タイル]－[ラスタ化(範囲指定)]	地理院タイルの指定した範囲をラスタ化します。
[ストリートビュー]	ストリートビューを表示します。
[計測]－[2点間の距離方向角]	指定した2点間の距離および方向角を表示します。XYZ座標、距離、方向角の表示丸めは[値設定]で設定された条件が有効になります。
[計測]－[点と線の距離方向角]	任意の点と直線を指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。表示する実際の距離、および実際の方向角は、レベルの縮尺、回転角に影響します。また、XY座標、距離、方向角の表示丸めは[値設定]の[値設定]ダイアログで設定された条件が有効になります。
[計測]－[連続距離]	図面上で連続的に点を指定していき、その総延長を表示します。距離の表示丸めは[値設定]で設定された条件が有効になります。

[計測]－[3点内角]	3点を指定して、内角(1点目から2点目の進行方向に対して右回りの角度)を表示します。XY座標、内角の表示丸めは[値設定]で設定された条件が有効になります。
[計測]－[3点垂直]	指定した2点と任意の点との距離を表示します。距離の表示丸めは[値設定]で設定された条件が有効になります。
[計測]－[斜距離]	任意の2点を指定し、2点のZ座標を入力して斜距離を表示します。斜距離は、レベルに影響します。ただし、指定した2点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。また、XYZ座標、斜距離の表示丸めは[値設定]の[値設定]ダイアログで設定された条件が有効になります。
[計測]－[斜面積]	図面上の任意の3点を指定し、指定した3点のZ座標を入力して斜面積を表示します。斜面積は、レベルに影響します。ただし、指定した3点がプロットマークの場合、そのマークを入力したレベルが有効になります。また、XYZ座標、斜面積の表示丸めは[値設定]の[値設定]ダイアログで設定された条件が有効になります。
[計測]－[面積]	面積を表示します。面積は、レベルの縮尺に影響します。
[計測]－[要素長]	線、円、円弧、自由曲線、クロソイド要素の要素長を表示します。
[計測]－[合計]	CADで複数選択した文字列(数値)を合計し、合計値を配置します。
[計測]－[データ量の状態]	図面に入力されている要素数(データ数)を表示します。
[計測]－[座標デジタイズ]	任意の点を指定して、用紙座標上のX、Y座標値、現場座標上のX、Y、Z座標値を表示します。
[ステータスバー]	アプリケーションウィンドウの下方に、座標数や地番数などを表示するステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
[ファンクションバー]	用意されている機能をファンクションバー(ファンクションキー)に割り当てます。Shiftキー、Ctrlキーと組み合わせることができます。
[ページタブバー]	ページタブバーの表示/非表示を切り替えます。
[ページ一覧]－[ページ一覧]	ページを一覧表示して、編集する図面のページを選択します。
[ページ一覧]－[追加]	ページを追加します。最大100ページ(元ページ含まず)まで追加できます。
[ページ一覧]－[挿入]	ページを挿入します。最大100ページ(元ページを含まず)まで挿入できます。
[ページ一覧]－[削除]	ページを削除します。
[ページ一覧]－[作業情報]	作業情報を設定します。ただし、作業情報の中で、縮尺・回転角以外は、図面上には反映しません。
[前ページ]	前のページへ移動します。
[次ページ]	次のページへ移動します。
[元ページ]－[元ページ]	元ページを表示します。元ページは、用紙サイズを気にせず編集作業を行って、最後に用紙に割付けることが可能なページです。ただし、元ページでは使用できないコマンドもいくつかありますので、用紙配置後のページで作業を行うなどして対応してください。
[元ページ]－[配置]	元ページのデータに用紙を配置して図面を作成します。
[元ページ]－[同期]	元ページから配置した各ページのデータの同期をとります。
[元ページ]－[元ページに合成]	各ページの図面を元ページに取り込みます。図面取込み→元ページに合成→元ページで入力・編集→同期で各ページに反映→図面を出力という流れも可能になります。
[CAD画面分割]－[左右に分割]	CAD画面を左右に分割します。

[CAD画面分割]－[上下に分割]	CAD画面を上下に分割します。
[CAD画面分割]－[4分割]	CAD画面を4分割します。
[CAD画面分割]－[分割なし]	CAD画面を分割なしにします。
[ラスベク変換]タブ	
[全体]	ラスタデータ全体を、ベクトルデータに一括変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
[範囲]	変換する領域を指定し、ベクトルデータに一括変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
[設定]	ラスタデータをベクトルデータに一括変換する設定を行います。
[自動追従]	指定点から連続するラスタデータを、連続線に変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。地図や等高線などを部分的に変換したい場合や、平面図の外枠だけを変換したい場合などに有効です。
[閉合図形]	指定した閉合領域を変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
[輪郭]	指定点を含む塗り潰し領域の輪郭を変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
[コンタレース]	指定した2点と交差するラスタデータを、標高を持った自由曲線に変換します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。
[トレース設定]	自動トレースで変換する設定を行います。
[ラスタスナップ]	ラスタデータの端点、交点に補助点を入力します。ラスタデータはモノクロラスタデータが対象です。カラーラスタは変換できません。補助点は、固定レイヤ(補助点)に入ります。
[スナップ設定]	ラスタスナップの設定を行います。
[線種復元]	ベクトルデータの編集を行います。入力点を結ぶ線とその誤差範囲に全体が含まれる線を連続線に変換します。自由曲線の場合、新規に連続線要素を作成して復元します。
[お気に入り]タブ	
[追加編集]	リボンのお気に入りタブを編集します。

各階平面図のコマンド

ステージ	
[建物(一棟)]	[建物(一棟)]ステージに移動します。[建物(一棟)]ステージでは、普通建物データ、または区分建物(一棟部)のデータを入力します。
[区分]	[区分]ステージに移動します。[区分]ステージでは区分建物(専有部)のデータを入力します。
[所在]	[所在]ステージに移動します。[所在]ステージでは所在(敷地)のデータを入力します。
[建物(一棟)]タブ	
[取込み]-[建物調査データ]	CIMPHONYから建物調査データを取り込みます。(ダウンロードのみ可能)建物調査データとは、弊社のスマホアプリ《建物調査ツール》で作成したデータ(建物線・敷地・寸法・文字・写真)です。※オプションサービスが必要です。
[取込み]-[ARCHITRENDFX]	FXフォーマットデータ形式の平面図データを取り込みます。
[区分]タブ	
[タイプ]	[タイプ]タブを開きます。[タイプ]タブでは、区分建物(専有部)のタイプを作成します。
[タイプ参照]-[タイプ参照]	区分建物でタイプを参照して、階データに建物形状データを設定します。
[タイプ参照]-[タイプ参照解除]	参照しているタイプを解除します。解除したタイプの下に入力した接続・離れ・吹抜の形状データも削除します。
[タイプ参照]-[タイプ配置位置]	タイプの配置位置を移動します。
[従属自動]	区分建物と一棟部の入力された形状から区分建物がどの一棟部の建物に含まれているかを自動認識し、区分建物の一棟部を自動設定します。形状を適当な場所でそれぞれ作成して、最後に一つの建物として配置した後などに使うと有効です。
[タイプ]タブ	
[区分建物]	区分建物のタイプ入力を終了して[区分]ステージに戻ります。
[配置基準]	区分建物のタイプの配置基準位置を設定します。
[所在]タブ	
[座標地番入力]	《座標管理》に登録済みの座標、または《地番管理》に登録済みの地番から所在図データ(敷地)を入力します。
[CAD入力]	所在図データ(敷地)を、各階平面図CAD画面の任意の点をクリックして入力します。
[削除]	入力した所在図データ(敷地)を削除します。
[回転]	入力されている全ての所在図データ(敷地)を回転します。
[三辺配置]-[全体]	配置する建物の3辺から所在や建物の辺までの距離を指定して配置します。主建物と附属建物をまとめて配置します。区分建物(一棟部)の全体配置を行った場合は、属している区分建物(専有部)も同時に配置されます。ただし附属建物を一棟部としてかつ[従属関係]を「なし」に設定されている区分建物(専有部)は同時に配置されません。
[三辺配置]-[建物]	配置する建物の3辺から所在や建物の辺までの距離を指定して配置します。主建物と附属建物は別々に配置します。区分建物(一棟部)の建物配置を行った場合は、属している区分建物(専有部)も同時に配置されます。ただし附属建物を一棟部としてかつ[従属関係]を「なし」に設定されている区分建物(専有部)は同時に配置されません。

[設定・表示]タブ	
[共通設定]	開いている作業データ全体に関する共通設定(区切り設定、丸め・単位など)を行います。
[表示条件]	各階平面図CAD画面の表示に関する設定を行います。
[所在方位設定]	各階平面図CADの方位角(北方向)を設定します。作業データ作成直後は、画面の上方向が北方向です。CADへの配置時には方位と連動します。
[作業範囲設定]	各階平面図CADの作業範囲を設定します。作業範囲とは、[設定・表示]タブ-[表示]グループ-[原図]コマンドでCAD画面に最大表示される範囲のことです。
[グリッド設定]	各階平面図CADに表示するグリッドの間隔や角度などを設定します。
[ドラフタ設定]	各階平面図CADのドラフタを設定します。
[バック]	建物形状データを配置または削除するときに、その建物を「親」として入力したその他の建物形状データが同時に配置・削除されるか、されないかを切り替えます。
[開始点・傾き]	建物形状データの入力開始点と傾きを表示するかしないかを切り替えます。形状入力直後の状態では、1点目が入力開始点上方向(0度)が傾きです。
[写真バー]	各階平面図CAD下方に写真バーを表示します。
[範囲拡大]	各階平面図CADの指定範囲を拡大します。
[原図]-[原図]	原図領域がOFFの場合は、各階平面図CADの作業範囲を最大表示します。原図領域がONの場合は、各階平面図CADの原図領域を最大表示します。
[原図]-[原図領域]	各階平面図CADで表示されている範囲を、[原図]コマンドで最大表示する「原図領域」に設定します。
[再描画]	各階平面図CADの画面を表示し直します。
建物形状	
[入力]-[形状入力]	各階平面図の階データに、建物形状データを入力します。CAD入力と表入力は、いつでも切り替えて入力することができます。
[入力]-[閉合図形取得]	各階平面図の階データに、CAD画面上の閉合図形の形状を取得して、建物形状データを入力します。取得対象は、同じ階の建物形状データ、DXFデータ、JWCデータ、補助線です。
[建物アシスト]	建物アシストを開きます。建物アシストでは平面詳細図や施工図などの図面(JW、DXF)から建物形状を作成します。区分建物(専有部)の「タイプ」を作成することもできます。
[訂正]-[形状訂正]	建物形状データを確認・訂正します。
[訂正]-[接続配置]	入力属性を[接続]として入力した建物形状データを、別の建物形状データに接続します。
[訂正]-[開始点・傾き訂正]	建物形状データの入力開始点と傾きを訂正します。傾きは、画面上部が0度で右まわりです。形状訂正の表について、開始点が1行目に、傾きが縦方向に連動します。
[部品]-[配置]	階データに、登録されている建物部品(建物形状データ)を入力します。
[部品]-[登録]	建物形状データを建物部品として登録します。登録済みの部品の名前や、グループの名前の変更もできます。
[編集]-[追加]	普通建物、区分建物の建物データや階データを追加します。
[編集]-[階複写]	階データを、建物形状データも含めて、同じ建物の別の階に複写します。ただし形状は引き継ぎますが、各階同型の設定は失われます。
[編集]-[形状複写]	建物形状データを同じ階データに複写します。
[編集]-[削除]	階データまたは建物形状データ(基本部、接続、離れ、吹抜)を削除します。
[建物情報]	普通建物、区分建物(一棟部)、区分建物(専有部)の建物情報を確認・編集します。

建物面積	
[区切り線]	建物形状データの区切り線、高さ線(三角形、台形の高さの線)を確認・編集します。
[求積式訂正]	建物形状データの求積式の確認・訂正を行います。実際に求積表で用いる求積式と値が表示されます。求積表の求積式は表の順番で作成されます。
建物位置	
[全体配置]	主建物と附属建物をまとめて所在に配置します。区分建物(一棟部)の全体配置を行った場合は、属している区分建物(専有部)も同時に配置されます。ただし附属建物を一棟部としてかつ[従属関係]を「なし」に設定されている区分建物(専有部)は同時に配置されません。
[建物配置]	主建物と附属建物を別々に所在に配置します。配置する建物の階データと建物形状データは同時に配置されます。区分建物(一棟部)の建物配置を行った場合は、属している区分建物(専有部)も同時に配置されます。ただし附属建物を一棟部としてかつ[従属関係]を「なし」に設定されている区分建物(専有部)は同時に配置されません。
[個別配置]	建物を「階データ」または「建物形状データ(基本部、接続、吹抜け、離れ)」ごとに個別で所在に配置します。また区分建物(一棟部)と区分建物(専有部)も別々に配置します。
[建物軸で回転]	[建物(一棟)]ステージの主建物(主である建物)の基本部の1階の傾きの方向を上方向にるように、データ全体を回転させます。
背景表示	
[ラスタ]－[配置]	各階平面図CAD上にラスタデータ(画像・写真)を配置します。読み込み可能なラスタデータは以下の通りです。TIFF(非圧縮・圧縮)(*tif、*tiff)、ビットマップ(*.bmp、*.dib)、JPEG(*.jpg、*.jpeg)、PNG(*.png)、QVI(*.qvi)、CPGR(*.cpr)
[ラスタ]－[書込み]	各階平面図CAD画面上のラスタデータをファイルに保存します。
[ラスタ]－[部分削除]	各階平面図CAD画面上に貼り付けられているラスタデータの一部分を削除します。
[ラスタ]－[全体削除]	各階平面図CAD画面上に貼り付けられているラスタデータを全て削除します。
[PDF]	PDFファイルをラスタに変換して配置します。※オプションプログラムが必要です。
[外部ファイル]－[DXF取込み]	各階平面図CAD画面に、DXF・DWG形式のデータを読み込みます。
[外部ファイル]－[JWC取込み]	各階平面図CAD画面に、JWC・JWW形式のデータを読み込みます。
[外部ファイル]－[DXF/JWC削除]	各階平面図CAD画面に貼り付けられているDXF・DWG・JWC・JWW形式のデータを全て削除します。
汎用作図	
[文字]－[追加]	各階平面図CAD画面上に文字列を配置します。
[文字]－[訂正]	各階平面図CAD画面上の文字列を訂正します。
[文字]－[削除]	各階平面図CAD画面上の文字列を削除します。
[寸法]－[追加]	各階平面図CAD画面に寸法線を入力します。
[寸法]－[訂正]	各階平面図CAD上の寸法線の数値のみ訂正します。
[寸法]－[削除]	各階平面図CAD上の寸法線を削除します。
[補助]－[任意線]	各階平面図CAD上に任意の補助線を入力します。入力された補助線は、各要素データの入力や移動などの編集の手助けになります。編集の際、補助線もピックの対象にすることもできます。画面上には表示されても、実際の作図はされません。
[補助]－[平行線]	各階平面図CAD上で基準となる線を指定し、その基準線に対して平行な補助線を入力します。入力された補助線は、各要素データの入力や移動などの編集の手助けになります。編集の際、補助線もピックの対象にすることもできます。画面上には表示されても、実際の作図はされません。

[補助]－[任意点]	各階平面図CAD上の任意の位置に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。また、入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[線の中点]	各階平面図CAD上の線分の中点位置に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[円の中心]	各階平面図CAD上の円または円弧の中心点に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[オフセット点(要素指定)]	各階平面図CAD上の線・円・円弧を指定して、指定した線・円・円弧の端点から入力したオフセット距離の位置に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[オフセット点(2点指定)]	各階平面図CAD上で基準となる点と方向を指定し、オフセット距離を入力して補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[4点交点]	各階平面図CAD上の4点を指定して、1点目と2点目の線分上と3点目と4点目の線分上の交わる点に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[2円の交点]	各階平面図CAD上で、円の中心位置と半径で入力した2円の交わる点に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[垂線の足(要素指定)]	各階平面図CAD上の線・円・円弧を指定して、任意の点からの垂線の足に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[垂線の足(2点指定)]	各階平面図CAD上の2点で指定した直線の上に、線外の点から垂線をおろして補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[垂直点]	各階平面図CAD上の線・円・円弧を指定して、垂直線の上に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[等分割(要素指定)]	各階平面図CAD上の線・円・円弧を指定して、等分割した点に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[等分割(2点指定)]	各階平面図CAD上で任意の2点を指定して、指定した2点間を等分割した点に補助点を入力します。補助点は、図面上で各要素データの入力や移動など編集の手助けとなる点なので、画面上に表示はされても作図はされません。入力された補助点はピックの対象(端点、線上モード)にもなります。
[補助]－[既知点]	各階平面図CAD上に《座標管理》に登録されている座標を取り込んで補助点とします。
[補助]－[削除]	各階平面図CAD上に入力されている補助線、補助点を選択して削除します。
[補助]－[全削除]	各階平面図CAD上に入力されているすべての補助線、補助点を削除します。

[写真]－[取込み]	《各階平面図》に写真ファイルを取り込みます。読み込み可能な写真の形式は以下の通りです。TIFF(*.tif、*.tiff)、JPEG(*.jpg、*.jpeg、*.jfif、*.jpe)、BMP(*.bmp、*.dib)、PNG(*.png)、GIF(*.gif) 指定したファイルはリンクフォルダーにコピーします。リンクフォルダーの初期値は、「(¥FCAPP¥TREND-ONE¥TOLinkData¥【TOLink】現場名)」です。
[写真]－[位置登録]	各階平面図CAD上に写真を配置します。CAD画面上では、アイコンと撮影方向を表示します。
[写真]－[情報編集]	《各階平面図》に取り込んだ写真の情報を編集します。
[写真]－[削除]	《各階平面図》から写真を削除します。
モード	
ラスタ表示	各階平面図CAD上に配置したラスタデータ(画像・写真)の表示・非表示を切り替えます。
[計測]－[2点間の距離方向角]	各階平面図CAD上の任意の2点を指定して、指定した2点間の距離および方向角を表示します。XY座標、距離、方向角の表示丸めは[設定・表示]タブ－[設定]グループ－[共通設定]で表示される[丸め・単位]タブの「辺長の単位」「角度の単位」で設定が有効になります。
[計測]－[点と線の距離方向角]	各階平面図CAD上の任意の点と入力されている線データを指定して、その間におろせる垂線の距離および方向角を表示します。XY座標、距離、方向角の表示丸めは[設定・表示]タブ－[設定]グループ－[共通設定]で表示される[丸め・単位]タブの「辺長の単位」「角度の単位」で設定が有効になります。
[計測]－[3点内角]	各階平面図CAD上の任意の3点を指定して、指定した3点の内角(1点目から2点目の進行方向に対して右廻りの角度)を表示します。XY座標、距離、方向角の表示丸めは[設定・表示]タブ－[設定]グループ－[共通設定]で表示される[丸め・単位]タブの「辺長の単位」「角度の単位」で設定が有効になります。
[計測]－[3点垂直]	各階平面図CAD上の任意の直線2点と垂直におろす点を指定して、各点間距離および方向角を表示します。XY座標、距離、方向角の表示丸めは[設定・表示]タブ－[設定]グループ－[共通設定]で表示される[丸め・単位]タブの「辺長の単位」「角度の単位」で設定が有効になります。
[ラスタ]－[ラスタピック設定]	各階平面図CADのラスタのピックモードを設定します。
図面	
[CAD配置]	《現場共有モード》では使用できません。《CAD》または《登録用XML作成》を起動して、各階平面図を作成します。
建物アシスト	
[図面読込]	各階平面図の「建物アシスト」に平面詳細図や施工図などの図面を読み込みます。読み込める図面の形式は、jwc、jww、dxf、dwgです。
[縮尺]	建物アシストに読み込んでいる図面の縮尺を設定し直します。
[作業範囲]	建物アシストのCADの作業範囲を設定します。作業範囲とは[原図]コマンドでCAD画面に最大表示される範囲のことです。
[データ領域]	建物アシストのCADの表示範囲を、すべてのデータが表示される範囲にします。
[一棟線入力]－[主建物]	図面をトレースして、普通建物、または区分建物(一棟部)の「主建物」の「基本部」の形状を入力します。
[一棟線入力]－[附属建物]	図面をトレースして、普通建物、または区分建物(一棟部)の「附属建物」の「基本部」の形状を入力します。
[一棟線入力]－[吹抜け]	図面をトレースして、普通建物、または区分建物(一棟部)の「吹抜け」の形状を入力します。
[一棟線入力]－[接続]	図面をトレースして、普通建物、または区分建物(一棟部)の「接続」の形状を入力します。
[一棟線入力]－[離れ]	図面をトレースして、普通建物、または区分建物(一棟部)の「離れ」の形状を入力します。

[区分線入力]－[主建物]	図面をトレースして、区分建物(専有部)の「主建物」の「基本部」の形状を入力します。
[区分線入力]－[附属建物]	図面をトレースして、区分建物(専有部)の「附属建物」の「基本部」の形状を入力します。
[区分線入力]－[吹抜け]	図面をトレースして、区分建物(専有部)の「吹抜け」の形状を入力します。
[区分線入力]－[接続]	図面をトレースして、区分建物(専有部)の「接続」の形状を入力します。
[区分線入力]－[離れ]	図面をトレースして、区分建物(専有部)の「離れ」の形状を入力します。
[区分領域取得]	図面の閉合領域を検索して、区分建物(専有部)の「基本部」の形状を入力します。
[寸法値・形状の編集]	建物アシストで入力した形状を編集します。
[移動]	建物アシストで入力した形状を移動します。
[削除]	建物アシストで入力した形状を削除します。
[建物データ作成]	建物アシストで入力した建物形状から普通建物、区分建物(一棟部、専有部)の建物データを作成します。同時に区分建物(専有部)のタイプを作成することもできます。
[閉じる]	建物アシストを終了します。

宅地割り計画のコマンド

[ホーム]タブ	
[外周線]－[入力]	外周線を入力します。外周線の最大構成点数は1024です。外周線で囲まれた領域は区画になります。外周線は、固定レイヤ(外周線)に入ります。外周線を再入力する場合、既に入力済みの外周線、道路、区画は全て削除します。
[外周線]－[構成点編集]	外周線を構成する構成点を編集します。外周線の最大構成点数は1024です。構成点を編集して、形状が変わる場合は区画を変形、新たな領域ができた場合は無属性の新しい区画となります。
[外周線]－[面積調整変換]	外周線領域の面積を調整します。
[道路]－[入力]	道路を入力します。道路の端点については、詳細設定で自動で伸縮可能です。固定レイヤ(道路・道路中心線・道路入力基準線)に入ります。
[道路]－[訂正]	道路を訂正します。
[道路]－[削除]	道路を削除します。1道路要素ずつの削除になります。複数選択して削除することはできません。
[道路]－[伸縮]	道路を伸縮します。端点に転回広場があってもなくても伸縮の対象ですが、円弧道路は伸縮の選択対象外です。また、伸縮先からさらに自動延長して他の道路や外周線に接続することはありません。
[道路]－[平行移動]	道路を平行移動します。移動方向は、指定した道路の進行方向に対して垂直方向のみです。平行移動させる道路の始点(終点)が他の道路(または外周線)と接続している場合には、必ずその道路(または外周線)に接続したままで平行移動します。従って、指定道路は自動伸縮し、移動範囲は次の道路(または外周線)の節点(交差点)までとします。コの字型のように、移動対象道路に接続されている道路が1本だけの場合、接続道路の節点も同時に移動します。(接続道路は伸縮します。)ただし、接続道路が円弧の場合は節点は同時移動しません。(接続道路は伸縮しません。)
[道路]－[スタイル]	隅切り・転回広場のスタイルを設定します。
[区画]－[分割線入力]	区画線(分割線)を入力し区画を分割します。区画線(分割線)が複数の区画にまたがっている場合は、分割線が入力されている全ての区画を分割します。区画線(分割線)の端点が区画边上(外周線上、道路線上)にない場合は、自動的に延長します。区画線は、固定レイヤ(区画線)に入ります。区画線(分割線)により分割した区画の区画属性は、分割前の区画属性を継承します。
[区画]－[定面積分割]	区画を分割します。区画線は、固定レイヤ(区画線)に入ります。
[区画]－[旗竿地作成]	旗竿地(旗形地・敷地延長・旗竿敷地)を作成し、区画を分割します。旗竿地は、L字型の旗竿地のみ作成可能です。T字型などの旗竿地は作成できません。区画線は、固定レイヤ(区画線)に入ります。
[区画]－[合成]	隣接する複数の区画を合成します。合成後の区画属性は、合成前の属性が全て同一のときは継承し、違うときは未設定になります。
[区画]－[情報]	区画情報を設定します。区画名や区画属性などの区画情報の設定と区画の並べ替えが可能です。
[区画]－[訂正]	区画情報を個別に訂正します。
[区画]－[属性マスター]	区画属性の名称、塗り潰しの有無、塗り潰し色、透過度を設定します。塗り潰しは、固定レイヤ(区画領域)に入ります。
[区画]－[スタイル]	区画名、区画面積、辺長の表示を設定します。表示文字列は、固定レイヤ(区画名・区画面積・辺長)に入ります。
[データ読み込み]－[他の計画]	同一現場データの他の計画データを読み込みます。既に計画ページにデータが存在する場合は、全てのデータ(ラスターデータも含む)を削除して他の計画データを読み込みます。
[データ書き込み]－[座標地番登録]	区画による座標、地番を《座標管理》《地番管理》に登録します。

[データ書込み]－[AT出力]	ARCHITRENDZやVirtualHouseで取り込み可能な連携ファイル:FCXデータに変換します。区画を敷地属性、道路を道路属性(※固定属性:セットバック、固定属性:道路の区画は、敷地属性になります)として出力し、ARCHITRENDZでは、配置図に取り込まれます。
[汎用作図]－[補助線]－[任意線]	補助線を入力します。固定レイヤ(補助線)に入ります。
[汎用作図]－[補助線]－[平行線]	基準線を指定し、平行補助線を入力します。固定レイヤ(補助線)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[任意点]	任意の位置に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[円の中心]	円・円弧・楕円・楕円弧を指定して中心点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[オフセット点]	指定点からオフセット距離を設定して補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[4点交点]	4点を指定して、1点目と2点目を通る直線と3点目と4点目を通る直線の交点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[2円の交点]	円の中心点位置と半径数値を入力した2つの円の交わる点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[垂線の足]	任意点から指定した要素に対しておろした垂線の足に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[垂直点]	線・円・円弧・クロソイドを指定して、指定した要素に対しておろした垂直線上に補助点を入力します。線要素は、連続線、上下線、補助線が対象です。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[等分割]	分割した点に補助点を入力します。固定レイヤ(補助点)に入ります。
[汎用作図]－[補助点]－[隅切補助点]	辺長あるいはせん除長を指定して隅切計算を行い、隅切点に補助点を入力します。
[汎用作図]－[補助点]－[全削除]	補助線・補助点を全削除します。
[データ編集]－[背景の削除]	背景データを削除します。背景データは、[ホーム]タブ－[データ読み込み]グループ－[外部ファイル]－[DXF/DWG][JWC/JWW][アスキー]で読み込んだデータで、編集ができず表示のみで図面にも適用されないデータを指します。固定レイヤ(背景)に入るため、[設定・表示]タブ－[設定]グループ－[表示色設定]での表示色の変更、レイヤ内データの表示・非表示が行えます。
[図面]－[CAD配置]	《CAD》を起動して、宅地割り計画図を配置します。
[設定・表示]タブ	
[メニュー設定]	ポップアップに関して設定します。
[値設定]	入力時の値の丸めを設定します。
[グリッド設定]	グリッドを設定します。グリッドの回転角は、計算コマンドなどによる角度、方向角の数値には影響しません。
[表示色設定]	レイヤ表示色、レイヤ内データの表示・非表示を設定します。

電子野帳取込のコマンド

[生データ]タブ	
[電子野帳取込み]	電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに記録されている野帳データ(生データ)をコンピューターに取り込みます。[生データ]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
[生データ]	電子野帳で取り込んだ生データ(テキストファイルのデータ)を入力します。[生データ]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
[接続条件]	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
[年に2000をプラスする]	電子野帳データを取り込むときに、年に2000をプラスするかしないかを切り替えます。
[ミラー定数確認]	生データ内のミラー定数を確認します。
[生データ]	電子野帳(データコレクタなど)から取り込んだ生データ([生データ]ステージで表示されているデータ)をテキストファイルに出力します。
[計算書作成]	電子野帳より取り込んだデータをもとに観測手簿計算書を作成します。[計算書グループ]リストボックスで[生データ]をクリックして生データをプリントすることもできます。観測手簿計算書を作成するときは[観測手簿]をクリックします。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[電子野帳取込]で作成または変更することができます。
[測点データ]タブ	
[測点名連続付け直し]	指定した範囲の測点の点名を、指定した点名からの連番に付け直します。または、点名が未入力の場合に連番の点名を入力します。
[計算書作成]	電子野帳より取り込んだデータをもとに観測手簿計算書を作成します。[計算書グループ]リストボックスで[生データ]をクリックして生データをプリントすることもできます。観測手簿計算書を作成するときは[観測手簿]をクリックします。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[電子野帳取込]で作成または変更することができます。
[手簿データ]タブ	
[現場情報]	観測データの現場情報(作業名、等級、座標系、縮尺係数、温度計、気圧計)を設定します。
[計算条件設定]	手簿計算時の条件を設定します。
[制限値設定]	観測における制限を設定します。
[X-FIELD取込み]-[X-FIELD取込み]	X-FIELDファイルの観測データを取り込みます。
[X-FIELD取込み]-[XYCLONE取込み]	XYCLONEの観測データを取り込みます。
[X-FIELD取込み]-[POCKET取込み]	POCKET(ハンディ観測システム)の電子野帳観測データを取り込みます。
[CAD取込み]	《CAD》の作業データを取り込みます。
[CIMPHONY連携]	CIMPHONY上に保存されている作業データ(観測)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能)《!-X-FIELD、および杭打ちツールの観測データ-》※オプションサービスが必要です。

[器械点情報]	器械点情報(器械点名、器械高、対回数、方向数、器械定数など)を設定します。 [生データ]ステージの[生データ]タブ-[データ読み込み]グループ-[電子野帳取込み]で電子野帳からデータを取り込んだときは、電子野帳で入力した器械点情報が初期値として表示されます。
[手簿]-[分割]	指定した範囲の視準データを分割して、新たな器械点を作成します。同一器械点の中に対回データと単回データが混在している場合などは、ここで器械点を分割してください。
[手簿]-[合成]	他の器械点の視準点データを読み込み、現在表示中の視準点データと合成します。
[器械点对回情報作成]	器械点情報の対回数、方向数([手簿データ]ステージ-[手簿データ]タブ-[データ編集]グループ-[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)を視準データの測点名から判断して、自動的に設定し直します。
[視準点对回情報作成]	視準データの[対回][方向][望遠鏡]を器械点情報の対回数、方向数([手簿データ]ステージ-[手簿データ]タブ-[データ編集]グループ-[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)から判断して、自動的に設定し直します。
[手簿計算]	観測データの手簿計算(対回計算、中数計算)をおこないます。
[制限値]	手簿計算を行ってからコマンドを実行してください。手簿データの水平角の倍角差、観測差、鉛直角の定数差、距離の内較差、間較差を一覧表示します。制限をオーバーしたデータは赤色で表示します。制限から外れた観測、または制限内でも精度の悪い観測を探す場合に有効です。
[全体形状確認]	視準データの全体形状を表示します。また、このコマンドを実行した際には、自動的に手簿計算がおこなわれます。
[トラバース計算に移動]	《トラバース計算》の作業データを新規作成します。電子野帳データは《トラバース計算》の[野帳データ]ステージに連動します。
[縦断野帳に移動]	《縦横断測量》の作業データを新規作成します。電子野帳データは《縦横断測量》[縦断野帳]ステージに連動します。
[横断野帳に移動]	《縦横断測量》の作業データを開きます。電子野帳データは《縦横断測量》の[横断野帳]ステージに連動します。
[標準フォーマット(APA)]	[手簿データ]ステージの器械点一覧および観測データの内容を、標準フォーマット(APA・SIMA)ファイル形式で出力します。
[計算書作成]	電子野帳より取り込んだデータをもとに観測手簿計算書を作成します。 [計算書グループ]リストボックスで[生データ]をクリックして生データをプリントすることもできます。観測手簿計算書を作成するときは[観測手簿]をクリックします。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[電子野帳取込]で作成または変更することができます。

電子野帳座標入出力のコマンド

[座標取込み]タブ

[座標取込み]	電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに記録されている座標データをコンピューターに取り込みます。[座標取込み]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
[接続条件]	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。

[座標送出]タブ

[座標送出]	《座標管理》に登録されている座標データを電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに送出(逆転送)します。[座標送出]タブ-[データ書込み]グループ-[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
--------	--

電子レベル取込のコマンド

[専用コマンド]タブ

[電子レベル取込み]	電子レベルや電子野帳に記録されている野帳データ(生データ)をコンピュータに取り込みます。[専用コマンド]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で接続する機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
[データ読み込み]-[生データ]	電子レベルで取り込んだ生データ(テキストファイルのデータ)を入力します。[専用コマンド]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
[接続条件]	電子レベルの機種、使用するシリアルポート、コンピュータ側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
[年に2000をプラスする]	レベルデータを取り込むときに、年に2000をプラスするかしないかを切り替えます。
[データ書き込み]-[生データ]	電子レベルから取り込んだ生データをテキストファイルで出力します。
[計算書作成]	電子レベルより取り込んだデータをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[電子レベル取込]で作成または変更することができます。

トラバース計算のコマンド

[野帳データ]タブ

[データ読み込み]	《電子野帳取込》で電子野帳から取り込んだデータを読み込みます。複数のデータを一括して読み込むこともできます。
[器械点ソート]	野帳データを並べ替えます。
[器械点チェック]	2つ目以降の器械点が、それ以前の器械点から観測されているか、いないかをチェックします。観測されていないときは、トラバースのデータに正しく変換されないため、データの整合性を確認してください。
[器械点標高]	[器械点標高]が未入力の行に対して、器械点名から《座標管理》に登録済みの座標を検索してZ座標を抽出し[器械点標高]に設定します。
[行移動上]	指定した行を1行上に移動します。
[行移動下]	指定した行を1行下に移動します。
[記簿計算]	記簿計算をおこないません。距離データに対して投影補正、縮尺補正を行う場合、各測点の標高より投影補正を行うときは、初点(No.1)の[器械点標高]に、初点の器械点の標高を入力してから、記簿計算をおこないます。
[計算書作成]	高度角補正計算書、観測記簿計算書を作成します。※記簿計算が行われていない場合は、計算書の作成前に[記簿計算]がおこなわれます。

[路線データ]タブ

[初点器械点]	電子野帳から読み込んだデータ(路線データ)の初点の器械点、後視点を変更します。また閉合と放射、結合と放射の混合で取り込んだデータから、放射データのみを取り込むことができます。
[路線追加]	トラバース路線に開放路線を追加します。
[路線削除]	指定した路線を削除します。削除する路線のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。
[分岐チェック]	[開放路線]の器械点が[トラバース路線]の中に含まれているかいないかをチェックします。含まれていないときは、トラバースのデータに正しく変換されないため、データを入力し直してください。

[観測データ]タブ	
[初期設定]	トラバース計算をするデータの条件を設定します。
[モード切り替え]	混合トラバースのデータを入力するときに、視準点の入力モード(トラバースの種類)を切り替えます。モードを切り替える行のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行すると、モードが切り替わります。変更する入力モードのセルをクリックしたときは、Spaceキーを押して切り替えることもできます。
[器械点変更]	器械点、後視点を変更します。[放射]または[開放]モードのとき([観測データ]ステージ-[観測データ]タブ-[設定]グループ-[初期設定]の[モード]で[放射][開放]を指定したとき)のみ変更できます。器械点、後視点を変更すると、方向角も再計算されます。方向角は訂正することもできます。器械点を変更する行のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。
[点番変更]	指定した範囲の視準点の点番を一括して変更します。混合トラバースのデータを入力したとき、主路線、放射、開放別に点番を付け直すときに有効です。視準点番を変更するセルを選択してから、このコマンドを実行してください。
[成果簿情報]	成果簿情報を設定します。
[閉合差表示]	閉合トラバース、閉合と放射・開放の混合トラバース、結合トラバース、結合と放射・開放の混合トラバースのデータ([モード]で[閉合][結合][結合(取付無し)][結合(後視・取付無し)]を指定して入力したデータ)より誤差計算を行い、その結果を表示します。2与点トラバースのデータ([結合(後視・取付無し)])を入力したときは、真の方向角が計算されて表示されます。
[電子納品]-[座標地番SIMA出力]	電子納品用SIMAデータを出力します。
[電子納品]-[成果数値プレビュー]	作業データに保持した電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	入力されているデータよりトラバース計算を行い計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[トラバース計算]で作成または変更することができます。
[登録]	トラバース計算より求められた視準点の座標を登録します。[視準点番][視準点名]に入力されている点番、点名で登録されます。座標値を登録する丸めは、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]-[条件設定]の[基本1]タブの[登録座標の丸め]で設定します(Z座標を登録するときの丸めは、[Z座標の丸め]で設定します)。

逆トラバース計算のコマンド

[専用コマンド]タブ	
[モード切り替え]	視準点の入力モード(トラバースの種類)を切り替えます。モードを切り替える行のセルの1つをクリックしてからこのコマンドを実行すると、[開放]と[放射]が切り替わります。変更する入力モードのセルをクリックしたときは、Spaceキーを押して切り替えることもできます。
[放射検索]	視準点を器械点からの距離、点の数、点名を指定して自動入力します。このコマンドは放射モードで視準点を入力する場合のみ有効です。器械点からの点数、距離、ワイルドカードを指定して視準点を放射検索し入力します。
[器械点変更]	器械点、後視点を変更します。このコマンドをクリックすると、その行の[器械点番]のセルがアクティブセル(黒い四角枠)になります。そこで変更する器械点を入力してください。入力途中に器械点を変更するときに有効です。
[座標地番SIMA出力]	電子納品用SIMAデータを出力します。
[座標地番SIMAプレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	入力されているデータより距離、方向角計算を行い、逆トラバース計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[逆トラバース計算]で作成または変更することができます。

交点計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[追加]	交点計算(座標点、距離、半径などのデータを入力しておこなう各種交点計算)を追加します。計算タイプを指定し、データをセルに入力して交点を求めます。
[挿入]	すでに交点計算が入力されているとき、指定した交点計算の場所に、新しく交点計算を挿入します。
[削除]	すでに入力されている交点計算を削除します。
[距離一括]	[3点垂直]で任意の点より直線または円に垂直におろした点(交点)を求めるとき、指定した範囲(直線または円からの距離)内のすべての点から垂直におろした交点を一括して求めます。このコマンドは、[計算タイプ]が[3点垂直]で垂線をおろす直線または円が入力されているときに有効です。
[点間距離]	選択されているセルの交点計算の各点(P)から交点(Q)までの点間距離の表示、非表示を切り替えます。
[杭打ちデータ]	CIMPHONY上に保存されている作業データ(交点計算)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能)座標に設定されている写真情報は、《座標管理》の[リンク]セルに取り込みます。近景より開いている箇所に取り込みますが、すべて埋まっている場合は取り込みません。※オプションサービスが必要です。
[計算書作成]	交点計算の結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[交点計算]で作成または変更することができます。
[登録]	交点計算より求められた交点の座標を登録します。

座標プリントのコマンド

[専用コマンド]タブ

[点名ソート]	入力した座標データを点名順に並べ替えます。点名順で座標をプリントする場合は、このコマンドを実行した後、[専用コマンド]タブ-[計算書]グループ-[計算書作成]で[プリント順・最終点]タブの[プリント順]の[入力順]を指定して、座標データをプリントします。
[重複点チェック]	重複点のチェックを行う、行わないかを設定します。重複点のチェックは、点番でのチェックです。
[重複点削除]	入力データ中の重複点を削除します。重複点のチェックは、「点番」でのチェックです。
[座標地番SIMA出力]	電子納品用SIMAデータを出力します。
[座標地番SIMAプレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	入力した座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[座標プリント]で作成または変更することができます。

ST計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[入力モード]	器械点、視準点を入力するモード(標準、開放、放射)を設定します。
[放射検索]	器械点からの点数、距離、ワイルドカードを指定して視準点を放射検索し入力します。
[計算書作成]	ST計算より求められた計算結果をもとに、ST計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[ST計算]で作成または変更することができます。

用地境界点計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	用地境界点を算出する計算方法、パラメータ、算出した用地境界点を登録する開始点番・点名を設定します。
[計算書作成]	用地境界点計算より算出された座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[用地境界点計算]で作成または変更することができます。
[登録]	用地境界点計算より算出された座標および地番を登録します。外側の用地境界点は、[外側]ステージの[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。内側の用地境界点は、[内側]ステージの[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

拡幅計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	道路曲線部の摺り付けをおこなう道路曲線(同向曲線か反向曲線か)を選択して、拡幅計算のパラメータ(直線部延長、直線部幅員、基点側半径、終点側半径、最大拡幅量、最小拡幅量、基点、方向点)を変更します。
[計算書作成]	拡幅計算の結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[拡幅計算]で作成または変更することができます。
[登録]	拡幅計算により求められた拡幅点の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。登録する座標の丸めは、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]-[条件設定]の[基本1]タブの[登録座標の丸め]で設定します。

境界点成果対比計算のコマンド

[データ入力]タブ

[差一覧]	スライド計算の制限値、有効数、有効総和、有効平均、差の一覧の表示、非表示を切り替えます。制限値は変更することもできます。
-------	--

[登録点番名訂正]タブ

[再計算]	確定座標値(B)を計算方法、登録する点番点名を指定して再計算します。
[計算書作成]	境界点成果対比計算された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[境界点成果対比計算]で作成または変更することができます。
[登録]	計算より求められた確定座標を登録します。[B点番][B点名]に入力されている点番点名で登録されます。

直線巾杭計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	直線巾杭計算の基準となる線、定幅を確認または変更します。
[計算書作成]	入力した基準線、定幅、測点をもとに、基準線に対する左右の位置、幅員(基準線と測点の距離)、定幅と幅員の差、測点から基準線上に垂線をおろした点の基準点1からの距離を計算して計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[直線巾杭計算]で作成または変更することができます。

スライド計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	dx, dy (X座標、Y座標における成果座標と実測座標の差)の制限値を確認または変更します。入力した成果座標と実測座標のdx, dyが制限値を超えた場合は、dx, dyの値の表示色が変わり、その値はdx, dyの合計値および平均値の算出には使用されません。
[計算書作成]	スライド計算された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[スライド計算]で作成または変更することができます。
[登録]	スライド計算後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

回帰直線のコマンド

[専用コマンド]タブ

[計算条件]	直線回帰するときや、中心線を決めるとき条件を入力します。
[計算書作成]	左側、右側の回帰直線、中心線を求める条件を確認または変更して、計算書(回帰直線計算書、中心線予測計算書)を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[回帰直線]で作成または変更することができます。

定面積分割のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	分割面積、仮座標、仮地番の初期設定を行います。
[残地を分割]	1つの地番を連続して分割する場合に、分割して残った方の形状を次々に分割するときは、このコマンドにチェックを入れます。チェックを入れたときは、2行目以降の[地番名]に、1つ前の行で分割した地番の残地の仮地番名が自動入力されます。チェックがないときは、1行目で入力した地番名が2行目以降の[地番名]に自動入力されます。
[追加]	既に入力されている計算の1番最後に、新規に分割計算を追加します。
[挿入]	指定した分割計算の場所に、新しく分割計算を挿入します。
[削除]	指定した分割計算(等分割、面積指定、距離指定)を削除します。削除する分割計算のセルの項目をクリックしてから、このコマンドを実行します。
[入替]	分割の基準となる線(基準線P1→基準線P2)のP1とP2を入れ替えて、基準線の方を反対にします。入れ替える基準線のセル([基準線P1点番]または[基準線P2点番])をクリックしてから、このコマンドを実行します。
[仮地番表示]	分割計算により新しくつくられた地番の仮地番No.、仮地番名、逆算座標法面積の表示、非表示を切り替えます。表示されているときはコマンドの前にチェックマークが付きます。
[仮座標表示]	分割計算により新しくつくられた交点の仮点番.、仮点名、X座標値、Y座標値の表示、非表示を切り替えます。表示されているときはコマンドの前にチェックマークが付きます。
[計算書作成]	定面積分割計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[定面積分割]で作成または変更することができます。
[登録]	定面積分割計算により、新たにつくられた地番、座標を登録します。座標を登録するときの丸めは、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]-[条件設定]の[基本1]タブの[登録座標の丸め]で設定します。

地番プリントのコマンド

[専用コマンド]タブ

[地番名ソート]	地番データを地番名順に並べ替えます。地番名順で地番をプリントする場合は、このコマンドを実行した後、[専用コマンド]タブ-[計算書]グループ-[計算書作成]で地番データをプリントします。
[計算書作成]	入力した地番をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[地番プリント]で作成または変更することができます。

面積計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[地番名ソート]	入力した地番データを地番名順に並べ替えます。地番名順で面積計算書を作成する場合は、このコマンドを実行した後、[専用コマンド]タブ-[計算書]グループ-[計算書作成]で面積計算書を作成します。
[地番ソート]	地番を設定した通りに並べ替えます。比較結果が同じ場合は、セルの行番号で並べ替えを行います。
[座標地番SIMA出力]	電子納品用SIMAデータを出力します。
[座標地番SIMAプレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	直角座標法、倍横距法、三斜法、ヘロン法により求められた計算結果をもとに、それぞれの計算方法の計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[面積計算]で作成または変更することができます。

街区一連計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[追加]	新たに街区一連計算を追加します。すでに入力されている計算の1番最後に追加されます。いくつかの地番の街区一連計算を連続しておこない、1つの計算書にまとめてプリントする場合に有効です。
[削除]	指定した街区一連計算を削除します。削除する街区一連計算のセルの項目をクリックしてからこのコマンドを実行します。
[計算書作成]	街区一連計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[街区一連計算]で作成または変更することができます。
[登録]	街区一連計算により、新たに求められた地番、地番の構成点の座標を登録します。地番は、[地番No][地番名]に入力されている地番No、地番名で、座標は、[頂点点番][頂点点名][街区点1点番][街区点1点名][街区点2点番][街区点2点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

多角形座標変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	座標変換の最初の座標点(初点)、次の点(第2点)を確認または変更します。
[計算書作成]	多角形座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[多角形座標変換]で作成または変更することができます。
[登録]	多角形座標変換後の座標および座標より構成される地番を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

凸凹補正計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[計算書作成]	凸凹補正計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[凸凹補正計算]で作成または変更することができます。
[登録]	凸凹補正後の地番、新たに求められた境界点の座標を登録します。地番は[登録地番No][登録地番名]に入力されている地番No、地番名で、座標は[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

路線地番交点計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	路線地番交点計算を行うことにより新しくつくられる交点の開始点番、点名、新しくつくられる地番の開始地番No、地番名、残地面積の最小値を設定します。
[地番登録設定]	地番の登録順序を設定します。[専用コマンド]タブ-[計算書]グループ-[計算書作成]または[専用コマンド]タブ-[登録]グループ-[登録]では、ここでの設定に従って地番登録順を並べ替えます。また、複数残地がある場合の処理を設定します。
[データ読み込み]	《路線測量》で登録した巾杭データを読み込みます。すでに入力されている巾杭データに追加することもできます。
[計算書作成]	路線地番交点計算の計算結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[路線地番交点計算]で作成または変更することができます。
[登録]	路線地番交点計算により新しくつくられた交点の座標、分割後の地番を登録します。座標を登録するときの丸めは、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]-[条件設定]の[基本1]タブの[登録座標の丸め]で設定します。

N点固定面積調整変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[変換条件]	入力した地番(入力した座標で構成される多角形)の変換後の面積を設定します。[面積調整変換条件]ダイアログで、変換後の面積を設定して[OK]をクリックすると、設定した面積になるように面積調整変換をおこない、変換後の座標値を計算します。変換基準点は重心の点です。
[再計算]	設定されている座標の拘束状態で、設定されている面積になるように面積調整変換をおこない、変換後の座標値を再計算します。変換基準点は重心の点です。座標および座標の拘束状態を訂正した場合は、未計算の状態に戻ります。したがって、面積調整変換後の計算書を作成したり、座標を登録するときは、必ずこのコマンドで、再計算をおこなってください。
[計算書作成]	N点固定面積調整変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[N点固定面積調整変換]で作成または変更することができます。
[登録]	N点固定面積調整変換後の座標および地番を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

基準点測量のコマンド

[生データ]タブ

[現場情報]	基準点測量データ作成に関する諸条件および作業情報の入力、設定を行います。ここで入力した条件にしたがって、以降の各種計算を行います。また、ここで入力した作業情報の1部は、精度管理表に印刷されます。ただし手簿計算以降の計算処理の後で、[現場情報]ダイアログ内の各項目(縮尺係数や折光係数、等級、座標系、方向角、距離計算の丸めなど)を変更し[OK]をクリックした場合は、再度手簿計算からやり直してください。
--------	--

[電子野帳取込み]	電子野帳(データコレクタ)、各種メモリーカードに記録されている野帳データ(生データ)をコンピューターに取り込みます。[生データ]ステージ-[生データ]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で接続する電子野帳の機種および通信条件を設定してから、このコマンドを実行してください。
[データ読み込み]-[生データ]	電子野帳で取り込んだ生データ(テキストファイルのデータ)を入力します。[生データ]ステージ-[生データ]タブ-[データ読み込み]グループ-[接続条件]で生データを観測した接続機種を設定してから、このコマンドを実行してください。
[接続条件]	電子野帳の機種、使用するシリアルポート、コンピューター側の通信条件(通信速度、データ長、パリティ、ストップビット、フロー制御)を設定します。
[年に2000をプラスする]	電子野帳データを取り込むときに、年に2000をプラスするかどうかを切り替えます。
[ミラー定数確認]	生データ内の距離、ミラー定数などを確認します。標準フォーマット(APA・SIMA)を取り込み時のみ確認可能です。
[データ書き込み]-[生データ]	電子野帳(データコレクタなど)から取り込んだ生データ([生データ]ステージで表示されているデータ)をテキストファイルに出力します。
[計算書作成]	観測手簿、距離計算簿、観測記簿、点検計算の各種計算書、網平均計算書、精度管理表などを作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[基準点測量]で作成または変更することができます。
[測点]タブ	
[電子野帳取込み]	《電子野帳取込》で各種電子野帳(データコレクタやメモリーカード)からコンピューターに転送された観測データ、または手入力した観測データを読み込み、基準点の観測データに変換します。 《電子野帳取込》でも手簿計算を行えますが、このコマンドでは観測データのみを読み込みます。したがって、《電子野帳取込》で手簿計算を行う必要はありません。手簿計算されていても、記簿データ(中数データ)は読み込まれません。
[路線合成]	別の基準点測量の観測データを、すでに入力されている観測データの最後に追加します。途中に挿入することはできません。また、読み込んだ観測データは観測順が変わってしまうため移動できないので注意してください。
[手簿]タブ	
[器械点情報]	器械点の情報(器械点名、器械高、対回数、方向数など)を設定します。[測点]ステージの[測点]タブ-[データ読み込み]グループ-[電子野帳取込み]で、電子野帳データを読み込んだ場合は、電子野帳データの器械点情報が初期値として表示されます。
[手簿]-[分割]	指定した範囲の視準データを分割して、新たな器械点を作成します。同一器械点の中に対回データと単回データが混在している場合などは、ここで器械点を分割してください。
[手簿]-[合成]	他の器械点の視準点データを読み込み、現在表示中の視準点データと合成します。
[測点一覧]	測点一覧から測点を指定して入力します。
[器械点对回情報作成]	器械点情報の対回数、方向数([手簿]ステージ-[手簿]タブ-[データ編集]グループ-[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)を視準データの測点名から判断して、自動的に設定し直します。
[視準点对回情報作成]	視準データの[対回][方向][望遠鏡]を器械点情報の対回数、方向数([手簿]ステージ-[手簿]タブ-[データ編集]グループ-[器械点情報]の[対回数][方向数]で設定)から判断して、自動的に設定し直します。
[手簿計算]	観測データの対回計算(中数計算)を行って、記簿データを作成します。

[点検測量]	点検測量を行った手簿データを読み込み、点検値と採用値を比較します。ただし、手簿計算が行われていない手簿データは読み込むことができません。点検測点数は後視点を入れない観測数(観測器械点数)の5%とします(作業規程より)。また、ここで入力した点検測量の内容は、精度管理表の点検測量の欄に印刷されます。
[記簿]	記簿データを確認または変更します。
[制限値]－[制限値]	手簿計算を行ってからコマンドを実行してください。手簿データの水平角の倍角差、観測差、鉛直角の定数差、距離の内較差、間較差を一覧表示します。制限をオーバーしたデータは赤色で表示します。制限から外れた観測、または制限内でも精度の悪い観測を探す場合に有効です。
[制限値]－[制限値設定]	観測における制限を設定します。
[全体形状確認]	視準データの全体形状を表示します。また、このコマンドを実行した際には、自動的に手簿計算がおこなわれます。
[標準フォーマット(APA)]	[手簿]ステージの器械点一覧および観測データセルの内容を、標準フォーマット(APA・SIMA)ファイル形式で出力します。
[点検路線]タブ	
[次点検索]	点検路線の次点を自動検索して[測点]セルに入力します。次のような点が見つかるまで検索して、その間の点を自動入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・3方向以上観測している測点まで ・基準点(既知点)が2個以上連続しているとき、1つ目の基準点(既知点)まで ・基準点(既知点)が1個で、その後の観測をしていないとき(取り付け点がないとき)はその基準点(既知点)まで
[点検計算]－[点検計算]	入力した点検路線にしたがって、高度角補正計算、器械高目標高補正計算(偏心点があるとき)、高低計算、偏心補正計算(偏心点があるとき)、座標計算を行います。
[点検計算]－[閉合差制限]	路線単位での閉合差(許容範囲)制限を設定します。
[厳密網測点]タブ	
[初期設定]	地区名、厳密網計算を行う平面直角座標系、重量計算の要素を設定します。
[上位桁]	求点の座標を入力する場合のX座標、Y座標の不変値を設定します。入力される座標は、「上位桁+入力値(正負)」になります。また、上位桁の設定値がマイナスの場合、「上位桁-入力値(正負)」になります。
[会社名登録]－[水平網]	厳密水平網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[会社名登録]－[高低網]	厳密高低網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[データ作成]	記簿データを読み込んで、厳密網のデータを作成します。
[網一括計算]－[網一括計算]	入力した厳密網データより、厳密水平網平均計算、厳密高低網平均計算を一括して行います。
[網一括計算]－[水平網計算]	入力した厳密網データより、厳密水平網平均計算を行います。
[網一括計算]－[高低網計算]	入力した厳密網データより、厳密高低網平均計算を行います。
[路線名編集]	厳密網の路線名称を変更します。
[成果数値データ]	厳密網平均計算によって作成された成果数値データを、アスキー形式テキストファイルに変換します。成果数値データを記録して提出する場合に使用します。
[電子納品]－[成果数値データ出力]	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。

[電子納品]ー[成果数値プレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[登録]	厳密水平網平均計算、厳密高低網平均計算より算出された求点(新点、交点)の座標を登録します。
[任網水平]タブ	
[初期設定]	偏差の許容値、座標系、路線名、初点データを設定します。
[会社名登録]	意型簡易水平網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[データ作成]	記簿データを読み込んで、任意型簡易網のデータを作成します。
[路線選択]	路線を変更、追加、削除します。
[水平網計算]	入力した任意簡易網のデータより、任意型簡易水平網平均計算を行います。
[登録]	任意型簡易水平網平均計算より算出された新点、交点のX、Y座標値を登録します。
[任網高低]タブ	
[初期設定]	偏差、座標系、路線名、初点標高を設定します。
[会社名登録]	任意型簡易高低網平均計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[路線選択]	路線を変更、追加、削除します。
[高低網計算]	入力した任意型簡易網データより、任意型簡易高低網平均計算を行います。
[登録]	任意型簡易高低網平均計算より算出された新点、交点のZ座標値を登録します。
[単路水平]タブ	
[初期設定]	偏差の許容値、座標系、路線名、初点データを設定します。
[会社名登録]	単路線水平計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[データ作成]	[点検路線]ステージで入力した路線より点検計算済みの記簿データを読み込んで、単路線データを作成します。
[水平計算]	入力した単路線データより、単路線水平計算を行います。
[登録]	単路線水平平均計算より算出された新点のX、Y座標値を登録します。
[単路高低]タブ	
[初期設定]	偏差、座標系、路線名、初点標高、結合標高を設定します。
[会社名登録]	単路線高低計算書の表紙に出力するお客様の会社名、プログラム管理者名を登録します。
[高低計算]	入力した単路線データより、単路線高低計算を行います。
[登録]	単路線高低平均計算より算出された新点のZ座標値を登録します。

ST計算(検定)のコマンド

[専用コマンド]タブ

[会社名登録]	計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、計算書のプログラム管理者の欄に会社名 プログラム管理者として出力されます。
[計算書作成]	ST計算(検定)より求められた計算結果をもとに、ST計算書(検定フォーム)を作成します。

経緯度座標変換(検定)のコマンド

[専用コマンド]タブ

[会社名登録]	計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、計算書のプログラム管理者の欄に会社名 プログラム管理者として出力されます。
[計算書作成]	経緯度座標変換(検定)より求められた結果をもとに、計算書を作成します。

水準測量のコマンド

[手簿]タブ

[等級変更]	選択中の路線の等級を変更します。
[プロット縦横比]	形状プロットの縦横の比率を変更します。
[電子レベル]	《電子レベル取込》で電子レベルから取り込んだ直接水準測量のデータを読み込みます。《電子レベル取込》の作業データに保存されている電子レベルデータが、1つの路線の観測データとして読み込まれます。読み込まれた路線は、現在画面に表示されている路線の前に挿入されます。
[観測条件入力]	観測条件を、観測データ(往路、復路、再測1、再測2再測3)に入力します。[手簿]タブ-[データ読み込み]グループ-[電子レベル]で電子レベルのデータを読み込んだときは、電子レベル側で記録した観測条件が表示されます。
[水準点選択]	[自・至水準点]の水準点名・標高を、既に登録されている水準点から選択して設定します。または水準点名、標高を設定して水準点を登録します。
[合成]	現在表示されている路線の観測データに、指定した路線の観測データを合成します。このコマンドは、[手簿]タブ-[データ読み込み]グループ-[電子レベル]で、別々の片道の路線として読み込まれた往路、復路、再測などの路線を1つの路線に合成するとき有効です。
[手簿計算]	手簿計算結果を一覧表示します。
[点検測量]	点検用路線を確認・編集します。
[計算書作成]	水準測量の[手簿]ステージで水準観測手簿を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[水準測量]の[観測手簿]で作成または変更することができます。

[路線]タブ

[初期設定]	厳密水準網平均計算の計算モード、補正方法などを設定します。厳密水準網平均計算は、日本測量協会の検定を受け、国土地理院に登録されています。
[現場情報]	水準測量における現場情報を入力します。ここで入力した現場情報は、精度管理表に印刷されます。
[会社名登録]	厳密水準網平均計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者名を登録します。ここで登録した会社名、プログラム管理者名は、水準網平均計算書を作成したときに、プログラム管理者の欄に「会社名プログラム管理者名」として出力されます。

[手簿路線]	[手簿]ステージの路線データを読み込みます。複数の路線データを一括して読み込むこともできます。ただし、簡易水準測量のデータは読み込むことができません。
[成果]	[成果]ステージの成果データを水準網平均路線のデータとして読み込みます。 [成果]ステージの[成果]タブ-[データ読み込み]グループ-[固定フォーマット]で取り込んだ固定フォーマット(地理院フォーマット)のデータを読み込む場合に有効です。
[既知点・求点入力]	水準測量の既知点、求点の点名及び標高を入力します。求点を入力するときは、必ず、既知点を全て入力後、求点を入力してください。
[点検路線]	水準測量で路線を連結して、既知点間結合または環閉合になる点検路線を作成します。
[水準網平均計算]	入力した水準網データより、水準網平均計算を行います。
[電子納品]-[成果表出力]	電子納品用成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
[電子納品]-[成果表プレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	水準測量の[路線]ステージで水準観測の計算書を作成します。
[成果]タブ	
[手簿路線]-[水準点のみ]	[手簿]ステージの路線データの水準点を読み込みます。複数の路線を一括して読み込むこともできます。このコマンドでは、各路線の自点、水準点([モード]が[水準点]の測点)、至点を水準点として取り込みます。
[手簿路線]-[固定点あり]	[手簿]ステージの路線のデータを固定点まで読み込みます。複数の路線を一括して読み込むこともできます。このコマンドでは、各路線の自点、水準点([モード]が[水準点]の測点)、固定点([モード]が[固定点]の測点)、至点を水準点として取り込みます。
[網平均路線]-[自点-至点]	[路線]ステージの小規模水準網路線または変動量計算水準網路線の自点、至点のみを読み込みます。[路線]ステージで、水準網平均計算を行ってからこのコマンドを実行してください。
[網平均路線]-[全データ]	[路線]ステージの網平均路線データを読み込みます。このコマンドでは、各路線の全ての点を水準点として取り込みます。
[固定フォーマット]	固定フォーマット(地理院フォーマット)のデータを読み込みます。
[成果条件入力]	成果データの条件を入力します。条件は、各路線の自点、至点で設定します。条件を設定する行の項目をクリックしてから、このコマンドを実行してください。
[水準点選択]	[水準点名]および[初点標高]セルに入力する水準点名及び標高を、登録されている水準点一覧から選択します。
[結果の数値]	水準測量の[結果]セルに表示する値を切り替えます。この設定は、水準測量成果表や水準測量観測成果表の[結果]に出力する項目にも適用します。
[電子納品]-[成果表出力]	電子納品用観測成果データを出力します。測量成果電子納品要領(案)の付属資料にある成果表出力フォーマットに準拠します。
[電子納品]-[成果表プレビュー]	電子納品用観測成果データを確認します。
[計算書作成]	水準測量の[成果]ステージで観測成果表を作成します。 計算書のフォームは、《フリーフォーマット作成》の[水準測量]の[成果表]で作成または変更することができます。

点の記のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[点名ソート]	点の記の座標データを点名で並べ替えます。
[計算書グループ選択]	作成する「点の記」の種類を選択します。
[計算書作成]	入力した座標をもとに、「点の記」の計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[点の記]で作成または変更することができます。
数値地籍情報のコマンド	
[地区情報]タブ	
[連動設定]	《地番管理》との所有者・共有者情報の連動方法を設定します。
[データ読み込み]－[地籍フォーマット2000]	地籍フォーマット2000データを読み込みます。
[データ書き込み]－[地籍フォーマット2000]	データを地籍フォーマット2000データの形式に変換してファイルに書き込みます。
[専用コマンド]タブ	
[筆界未定地]	《地番管理》の[地籍地番情報]が筆界未定地の地番が、筆界未定地番に入力されていない場合は追加します。また筆界未定地番Noおよび地番Noに入力されている地番を参照し、地番情報を《地番管理》から取得し更新します。
[共有者]	共有者に2人以上入力されている地番を参照し、地番情報を《地番管理》から取得し追加します。
精度管理表(座標)のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[初期設定]	精度管理表を作成するための初期条件を設定します。
[計算書作成]	精度管理表を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[精度管理表(座標)]で作成または変更することができます。
地積測定のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[ソート]	地積測定の地番を、設定した通りに並べ替えます。
[計算書作成]	地積測定で、抽出地番をもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[地積測定]で作成または変更することができます。
路線測量のコマンド	
[路線条件]タブ	
[初期条件]	初期条件として、路線名、データの入力法、IP開始No、IP点および中間点の登録開始点番、No杭および中間点のピッチ、初点杭Noおよび追加距離を設定します。
[表示条件]	路線プロットに表示する路線データ、座標地番データ、CADデータなどの、結線、マーク、名称の有無、色、表示方法、その他属性について設定します。
[計算条件]	路線計算における直線部の弦方向角、横断角の算出方法、マイナス測点の表示方法、河川対応の有無、クロソイド部の単曲線のSPの有無について設定します。
[路線スタイル]	路線計画でIP点の入力をするときに、そのときのIAにより曲線要素を自動的に入力することができます。このIAの範囲に対する曲線要素をスタイル(条件)として設定します。

[測点スタイル]	路線計算で作成されるIP点、主要点(役杭)、中間点(No杭)、巾杭、および役杭の座標が一致したときの名前の付け方を設定します。点名スタイルは保存することができ、別の現場、別の作業データからでも呼び出すことができます。
[地理院タイル背景表示]	路線プロットの背景に、地理院地図を表示します。
[地理院タイル設定]	路線プロットの背景に表示する地理院地図を設定します。
[表示距離丸め]	中間点要素表、主要点計算書、中間点計算書で表示される単距離、追加距離の表示距離の丸めを設定します。 路線計算は、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]で設定した丸めを使用しています。[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]の距離の丸めを適用した追加距離に、ここで設定した表示距離丸めを適用して表示します。 単距離は、丸めを適用した[実際の追加距離]から再計算します。
[路線計画]タブ	
[作業範囲設定]	路線プロットの作業範囲を左下座標と右上座標で設定します。現場に登録されている座標値が2点未満で、[IP法路線入力(CAD)]でマウスによる線形入力を行うときに使用します。登録座標が2点以上ある時、路線データ入力後は、このコマンドは選択することができません。
[IP法路線入力]-[IP法路線入力(CAD)]	IP法の路線データの入力を路線プロット上をマウスでクリックして行います。各IP点の曲線要素は路線スタイルとIAより算出され自動入力されます。したがって、このコマンドを効率よく使用するには、事前に[路線条件]タブ-[スタイル]グループ-[路線スタイル]で路線スタイルを設定しておく必要があります。 また、IP点は既知点をピックアップすることも、自由な位置をクリックして新規に作成することもできます。 現場に2点以上座標が登録されていないときは、[路線計画(IP)]タブ-[設定]グループ-[作業範囲設定]で路線プロットの作業範囲を設定しておかないと、このコマンドを選択することができません。
[路線入力]-[路線入力(表)]	要素表上で、路線データの入力を行います。既に路線データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
[路線訂正(表)]	要素表上で、路線データの訂正を行います。
[IP点編集]-[IP点追加]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックして路線データの追加を行います。追加されたIP点の曲線要素は路線スタイルとIAより算出され自動入力されます。
[IP点編集]-[IP点挿入]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックしてIP点の挿入を行います。挿入されたIP点の曲線要素は路線スタイルとIAより算出され自動入力されます。
[IP点編集]-[IP点削除]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上をマウスでクリックしてIP点の削除を行います。このとき削除された前後のIP点の曲線要素は変化しません。
[IP点移動]-[フリー]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上のIP点をマウスで自由な位置に移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
[IP点移動]-[IP結線上に移動]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上のIP点を指定したIP結線の範囲内でマウスで移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
[IP点移動]-[IP結線平行移動]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上のIP結線をマウスで平行移動し、両端のIP点を移動します。このとき設定されている曲線要素は変化しません。
[IP法曲線要素詳細表示]	入力されているIP法の線形に対して、路線プロット上のIP点をマウスで指定して、その曲線要素を表示します。

[中間点表示]	現在入力されている路線データ、垂線データ、プラス杭データ、ブレーキ点データにより計算された中間点の一覧を表示します。この一覧上で算出された中間点について、登録点番、点名の変更、表示追加距離の変更、座標登録するしないの設定を行うことができます。また、現在の路線データによる中間点の再計算も行うことができます。
[垂線の足]－[新規入力]	入力されている路線データに対して、垂線データを入力します。路線外の点から路線上に垂線をおろして、垂線の長さ、路線上の位置を求めることができます。すでに垂線データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
[垂線の足]－[訂正]	垂線の足データを訂正します。
[垂線の足]－[削除]	垂線の足データを削除します。
[垂線の足]－[距離表示]	垂線の足データの、路線までの距離、路線上の位置を確認します。
[+(プラス)杭]－[新規入力]	入力されている路線データに対して、プラス杭データを入力します。すでにプラス杭データが入力されているときは、そのデータを消去して新規入力になります。
[+(プラス)杭]－[訂正]	プラス杭データを訂正します。
[+(プラス)杭]－[ピッチ入力]	入力されている路線データに対して、指定した区間内に等ピッチでプラス杭データを入力します。
[ブレーキ点]－[入力]	入力されている路線データに対して、ブレーキ点を入力します。ブレーキ点は中間点やプラス杭などの既知点を指定することも、新点(プラス杭)として作成することもできます。ただし、主要点(役杭)をブレーキ点に指定したときは、新点(プラス杭)を作成してブレーキ点とします。
[ブレーキ点]－[一覧]	入力されているブレーキ点を一覧表示します。ブレーキ点の削除も可能です。
[S型路線計算]－[IP点固定]	入力されている路線データに対して、IP点は固定のまま曲線要素のみを調整してS型曲線(単曲線またはクロソイド曲線)を設置します。
[S型路線計算]－[始終点固定]	入力されている路線データに対して、始点位置または終点位置と曲線要素を指定してS型曲線(単曲線またはクロソイド曲線)を設置します。
[S型路線計算]－[単曲線固定]	入力されている路線データに対して、単曲線部を固定した上でクロソイドパラメータを調整して、S型クロソイド曲線を設置します。
[平行線表示]	路線プロットに表示されている路線データに対して、巾を指定して平行線を表示します。
[他路線計算]－[他路線計算]	現在入力されている路線データと別の路線データとで交点計算や離れ計算を行い、算出座標を登録します。
[他路線計算]－[他路線表示]	路線プロットに別の作業データの路線形状を表示します。複数の路線を同時に表示することができます。
[TREND-POINT]－[連携開始]	《路線測量》とTREND-POINTで連携を開始して、線形を入力します。連携可能なのは、線形の入力方法が「IP法」「エレメント法」の場合のみです。連携を開始するには、TREND-POINTが起動している必要があります。
[TREND-POINT]－[連携終了]	《路線測量》とTREND-POINTの連携を終了します。
[TREND-POINT]－[点群画像の更新]	連携中のTREND-POINTからオルソ画像を取得して、配置されている画像を更新します。
[TREND-POINT]－[線形の更新]	連携中のTREND-POINTと、線形データを同期します。プラス杭設置後など任意のタイミングで線形データを同期できます。
[TREND-POINT]－[縦横断データ作成]	《縦横断測量》の作業データを新規に作成し、そこにTREND-POINTの縦横断データを同期します。コマンドを再実行した場合は、データを上書きするのではなく、また新たに《縦横断測量》の作業データを作成します。

[ラスタデータ]-[配置]	ラスタデータ(画像・写真)を配置します。読み込むラスタデータの量およびメモリの容量によって読み込めない場合もあります。読み込み可能なラスタデータは以下の通りです。 TIFF(非圧縮・圧縮)(*tif、*tiff)、CPGR(*.cpr)、BMP(*.bmp、*.dib)、JPEG(*.jpg、*.jpeg)、PNG(*.png)、QVI(*.qvi)形式
[ラスタデータ]-[書き込み]	路線プロット上に配置されているラスタデータを書き込みます。書き込み可能なファイル形式は以下の通りです。 モノクロTIFF(非圧縮・G4)(*tif)、BMP(*.bmp、*.dib)、QVI(*.qvi)形式 カラーTIFF(非圧縮)(*tif)、BMP(*.bmp、*.dib)、JPEG(*.jpg、*.jpeg)、PNG(*.png)、QVI(*.qvi)形式
[ラスタデータ]-[部分削除]	路線プロット上に貼り付けられているラスタデータを部分的に削除します。
[ラスタデータ]-[全削除]	路線プロット上に貼り付けられているラスタデータを削除します。
[ラスタデータ]-[GeoTIFF配置]	GeoTIFFを配置します。
[データ読み込み]-[SIMA]	路線SIMA形式のアスキーファイルを、《路線測量》のデータとして読み込みます。
[外部ファイル]-[線形XML]	基本設計データ(*.XML)、または道路中心線形データ(*.XML)を読み込みます。
[外部ファイル]-[DXF]	DXF・DWG形式のデータを読み込みます。作業範囲が設定されていないと有効になりません。
[外部ファイル]-[DXF削除]	路線プロット上のDXF・DWG形式のデータを全て削除します。
[自社連携]-[X-FIELDファイル]	X-FIELDデータ(*.XFD)の路線データを読み込みます。
[自社連携]-[CAD]	路線プロット上に《CAD》の作業データ、XYCLONE・Fieldcomファイル、X-FIELDファイルを読み込みます。
[自社連携]-[CAD削除]	路線プロット上に貼り付けられている《CAD》のデータを全て削除します。
[データ書き込み]-[SIMA]	《路線測量》で作成した路線データを、SIMAデータに変換して書き込みます。
[外部ファイル]-[Pocket]	《路線測量》で作成した路線データを、POCKETの座標計算杭打ちプログラムで使用するデータ(pcr)としてファイルに書き込みます。
[外部ファイル]-[X-FIELD・XYCLONE路線データ]	《路線測量》で作成した路線データを、X-FIELD・XYCLONEで読み込めるデータ(xrf)としてファイルに書き込みます。
[外部ファイル]-[CIMPHONY連携]	CIMPHONYへ作業データ(線形)をアップロードします。
[電子納品]-[成果テキスト出力]	電子納品用成果データを出力します。電子納品用成果データは作業データに1つだけ保持し《測量計算・図面データビューアー》で利用できます。複数作成できません。 ※《測量計算・図面データビューアー》: 弊社の《電子納品ツール》で利用できる機能です。現場ファイルを指定して、現場データ内に保持した数値データや計算書、図面等の成果データを直接閲覧でき、電子納品データとしての登録が可能です。
[電子納品]-[成果テキストレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[計算書作成]	路線データまたは巾杭データより算出された座標をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[路線測量]で作成または変更することができます。
[登録]	[路線計画]ステージでは、IP点、各路線計算により求められた主要点(役杭)、中間点、プラス杭を座標登録します。[巾杭]ステージでは、入力した巾杭データから算出される巾杭点を座標登録します。

[巾杭]タブ	
[計算条件]	巾杭計算時の点番の付け方、左右逆にするしない、折れ点の巾の取り方について設定します。
[結線方法]	巾杭の結線の要素を設定します。ボタンをクリックして直線／自由線／オフセット線から選択します。
[巾杭選択:]	編集するデータを選択(切り替え)します。巾杭は30データまで分けて入力することができます。
[巾杭名称:]	各巾杭データの名称を設定します。設定しなければ、巾杭データ名がそのままデータ名称になります。縦横断のデータを読み込んだときは、そのデータの名称が表示されます。ここで入力したデータの名称は、[路線地番交点計算]で路線データを読み込むとき、読み込む巾杭データの選択で表示されます。
[点名入力]	主要点名や中間点名を指定して、巾杭を作成する杭No+Lの入力を行います。
[縦横断データ読み込み]	《縦横断測量》の[現況]で入力した控杭、[横断計画]で入力した巾杭算出点、現況交点のデータを読み込んで、巾杭データとして入力します。
[巾杭点表示]	[巾杭]ステージで入力した情報をもとに算出した巾杭点の点番、点名を入力します。
[幅員・拡幅個別入力]	幅員と拡幅量込みの巾杭を入力します。
縦横断測量のコマンド	
[縦断条件]タブ	
[表示条件]-[表示条件]	[縦断野帳][縦断現況][縦断計画]ステージに表示する縦断現況データの線、測点名の有無、色、表示方法などについて設定します。
[表示条件]-[距離表示丸め]	計算書に表示する単距離、追加距離の丸めを設定します。
[土工一覧表]	[詳細土量]ステージで入力した土量データを読み込んで、土工一覧表を作成します。ここでデータを編集することもできます。
[計算書作成]	《縦横断測量》の各種計算書を印刷します。計算書のフォーム(様式)は《フリーフォーマット作成》で作成または変更することができます。
[縦断野帳]タブ	
[構造物]-[入力]	[縦断野帳]または[縦断現況]ステージで構造物を入力します。
[構造物]-[訂正]	構造物の属性を変更します。
[構造物]-[削除]	構造物を削除します。
[リンク]	点に写真をリンク付けします。
[初期条件]	縦断野帳データの観測(往復観測か往路観測か)、観測方向を設定します。
[分割観測]-[追加]	複数に分けて観測した縦断野帳データを入力する場合に、分割観測入力ページを追加(同路線名)します。クリックするごとに入力ページが作成され、1路線につき5観測まで追加できます。野帳データの入力方法は、通常の第1観測での入力と全く同じです。
[分割観測]-[削除]	[縦断野帳]ステージで表示されている分割観測を削除します。このコマンドは、分割観測のデータが入力されている場合のみ有効です。
[成果作成]	入力した縦断野帳データより、縦断成果データ(現況データ)を作成します。補正配分方法、往復平均方法は、[縦断条件]ステージの[野帳計算]の[補正配分方法][往復平均方法]で設定します。

[路線]	<p>[縦断条件]ステージの杭下観測順、[縦断野帳]ステージ-[縦断野帳]タブ-[縦断野帳]グループ-[初期条件]の観測(往復観測か往路観測か)、観測方向の設定で、路線データを読み込みます。観測データを分割して入力することもできます。</p> <p>ただし、分割できるのは5つまでです。読み込んだ場合、既存のデータは無くなりますので注意してください(新規作業データを開いてください)。</p> <p>また、[縦断野帳]ステージのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。[セル]タブ-[セル]グループ-[項目設定]-[テンプレート管理]で、[レベルモード][Tsモード][Tdモード]のいずれかを選択します。</p>
[電子野帳]	[縦断野帳]ステージ-[縦断野帳]タブ-[データ読み込み]グループ-[路線]で路線データを読み込んだ後に、電子野帳データを読み込みます。
[電子レベル]	《電子レベル取込》で電子レベルやデータコレクタから取り込んだレベルデータを読み込み、縦断野帳データにします。
[X-FIELD縦断観測]	X-FIELDの縦断観測データを取り込みます。
[縦断観測SIMA]	本プログラムや他プログラムで作成した縦断観測SIMAデータ(バージョン03)を《縦横断測量》の縦断観測データに読み込みます。
[JEC縦断観測]	JECの縦断観測データ(*.58)を《縦横断測量》の縦断野帳データに読み込みます。
[CIMPHONY連携]	CIMPHONY上に保存されている作業データ(観測)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能)
[縦断観測SIMA]	《縦横断測量》で作成した縦断観測データを、縦断観測SIMAデータ(バージョン03)に変換します。
[縦断現況]タブ	
[3次元座標から現況作成]	<p>《座標管理》の登録座標を抽出して縦横断の現況データを作成します。縦断現況は4000点、横断現況は断面片側3000点まで抽出可能です。</p> <p>縦断現況データは、点名、単距離、追加距離、地盤高に取り込みます。</p> <p>横断現況データは、[横断条件]:断面名、地盤高、XY座標、横断方向角、[横断現況]:測点名称、距離、地盤高、XY座標に取り込みます。ただし、横断方向角は、縦断・横断現況点を単純に折点として結んだ時の横断方向角を計算しています。クローンなどの曲線要素情報も含めて、計算はしていませんので、実際の横断方向角とは異なる場合があります。</p>
[データ読み込み]-[路線データ]	《路線測量》のデータから、センター測点とその単距離、実追加距離、追加距離、曲線要素(縦横断計画に連動)を読み込みます。予め《路線測量》で標高計算対象のデータを《CAD》から取り込んで路線計画を作成している場合は、標高から概算の地盤高を計算して読み込むことが可能です。
[データ読み込み]-[縦横断SIMA]	本プログラムや他プログラムで作成した縦横断SIMAデータを《縦横断測量》の成果データに読み込みます。
[データ読み込み]-[縦断アスキー]	他のプログラムで作成した縦横断アスキーデータを縦横断成果データに変換し、開いている現場の《縦横断測量》の[縦断現況]ウィンドウに読み込みます。《縦横断測量》の[縦断現況]ステージにすでに成果データが入力されている場合、既存のデータは消去されますのでご注意ください。
[データ書き込み]-[縦横断SIMA]	《縦横断測量》で作成した縦断・横断成果データを、縦横断SIMAデータに変換します。
[データ書き込み]-[縦断アスキー]	現在開いている《縦横断測量》の[縦断現況]ステージに入力されている縦断・横断成果データを縦断アスキーまたは横断アスキーに変換します。縦横断SIMAとは異なり、1つのファイルにすることはできません。

[電子納品]－[縦断成果テキスト出力]	電子納品用縦断成果データを出力します。電子納品用縦断成果データは作業データに1つだけ保持し《測量計算・図面データビューアー》で利用できます。複数作成できません。 ※《測量計算・図面データビューアー》：弊社の《電子納品ツール》で利用できる機能です。 現場ファイルを指定して、現場データ内に保持した数値データや計算書、図面等の成果データを直接閲覧でき、電子納品データとしての登録が可能です。
[電子納品]－[横断成果テキスト出力]	電子納品用横断成果データを出力します。電子納品用横断成果データは作業データに1つだけ保持し《測量計算・図面データビューアー》で利用できます。複数作成できません。 ※《測量計算・図面データビューアー》：弊社の《電子納品ツール》で利用できる機能です。 現場ファイル(*.btw)を指定して、現場データ内に保持した数値データや計算書、図面等の成果データを直接閲覧でき、電子納品データとしての登録が可能です。
[電子納品]－[成果テキストプレビュー]	電子納品用成果データを確認します。
[登録]	縦断現況点の成果(地盤高)または横断現況点の成果(地盤高)を、Z座標として登録します。縦断現況点の成果(地盤高)は、[点種類](新点、登録点A、登録点B)によって登録します。 横断現況点の成果(地盤高)は、断面単位で[新点モード](新点モード、既知点モード)によって登録します。
[縦断計画]タブ	
[横断表示]	横断現況線と計画線の形状を表示するダイアログの表示、非表示を切り替えます。
[計画入力CAD]	縦断計画データを、縦断計画CADに対してマウスクリックで入力します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[変化点挿入]－[変化点挿入]	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、計画点を任意位置に挿入追加します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、挿入後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[変化点挿入]－[変化点追加]	入力済みの縦断計画データ(最終計画点)に対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、計画点を追加します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、マウス入力確定後の[縦断計画]ステージで入力、訂正します。データがないときは[計画入力CAD]と同様の操作となります。
[変化点挿入]－[変化点削除]	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、計画点を削除します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、削除後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[変化点移動]－[フリー]	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、計画点を任意の位置へ移動します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、移動後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[変化点移動]－[計画点を線上移動]	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、前点または後点からの勾配は一定のまま、縦断計画点の追加距離と標高を変更します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、移動後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[変化点移動]－[計画点を上下移動]	入力済みの縦断計画データに対し、縦断計画CAD上でマウスクリックにより、追加距離は一定のまま、縦断計画点の標高のみを変更します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、移動後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。

[変化点移動]－[計画線を上下移動]	縦断計画CAD上でマウスを使用し、追加距離と勾配は一定のまま2点同時に標高を変更します。計画データの細かい設定や縦断曲線(VCL、R)は、移動後に編集可能になる[縦断計画]ステージで入力、訂正します。
[成果位置の計画高]	縦断計画高の計算内容を表示します。表示内容を印刷するには、[計算書作成]で縦断計画高計算書を作成します。
[縦断スタイル]	縦断計画スタイルの登録、読み込みを行います。CADからの計画入力を行う前に縦断スタイルを読み込むと、縦断曲線長などを自動入力できます。
[曲線・拡幅・片勾配]タブ	
[表示設定]	[曲線・拡幅・片勾配]ステージに表示する測点を設定します。
[曲線要素入力]	曲線要素のデータを入力・編集・削除します。《路線測量》のデータを読み込んでいる場合は、すでに曲線要素が入力されています。
[拡幅計算]	拡幅データ入力の設定を行い、指定したIPNoの拡幅計算を行います。拡幅は、[曲線・拡幅・片勾配]タブ－[曲線・拡幅・片勾配]グループ－[スタイル]－[拡幅スタイル]で設定した値をもとに自動計算(手調整可能)されます。
[片勾配計算]	片勾配データ入力の設定を行い、指定IPNoの片勾配計算を行います。片勾配は、[曲線・拡幅・片勾配]タブ－[曲線・拡幅・片勾配]グループ－[スタイル]－[片勾配スタイル]で設定した値をもとに自動計算(手調整可能)されます。
[スタイル]－[拡幅スタイル]	拡幅計算条件スタイルの設定、登録を行います。単曲線半径に対する1車線あたりの拡幅量を元に、線形要素の組み合わせの違いによるすりつけ長を決定します。 拡幅スタイルを設定後、続けて拡幅計算を行うこともできます。 このコマンドで拡幅計算を行わない場合は、[曲線・拡幅・片勾配]タブ－[曲線・拡幅・片勾配]グループ－[拡幅計算]で拡幅スタイルを反映させる必要があります。
[スタイル]－[片勾配スタイル]	片勾配スタイルの設定、登録を行います。片勾配スタイルを設定後、続けて片勾配計算を行うこともできます。このコマンドで片勾配計算を行わない場合は、[曲線・拡幅・片勾配]タブ－[曲線・拡幅・片勾配]グループ－[片勾配計算]で片勾配スタイルを反映させる必要があります。
[拡幅個別入力]	拡幅データを個別に入力します。
[片勾配個別入力]	片勾配データを個別に入力します。
[成果位置の値]	縦断成果データの拡幅・片勾配を表示します。表示内容を印刷するには、[計算書作成]で拡幅計算書、片勾配計算書を作成します。
[横断条件]タブ	
[表示条件]－[表示条件]	横断プロットに表示する横断野帳、現況、計画、土量データの形状表示に関する設定を行います。
[表示条件]－[土質名称設定]	詳細土量計算で使用する土質の名称を設定します。名称は5種類まで設定できます。
[表示条件]－[縦断センター名連動]	縦断センター名を横断断面名に連動します。
[前断面]	1つ前の断面に切り替えます。
[次断面]	次の断面に切り替えます。
[断面選択]	表示する断面を選択します。
[新規断面]	新規断面を表示します。
[断面複写]	現在開いている横断成果データを別断面に複写します。複数の断面に複写することもできます。

[断面削除]	横断面のデータを削除します。野帳データ、成果データ、横断計画データのみを削除することもできます。
[横断野帳]タブ	
[構造物]－[入力]	[横断野帳][横断現況][横断計画]ステージで構造物を入力します。
[構造物]－[訂正]	構造物の属性を変更します。
[構造物]－[削除]	構造物を削除します。
[特殊線]－[入力]	特殊線を入力します。特殊線は、線の外側の点(終了点)を指定して入力します。横断では、特殊線は被覆、ブロック、石積み、露岩などを入力するのに有効です。下記の解説図は、[土地利用等]の[コンクリート被覆]を入力した例です。
[特殊線]－[削除]	[横断共通]グループ－[特殊線]－[入力]で入力した特殊線を削除します。
[特殊記号]－[入力]	特殊記号を入力します。特殊記号は、その記号を出す点と方向を指定して入力します。横断では、特殊記号は家や塀・フェンスを入力するのに有効です。下記の解説図は、[家]の[家1]を入力した例です。
[特殊記号]－[削除]	[横断共通]グループ－[特殊記号]－[入力]で入力した特殊記号を削除します。
[リンク]	点に写真をリンク付けします。
[初期条件]	横断野帳データを入力するための初期条件を設定します。 [横断野帳]ステージのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。 [セル]タブ－[セル]グループ－[項目設定]－[テンプレート管理]から、[レベル+ポール][トランシットTs+ポール][トランシットTd+ポール]のいずれかを選択します。(初期状態は[トランシットTs+ポール])また、センター上に「直上がり」や「直下がり」のデータがある場合、すなわち真センター上に複数の現況点がある場合は、次の条件で入力する場合にのみ横断成果が正常に作成されます。 ・真センターの「地盤高」が入力されていること。 ・第1観測のみであること。(分割観測追加を行っていないこと) ・シフト量がない(空欄か0.0になっている)こと。 ・入力方法が「左右別々」であること。 前記の条件のうちで1つでも満たされない場合は、横断成果の形状が異なってきますのでご注意ください。
[分割観測]－[追加]	横断面の分割観測(同断面を複数に分けて観測)を行った場合に、分割観測入力ページを追加(同断面名)します。 クリックするごとに入力ページが作成され、1断面につき9観測まで追加できます。 [横断条件]ステージの[断面名][センター]の各設定が、分割観測のセンター条件となります。第1観測の(真)センターよりシフト量を入力したところを分割観測のセンターとします。 同様に、分割観測センターの杭高と地盤高、入力方法(左右別、左右同時)も、[初期条件]で設定します。野帳データの入力方法は、通常第1観測での入力と全く同じです。
[分割観測]－[削除]	[横断野帳]ステージで表示されている分割観測を削除します。このコマンドは、分割観測のデータが入力されている場合のみ有効です。
[成果作成]	[横断野帳]に入力した横断野帳データより、横断成果データ(横断現況)を作成します。
[成果一括作成]	選択した断面の横断成果データ(横断現況)を、一括して作成します。
[電子野帳]－[電子野帳一括]	《電子野帳取込》で電子野帳から取り込んだデータを、横断野帳データに取り込みます。[横断野帳]ステージのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。[セル]タブ－[セル]グループ－[項目設定]－[テンプレート管理]で、観測に合ったテンプレートを選択します。

[電子野帳]－[電子野帳追加]	《電子野帳取込》で電子野帳から取り込んだデータから、選択した断面を横断野帳データに追加します。さらに、[横断野帳]ステージのセル状態を作業に合わせることをお勧めします。[セル]タブ－[セル]グループ－[項目設定]－[テンプレート管理]で、観測に合ったテンプレートを選択します。
[電子野帳]－[電子レベル]	《電子レベル取込》で電子レベルやデータコレクタから取り込んだレベルデータを読み込み、横断野帳データにします。
[X-FIELD横断観測]－[X-FIELD横断観測]	X-FIELDの横断観測データを取り込みます。イメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
[X-FIELD横断観測]－[XYCLONE横断観測]	《XYCLONE》《Fieldcom》の横断観測データを取り込みます。イメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
[X-FIELD横断観測]－[POCKET横断野帳]	《POCKET》(ハンディ観測システム)の横断観測データを取り込みます。POCKETでイメージ(手書きメモ)データが入力されている場合は、イメージデータもCADに取り込まれます。
[横断観測SIMA]	横断観測SIMAデータ(バージョン04)を横断野帳データに取り込みます。常に新規断面を作成し、入力方法には左右同時を適用します。
[JEC横断観測]	JECの横断観測データ(*.57)を《縦横断測量》の横断野帳データに読み込みます。
[CIMPHONY]	CIMPHONY上に保存されている作業データ(観測)を取り込みます。(ダウンロードのみ可能)※オプションサービスが必要です。
[横断現況]タブ	
[断面設定]－[断面設定]	既に現況点として平面座標と地盤高がわかっている点を用いて横断成果を作成する場合に、このコマンドで断面を設定します(横断測量を行わずに横断成果を作成することが可能)。
[断面設定]－[センター地層線]	センター地層線の深さを設定します。
[水位線入力]	水位線を入力します。
[平行移動量一括]	各断面毎に移動量を指定して横断現況センターを平行移動します。
[現場プロット]	現場プロットの表示/非表示を切り替えます。
[測点並べ替え]－[距離で並べ替え]	指定した断面の左右に関して距離で並べ替えを行います。このコマンドは、左右同時観測で左右交互(順不同)に電子野帳で観測してきたデータを取り込み、成果作成を行ってから、距離で並べ替える場合に有効です。
[測点並べ替え]－[CADで指定して並べ替え]	CADで指定した順番に、測点を並べ替えます。[横断野帳]ステージの順番には影響しません。
[CAD数値化]	CADデータを数値化し横断現況データ・横断計画データを算出します。
[縦横断作業データ]	他の《縦横断測量》作業データから、横断データ(野帳・現況・計画)を取り込みます。
[横断計画]タブ	
[計画一括訂正]	横断計画データを一括して訂正します。
[計画設定]－[計画線名称設定]	計画線の名称を設定します。
[計画設定]－[舗装区分名称設定]	舗装区分の名称を設定します。
[計画設定]－[法面部設定]	法面部、法面部その他を作成する条件を設定します。
[計画設定]－[測点スタイル]	横断計画点の測点スタイルを設定します。

[任意舗装]-[入力]	道路部以外(道路部その他、法面部、法面部その他)を入力します。横断計画では、舗装部のデータは次の2つに分けられます。・道路部の舗装データ・道路部以外の任意舗装データ「道路部の舗装データ」は、[横断計画]ステージの[断面形状選択]で[道路部]、[詳細]で[舗装部]を選択して入力します。分離帯部には舗装データを入力できません。
[任意舗装]-[訂正]	[横断計画]タブ-[横断計画]グループ-[任意舗装]-[入力]で入力した任意舗装データを訂正します。
[任意舗装]-[一括設定]	断面を指定して、道路部その他の全範囲に任意舗装データを一括設定します。
[標高算出点]-[入力]	各断面に標高算出点を設定します。各断面の指定した標高算出点を結線し、横断から縦断計画線を作成することができます。[横断計画]で、標高算出点を設定することもできますが、この場合は1断面ごとに設定する必要があります。[標準断面]にあらかじめ入力しておく、複数の断面に一度に読み込めるので便利です。
[標高算出点]-[削除]	[横断計画]タブ-[横断計画]グループ-[標高算出点]-[入力]で設定した標高算出点を削除します。
[巾杭算出点]-[入力]	横断成果と横断計画まで入力済みの縦横断測量データに「巾杭算出点」を入力します。横断計画点を「巾杭算出点」に指定し、《路線測量》の[巾杭]ステージ[巾杭]タブ-[データ入力]グループ-[縦横断データ読み込み]で縦横断データを読み込むと、巾杭算出点を路線巾杭データにできます。[横断計画]で、巾杭算出点を設定することもできますが、この場合は1断面ごとに設定する必要があります。[標準断面]にあらかじめ入力しておく、複数の断面に一度に読み込めるので便利です。
[巾杭算出点]-[削除]	[横断計画]タブ-[横断計画]グループ-[巾杭算出点]-[入力]で設定した巾杭算出点を削除します。
[路肩高算出点]-[入力]	路肩高算出点を入力します。設定できる点は、断面形状が道路部の点のみです。
[路肩高算出点]-[削除]	[横断計画]タブ-[横断計画]グループ-[路肩高算出点]-[入力]で設定した路肩高算出点を削除します。
[寸法線]-[入力]	横断寸法線のデータを入力します。横断図面で寸法線を描画するには、本コマンドであらかじめ設定しておく必要があります。
[寸法線]-[削除]	[横断計画]タブ-[横断計画]グループ-[寸法線]-[入力]で設定された横断寸法線を削除します。
[寸法線]-[勾配]	計画点間勾配値と法長(長さ)を表示します。横断図面で各計画線の勾配や長さ(法長)を描画するには、本コマンドであらかじめ設定しておく必要があります。
[巾杭設置]	現況交点からの余裕巾を設定し巾杭を入力します。巾杭は2つまで登録できます。
[面積算出]-[領域選択]	閉合領域を指定して面積を算出します。
[面積算出]-[多角形指定]	範囲を指定して面積を算出します。
[長さ算出]	指定点間の長さを算出します。
[変化点情報]	横断計画CAD上の横断計画点(変化点)をクリックし、その点の計画高や地盤高などの点情報を表示します。
[計画点登録]	横断計画点を《座標管理》に登録します。
[TREND-POINT]-[連携開始]	《縦横断測量》とTREND-POINTで連携を開始します。連携を開始するには、TREND-POINTが起動している必要があります。
[TREND-POINT]-[連携終了]	《縦横断測量》とTREND-POINTの連携を終了します。
[TREND-POINT]-[横断計画の確認]	TREND-ONEからTREND-POINTに、横断計画の設計面を送信します。

[詳細土量]タブ	
[土量一括計算]	詳細土量の計算条件を設定して、土量計算を行います。ただし地層線は考慮されず第1層に計上されますので、層が2層以上ある場合は、[詳細土量]タブ-[詳細土量]グループ-[面積]-[領域選択入力]、[詳細土量]タブ-[詳細土量]グループ-[法長]-[入力]で入力直してください。 また[床掘り][埋戻し]も自動では計算されないので、[詳細土量]タブ-[詳細土量]グループ-[面積]-[領域選択入力]で手入力してください。
[土量設定]-[丸めの設定]	詳細土量計算を行う場合の丸めを設定します。ここで設定する丸めは、[詳細土量]ステージ、土量計算書、法面積計算書、《CAD》の横断図の求積表で使用します。
[土量設定]-[土工名称設定]	切土、盛土、床掘・埋戻、法面の名称を設定します。
[土量設定]-[切土工設定]	切土工の計算条件を設定して、切土工のみ再計算します。再計算の対象となるのは、選択されて横断プロットに表示されている断面のみです。ここで設定した計算条件は、断面ごとに保持されます。 ただし、地層線は考慮されず第1層に計上されますので、層が2層以上ある場合は、手動選択で土工量計算を行ってください。
[土量設定]-[盛土工設定]	盛土工の計算条件を設定して、盛土工のみ再計算します。再計算の対象となるのは、選択されて横断プロットに表示されている断面のみです。ここで設定した計算条件は、断面ごとに保持されます。 ただし、地層線は考慮されず、数量はすべて第1層に格納されます。層が2層以上ある場合は、手動選択で土工量計算を行ってください。
[面積]-[領域選択入力]	閉合領域に、切土、盛土、床掘・埋戻を入力します。コマンドを実行してから、入力する項目を選択することもできますが、ここでは[詳細土量]ステージで面積を入力する項目の[面積]セルをクリックしてから、コマンドを実行する例で解説します。操作方法は切土で解説します。盛土、床掘・埋戻は土工タイプを変更して同様の操作を行ってください。
[面積]-[多角形指定入力]	指定領域に、切土、盛土、床掘・埋戻を入力します。コマンドを実行してから、入力する項目を選択することもできますが、ここでは[詳細土量]ステージで面積を入力する項目の[面積]セルをクリックしてから、コマンドを実行する例で解説します。操作方法は切土で解説します。盛土、床掘・埋戻は土工タイプを変更して同様の操作を行ってください。
[面積]-[削除]	すでに入力されている切土、盛土、床掘・埋戻を削除します。
[法長]-[入力]	刈払長、切土法長、盛土法長を入力します。コマンドを実行してから、入力する項目を選択することもできますが、ここでは[詳細土量]ステージで長さを入力する項目の[長さ]セルをクリックしてから、コマンドを実行する例で解説します。
[法長]-[削除]	すでに入力されている法長を削除します。
[段切り]-[入力]	現況地盤線に対して段切りを入力します。入力した段切りの面積は、[切土]の[段切り]の[面積]セルに追加されます。
[段切り]-[削除]	すでに入力されている段切りを削除します。
[厚み]-[入力]	表土剥ぎ、または土羽土の厚みを入力します。入力した厚みの面積は[切土]の[表土剥ぎ]、または[盛土]の[土羽土]の[面積]セルに追加されます。
[厚み]-[削除]	すでに入力されている表土剥ぎ、または土羽土の厚みを削除します。
[区別線]-[機械人力区別線入力]	機械・人力区別線を入力します。機械・人力区別線は、計画線、地山に囲まれた切土領域に入力します。入力できる機械・人力区別線は、1線のみです。
[区別線]-[土工区分線領域選択入力]	指定した閉合領域に土工区分線を入力します。
[区別線]-[土工区分線多角形指定入力]	指定領域に土工区分線を入力します。

[区別線]-[土工区分線削除]	土工区分線を指定して削除します。
[補助線]-[入力]	補助線を入力します。土量の区分を選択する場合の領域の境や、舗装などで掘削を伴う場合に掘削線として使用します。
[補助線]-[削除]	すでに入力されている補助線を削除します。
[補助線]-[整合]	補助線を整合します。
[土量の削除]	指定した断面に入力されている土工量を全て削除します。

土量計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[計算条件]	前測点からの距離、断面積、体積などの丸めや係数に関する項目を設定します。設定内容は、《土量計算》にのみ有効です。
[横断データ読み込み]	成果および計画データ入力までおこなった縦横断データを読み込みます。
[計算書作成]	すでに入力されているデータより土量計算をおこない、土量計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[土量計算]で作成または変更することができます。

座標変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	すでに登録されている座標の中の指定した座標について、座標変換をおこないます。
[計算書作成]	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[座標変換]の[座標変換1][座標変換2][座標系の統一]で作成または変更することができます。
[登録]	座標変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

座標変換(BL)のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	すでに登録されている座標のBL変換条件を変更します。旧座標系(現在登録されている座標系)、新座標系(変換後の座標系)を設定して、緯度、経度より新しい座標系に変換します。
[計算書作成]	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[座標変換(BL)]で作成または変更することができます。
[登録]	座標変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番、点名で登録されます。

経緯度変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[初期設定]	入力した緯度、経度を変換して座標値を求める座標系を変更します。
[計算書作成]	座標変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[経緯度変換]で作成または変更することができます。
[登録]	座標変換後の座標を登録します。[点番][点名]に入力した点番点名で登録されます。変換後の座標を登録する丸めは、[共通]タブ-[設定]グループ-[条件設定]の[基本1]タブの[登録座標の丸め]で設定します。

面積調整変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[変換条件]	入力した地番(入力した座標で構成される多角形)の面積を希望の面積に変換する条件(調整面積、相似形への変換の基点)を設定します。
[計算書作成]	面積調整変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[面積調整変換]で作成または変更することができます。
[登録]	面積調整変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

ヘルマート変換のコマンド

[専用コマンド]タブ

[変換条件]	入力した変換元座標点(変換する点)、変換先座標点(変換の基準とする点)より計算された変換式の定数(a, b)、移動原点、伸縮率、回転角を確認します。伸縮率(移動原点から変換座標までの距離/原点から変換元座標までの距離)を1.0に変更することもできます。
[計算書作成]	ヘルマート変換された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[ヘルマート変換]で作成または変更することができます。
[登録]	ヘルマート変換後の座標を登録します。[登録点番][登録点名]に入力されている点番点名で登録されます。

座標変換(世界測地系)のコマンド

[専用コマンド]タブ

[会社名登録]	計算書の表紙に出力するユーザー様の会社名、プログラム管理者を登録します。登録した会社名、プログラム管理者は、検定フォーム([計算書作成]の[計算書グループ]で[検定フォーム]を選択)のプログラム管理者の欄に「会社名 プログラム管理者」として出力されます。
[座標変換]	日本測地系の座標を世界測地系の座標に変換します。
[計算書作成]	計算簿を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[座標変換(世界測地系)]で作成または変更することができます。
[登録]	世界測地系の座標を《座標管理》に登録します。プロットマークは変換元のプロットマークを使用して登録します。

座標補正(PatchJGD準拠)のコマンド

[PatchJGD補正]タブ

[会社名登録]	計算書に出力する会社名を登録します。
[座標補正]	国土地理院のパラメータファイル(*.par)を使用して、座標を補正します。パラメータファイルは、国土地理院のホームページよりダウンロードできます。
[成果数値データ]	補正によって作成された成果数値データを、成果数値データファイル標準様式に沿ったテキストファイルに変換します。
[計算書作成]	座標補正された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[座標補正(PatchJGD準拠)]で作成または変更することができます。
[登録]	補正後の座標を登録します。[補正後点番][補正後点名]に入力されている点番、点名で登録されます。プロットマークは補正元のプロットマークを使用します。

[点検(座標)]タブ	
[作業情報]	計算書に出力する作業情報を設定します。
[PatchJGD補正結果]	[PatchJGD補正]ステージでの補正結果を参照して、データを入力します。
[登録済み座標]	《座標管理》に登録済みの座標を参照して、データを入力します。
[PatchJGD補正対象地番の構成辺取込み]	[PatchJGD補正]ステージの補正元点を使用している地番構成辺をすべて取り込みます。※参照先が、[PatchJGD補正結果]のときに有効です。
[点検(面積)]タブ	
[PatchJGD補正結果]	[PatchJGD補正]ステージでの補正結果を参照して、データを入力します。
[登録済み地番]	《地番管理》に登録済みの地番を参照して、データを入力します。
[PatchJGD補正対象地番を取込み]	[PatchJGD補正]ステージの補正元点を構成点とする地番をすべて取り込みます。※参照先が、[PatchJGD補正結果]のときに有効です。
精度管理表(距離)のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[初期設定]	計算タイプおよび作業情報を設定します。ここで入力した計算タイプにしたがって、計算をおこない精度管理表を作成します。ここで入力した作業情報は、精度管理表に印刷されます。
[入力モード]	測点を入力するモード(標準、開放、放射)を設定します。
[放射検索]	測点1からの距離、点数、ワイルドカードを指定して測点2を放射検索し入力します。このコマンドは開放モード、放射モードで測点2を入力する場合のみ有効です。
[距離補正パラメータ入力]	距離補正に関して設定します。
[対辺測定観測]	トータルステーションで観測した対辺測定観測データを取り込みます。拡張子は、TOPCON(*.O2T)、SOKKIA(*.crd)、Trimble(*.34)になります。
[電子野帳取込みから実測値設定]	測点名1、測点名2がセットされていて実測値が未入力の場合に、《電子野帳取込》の作業データから実測値を取り込みます。※[初期設定]の計算タイプが[街区基準点点検][細部図根測量][一筆地測量][標高]以外のときに有効です。
[計算書作成]	入力したデータ(測点1、測点2、実測値、区分)をもとに、指定した計算タイプで精度管理表(距離)を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[精度管理表(距離)]で作成または変更することができます。
精度管理表(世界測地系)のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[初期設定]	精度管理表作成に必要な初期項目を設定します。
[旧座標]	現場ファイルを指定し、精度管理表を作成する日本測地系の座標点を選択します。
偏心補正計算のコマンド	
[専用コマンド]タブ	
[計算書作成]	偏心補正された結果をもとに、計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[偏心補正計算]で作成または変更することができます。

座標地番アスキーのコマンド

[座標出力]タブ

[フォーマット]	アスキーデータのフォーマットの項目を編集します。フォーマットは座標部、地番部、地番構成点部に分かれています。
[フリーフォーマット]	座標と地番データを設定したフォーマットで出力します。出力形式は、TXT、CSV形式です。フォーマットは[設定]グループ-[フォーマット]で設定します。
[タイプJ座標]	座標データをタイプJのアスキーデータに変換して出力します(アスキーテキストファイルとして保存します)。

[地番出力]タブ

[タイプJ地番]	地番データをタイプJのアスキーデータに変換して出力します(アスキーテキストファイルとして保存します)。
----------	---

[取込み]タブ

[フリーフォーマット]	座標、地番のデータを読み込みます。ファイル形式は、TXT、CSV形式です。読み込む前に、[設定]グループ-[フォーマット]でフォーマットを設定します。
[タイプJ座標]	タイプJの座標のアスキーデータを読み込みます。
[タイプJ地番]	タイプJの地番のアスキーデータを読み込みます。

太陽による方向角計算のコマンド

[専用コマンド]タブ

[計算条件]	太陽による方向角の計算条件(原点経度、観測点の緯度、経度など)を確認または変更します。
[丸め]	角度、時刻を入力または計算するときの単位、小数点の値を計算するときの小数点以下の桁数を設定します。丸めの方法は四捨五入です。
[観測データ入力]	観測データより、輪郭、観測時刻、測角を求めて入力します。
[計算書作成]	入力したデータをもとに、方向角を計算して手簿計算書を作成します。観測データを入力したときは、観測計算書を作成することもできます。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[太陽による方向角計算]で作成または変更することができます。

舗装展開図のコマンド

[舗装展開図]タブ

[初期条件]	初期条件として、路線名、データの入力方法、初点追加距離を設定します。さらにNo杭を自動作成するときは、No杭のピッチ、初点杭No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。新規に作業データを作成したときは、このコマンドが自動的に選択されます。
[表示条件]	舗装展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。
[測点スタイル]	測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点No][+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。[測点名]セルに入力があるときは、その入力値が優先的に表示されます。
[ブロック選択]	ブロックを追加・削除、または、データを別のブロックに切り替えます。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物を幅員データに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。控除する構造物がない場合には入力する必要はありません。

[路線・縦横断データ読み込み]	幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。測点名、追加距離、単距離にデータが連動します。また[舗装展開図]タブ-[条件]グループ-[初期条件]の[No杭ピッチ][初点情報]も連動します。縦横断測量データに横断計画が入力されていた場合には、一番上層の舗装の断面データを、設計値の各幅員データにも連動させることも可能です。ただし、控除部を連動させたいときは、[入力方法]で[左右幅員]を選択します。その他の入力方法では控除部は入力できません。
[面積確認]	幅員データより左右の車道、路肩別に面積を算出して表示します。
[設計値取込み]	設計値のデータを実測値に取り込みます。
[実測値取込み]	実測値のデータを設計値に取り込みます。
[丸め設定]	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
[計算書作成]	幅員データ・3辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[舗装展開図][簡易舗装展開図][法面展開図]で作成または変更することができます。
[3辺展開図]タブ	
[表示条件]	プロット画面上の3辺データの表示に関する設定を行います。
[ブロック選択]	ブロック(3辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物を3辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。
[面積確認]	3辺データより面積を算出して表示します。計算に使用される丸めは、[3辺展開図]タブ-[丸め]グループ-[丸め設定]で設定します。
[回転指定]	展開図プロット上の3辺データ図を2点指定で回転します。
[直線化]	展開図プロット上の3辺データ図の直線化補正をおこないます。測点値の誤差の積み重ねにより本来直線の形状が折れ曲がってしまう場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ直線化を行うのに有効です。
[頂点移動]	展開図プロット上の3辺データ図の頂点移動補正をおこないます。測点値の誤差の積み重ねにより本来同一辺を共有する箇所が別の線になり重なったり、離れたりする場合があります。そのような場合に入力値は変更せず、図化イメージのみ頂点の移動をおこなうのに有効です。
簡易舗装展開図のコマンド	
[簡易舗装展開図]タブ	
[初期条件]	初期条件として、路線名、初点追加距離を設定します。さらにNo杭を自動作成するときは、No杭のピッチ、初点杭No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。新規に作業データを作成したときは、このコマンドが自動的に選択されます。
[表示条件]	簡易舗装展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。
[測点スタイル]	測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点No][+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。[測点名]セルに入力があるときは、その入力値が優先的に表示されます。
[ブロック選択]	ブロックを追加・削除、または、データを別のブロックに切り替えます。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物を幅員データに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。
[路線・縦横断データ読み込み]	幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。測点名、追加距離、単距離にデータが連動します。また、[簡易舗装展開図]タブ-[条件]グループ-[初期条件]の[No杭ピッチ]、[初点情報]も連動します。[接続基準点]には、全て「センター」がセットされます。

[面積確認]	幅員データより車道部の面積を算出して表示します。
法面展開図のコマンド	
[法面展開図]タブ	
[初期条件]	初期条件として、路線名、法面種別(切土法面、盛土法面)、初点追加距離、初点起点標高値を設定します。さらにNo杭を自動作成するときは、No杭のピッチ、初点杭No+L、マイナス測点の表示方法を設定します。なお、新規に作業データを作成したときは、このコマンドが自動的に選択されます。
[表示条件]	法面展開図プロット上の幅員データの表示に関する設定を行います。
[法面名称設定]	[法長1]～[法長5]、[小段1]～[小段4]セルで入力した法面と小段の名称を設定します。入力された名称は、計算書、求積表の法面名称、小段名称として使用されます。
[測点スタイル]	測点名称は、[測点名]セルに何も入力されていないとき[測点No][+L]で作成されます。そのときの測点名称のスタイルを設定します。[測点名]セルに入力があるときは、その入力値が優先的に表示されます。
[ブロック選択]	ブロックを追加・削除、またはデータを別のブロックに切り替えます。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物を幅員データの各法面、小段に入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。
[路線・縦横断データ読み込み]	幅員データに、路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。測点名、測点No、+L、追加距離、単距離にデータが連動します。また、[法面展開図]タブ-[条件]グループ-[初期条件]の[No杭ピッチ]、[初点情報]も連動します。縦横断測量データに横断計画が入力されていた場合には、設計値の各幅員データに連動させることも可能です。
[設計・施工管理データ読み込み]	幅員データに、設計・施工管理データを読み込みます。測点名、測点No、+L、追加距離、単距離、起点標高、法長、小段にデータが連動します。また、[法面展開図]タブ-[条件]グループ-[初期条件]の[No杭ピッチ][初点情報][初点起点標高値]も連動します。
[面積確認]	幅員データより各法面、小段ごとの面積を算出して表示します。
斜面積展開図のコマンド	
[斜面積展開図]タブ	
[表示条件]	プロット画面上の三斜データの表示に関する設定を行います。
[三斜自動]	範囲線を指定して、三斜データを自動で作成します。
[三斜線変更]	斜面積展開図プロット上の三斜線を変更します。分割辺、範囲線は対象外です。三斜線を変更は、2つの隣接している三斜の区切り線を、残りの2つの構成点同士が結ばれるような区切り線にします。
[分割辺指定]	周囲を全て三角形で囲まれている測点に対して分割辺を指定します。1測点につき、必ず1つ分割辺を指定します。
[分割辺自動]	周囲を全て三角形で囲まれている測点に対して分割辺を自動で指定します。
[符号順自動]	符号順番を設定します。
[ブロック選択]	ブロック(三辺データ)を追加・削除、または、表示を別のブロックに切り替えます。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物を三辺データに入力します。構造物の面積は控除(引き算)されます。
[面積確認]	現在入力しているブロックの三辺データより面積を算出して表示します。

[丸め設定]	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
[平面展開図]	三辺データの作成方法を平面展開図にします。
[投影図]	三辺データの作成方法を投影図にします。
[計算書作成]	三辺データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[斜面積展開図]で作成または変更することができます。
擁壁展開図のコマンド	
[擁壁展開図]タブ	
[初期条件]	初期条件として、路線名、擁壁高入力の基準位置、初点起点標高などを設定します。新規に作業データを作成したときは、このコマンドが自動的に選択されます。
[表示条件]	擁壁展開図プロット上のデータの表示に関する設定を行います。
[構造物入力]	マンホールや集水桝などの構造物をデータに入力します。入力した構造物の面積は控除(引き算)されます。
[路線・縦横断データ読み込み]	路線測量データまたは縦横断測量データを読み込みます。点名を[測点名]に、単距離を[上距離][下距離]に、設計値、実測値の両方に連動します。
[面積確認]	現在入力しているデータより面積を算出して表示します。
[設計値取込み]	設計値のデータを実測値に取り込みます。
[実測値取込み]	実測値のデータを設定値に取り込みます。
[丸め設定]	距離や面積計算などの、丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。
[計算書作成]	データをもとに計算書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[擁壁展開図]で作成または変更することができます。

登記用XML作成のコマンド

[専用コマンド]タブ	
[地積図]－[配置]	地積図を配置します。
[地積図]－[スタイル]	地積図を図面に表示するための作成条件を設定します。
[地積図]－[数値条件]	座標値、面積、距離などの丸めを設定します。また、距離、角度の計算に使用する座標値の丸めにも適用します。角度は1秒固定です。既存図面の数値条件を変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。[数値条件]にない丸めは、[共通]タブ－[設定]グループ－[条件設定]の設定から取得します。
[各階平面図]－[配置]	各階平面図を配置します。
[各階平面図]－[スタイル]	各階平面図を図面に表示するための作成条件を設定します。既存図面のスタイルを変更した場合、レイヤ単位で自動再作成します。
[データ読み込み]－[土地XML]	XML形式のデータを読み込みます。
[データ書き込み]－[土地XML]	データをXML形式に変換してファイルに書き込みます。
[データ書き込み]－[建物XML]	データをXML形式に変換してファイルに書き込みます。
[汎用コマンド]タブ	
[塗潰し]	塗り潰しを入力します。固定レイヤ(塗潰し(白)・塗潰し(黒))にそれぞれ入ります。
[申請文字]	申請書を作成する際に必要な項目を設定して図面に出力します。コマンド実行時は、強制的に座標系モードが測量系に切り替わります。固定レイヤ(申請書)に入ります。
[申請文字一括]	地積枠と申請情報を一括配置します。
[方位]	方位マークを入力します。方位マークは、規定されている1種類のみです。固定レイヤ(方位マーク)に入ります。
[座標登録]	任意位置から座標値を抽出し《座標管理》に座標を登録します。
[文字自動編集]	辺長や文字に重なっている文字列を自動で移動します。
[設定・表示]タブ	
[基本設定]	基本項目を設定します。
[システムカラー設定]	CAD画面の配色を設定します。
[値設定]	図面上において、座標値を入力、または距離、面積、寸法などの値を表示するときの丸め、角度の表示方法を設定します。
[グリッド設定]	図面全体に表示するグリッドの間隔や角度などを設定します。
[ドラフト設定]	ドラフトを設定します。
[表示色設定]	レイヤの表示色、レイヤ内のデータの表示・非表示を設定します。
[形状表示]	属性別の各階層毎に形状表示します。
[文字表示]	図面上の文字列を内容表示するか、文字列枠のみで表示するかを切り替えます。
[マークでマスクする]	マークをマスク処理している場合に有効です。マークに接続する線や円弧などは、その端部をマスクしなければならないが、マークを通過するだけの要素に対してはマスク処理したくない場合に、マークのマスク表示する(ON)、しない(OFF)を切り替えます。
[グリッド表示]	グリッドの表示、非表示を切り替えます。

法務省フォーマットファイル作成のコマンド

[地区情報]タブ

[データ読み込み]-[法務省フォーマット]	法務省フォーマットファイルを読み込みます。
[データ書き込み]-[法務省フォーマット]	データを法務省フォーマットの形式に変換してファイルに書き込みます。

[合併地番]タブ

[合筆地番の追加]	《地番管理》の[分筆元／合筆先]から情報を取得して、[合併地番]ステージに自動セットします。
-----------	--

[筆界未定]タブ

[筆界未定地の追加]	《地番管理》の[地籍地番情報]が筆界未定地の地番が、仮地番に入力されていない場合は追加します。また、仮地番Noおよび構成地番Noに入力されている地番を参照し、地番情報を《地番管理》から取得し更新します。
------------	---

14条調査表のコマンド

[専用コマンド]タブ

[地番管理連動]	地番管理の地目を14条調査表のどの項目に連動させるか設定します。
[地番入力]	地番入力時の動作を設定します。
[地積等調査一覧表連動]	14条調査表の項目を、地積等調査一覧表作成ツールのどの項目に連動させるか設定します。※「地積等調査一覧表」を選択した場合に有効です。
[地積等調査一覧表]	《地積等調査一覧表作成ツール》を起動して作成します。※「地積等調査一覧表」を選択した場合に有効です。
[計算書作成]	土地調査書を作成します。計算書のフォームは《フリーフォーマット作成》の[14条調査表]で作成または変更することができます。※「土地調査書」を選択した場合に有効です。